－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	英語で読む心理学A						
担当教員	董　潔					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P7304A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学系大学院入試の専門英語対策
授業の概要	大学院進学には英文での専門的文章がある程度読める能力が必要である。この授業では、心理学の基礎的な内容を英語で読むことを中心に進めていく。
到達目標	（１）大学院入試に必要な心理学について書かれた英語の長文を読んで理解できる【知識・理解】 （２）大学院入試に必要な心理学についての基礎的な知識について確認できる【知識・理解】
授業計画	1. オリエンテーション 2. 心理学のアプローチ 3. 心理学における問題 4. Cognitive psychology: origins of memory 5. Cognitive psychology: STM, LTM and duration 6. Cognitive psychology: nature of memory 7. Cognitive psychology: working memory 8. Developmental psychology: emotion & 中間テスト１ 9. Developmental psychology: attachment 10.Developmental psychology: Bowlby's theory 11.Developmental psychology: social development 12.Perception: Top down process &　中間テスト２ 13.Perception: Top down & Bottom up process 14.期末試験＆おさらい 15.前期授業についての質疑応答
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	英文で扱う内容は日本語で十分わかっていないと理解できない。よって、英文をただ機械的に訳す作業だけにとらわれず、扱われている内容を日本語で十分学習していくことが必須である。つまり、事前に日本語の概論書 などで当該の箇所を読んで理解しておくことが必要である。 授業前学習：概論書での学習、英語長文の翻訳作業（３時間以上）。 授業後学習：授業で指摘された点の復習等（１時間以上）。
授業方法	講義：各回の宿題（授業前学習）の内容に基づき、解説を行うとともに、ミニテストを実施。学生は課題についての疑問点等を質問する。
評価基準と評価方法	課題及びテスト（ミニテスト含む）（７０％）、授業態度（３０％） 課題及びテスト：授業での課題発表を総合的に評価する(到達目標（１）～（２）に関する到達度の確認）。 授業態度：授業でのディスカッションへの参加等を総合的に評価する（到達目標（１）～（２）に関する到達度の確認）。
履修上の注意	中間テスト、期末テストの他にミニテストを実施する。 日本語の概論書や用語集を用意すること。授業でカバーする部分に対応する日本語の書籍を読んでおくことが重要である。電子辞書は試験では使えない場合が多いため、授業の段階から紙の辞書を使うことを勧める。 英語で専門的な長文を講読する授業である。基礎的な高校、中学レベルの英文法に自信がない者は、事前にきちんと復習をしておく必要がある。
教科書	公認心理師・臨床心理士大学院対策 鉄則10&キーワード100 心理英語編（講談社） ISBN-10 : 4065124506 公認心理師・臨床心理士大学院対策 鉄則10&キーワード100 心理学編（講談社） ISBN-10 : 406512381X
参考書	公認心理師・臨床心理士　大学院対策　心理英語トレーニング（晶文社） ISBN-13　:　978-4794995360

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	英語で読む心理学B						
担当教員	董　潔					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P7304B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学系大学院入試の専門英語対策
授業の概要	大学院進学には英文での専門的文章がある程度読める能力が必要である。この授業では、心理学の基礎的な内容を英語で読むことを中心に進めていく。
到達目標	（１）大学院入試に必要な心理学について書かれた英語の長文を読んで理解できる【知識・理解】 （２）大学院入試に必要な心理学についての基礎的な知識について確認できる【知識・理解】
授業計画	1.オリエンテーション 2.Perception: Face recognition & Agnosia 3.Learning: Classical conditioning 4.Learning: Operant conditioning 5.Learning: Conditioning and behavior of animals 6.Social psychology: Conformity 7.中間テスト１及びおさらい 8.Social psychology: Criticism and evaluation of conformity studies 9.Social psychology: Obedience to authority 10.中間テスト２及びおさらい 11.Psychopathology: Definitions of abnormalities 2 12.Psychopathology: Biological approach 13.Psychopathology: Psychodynamic approach 14.期末テスト及びおさらい 15.講評＆これからの学習についての質疑応答
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	英文で扱う内容は日本語で十分わかっていないと理解できない。よって、英文をただ機械的に訳す作業だけにとらわれず、扱われている内容を日本語で十分学習していくことが必須である。つまり、事前に日本語の概論書 などで当該の箇所を読んで理解しておくことが必要である。 授業前学習：概論書での学習、英語長文の翻訳作業（３時間以上）。 授業後学習：授業で指摘された点の復習等（１時間以上）。
授業方法	講義：各回の宿題（授業前学習）の内容に基づき、解説を行うとともに、ミニテストを実施。学生は課題につい ての疑問点等を質問する。
評価基準と評価方法	課題及びテスト（ミニテスト含む）（７０％）、授業態度（３０％） 課題及びテスト：授業での課題発表を総合的に評価する(到達目標（１）～（２）に関する到達度の確認）。 授業態度：授業でのディスカッションへの参加等を総合的に評価する（到達目標（１）～（２）に関する到達度の確認）。
履修上の注意	期末テスト、中間テストの他にミニテストを実施する。 指定教科書は前期から引き続き使用する予定であるが、受講者のレベルや進捗に合わせて、「参考資料」にある「心理英語編」の購入が必要になり場合がある。 日本語の概論書や用語集を用意すること。授業でカバーする部分に対応する日本語の書籍を読んでおくことが重要である。電子辞書は試験では使えない場合が多いため、授業の段階から紙の辞書を使うことを勧める。 英語で専門的な長文を講読する授業である。基礎的な高校、中学レベルの英文法に自信がない者は、事前にきちんと復習をしておく必要がある。
教科書	（前期ら引き続き）公認心理師・臨床心理士大学院対策 鉄則10&キーワード100 心理英語編（講談社） ISBN-10 : 4065124506 （前期ら引き続き）公認心理師・臨床心理士大学院対策 鉄則10&キーワード100 心理学編（講談社） ISBN-10 : 406512381X
参考書	公認心理師・臨床心理士　大学院対策　心理英語トレーニング（晶文社） ISBN-13　:　978-4794995360

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	カウンセリング基礎演習						
担当教員	山本　竜也					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P31020
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	カウンセリングに必要となる基本的な態度や考え方、知識、技法を学び、ペアワーク、グループワークで活用する。
授業の概要	カウンセリングでは、適切な態度や考え方、知識、技法を身に着けたうえで、支援を受ける者に対してこれらを活かしていく必要がある。「カウンセリング基礎演習」では、知識を教授したうえでペアワークやグループワークを通して履修者の体験的な理解を促し、良好な対人関係を築き、カウンセリングの基本を修得できるようにする。
到達目標	1. カウンセリングで必要な態度や考え方を理解し、説明できる。【知識・理解】【態度・志向性】 2. ペアワークやロールプレイを通してカウンセリングの基本的な知識や技法を用いて応答することができる。【知識・理解】【汎用的技能】 3. ペアワークやロールプレイを通してカウンセリングの態度や考え方、知識、技法を活用することができる。【汎用的技能】【態度・志向性】
授業計画	第1回　オリエンテーション（授業概要、単位認定の説明、ティーチングアシスタント（TA）の紹介） 第2回　カウンセリングの基本的態度と考え方 第3回　傾聴技法（1）　傾聴とは何かを考える 第4回　傾聴技法（2）　相手の話を聴く適切な態度を考える 第5回　傾聴技法（3）　共感的理解を示しながら話を聴く 第6回　傾聴技法（4）　困り感を理解する 第7回　質問技法（1）　質問とは何かを考える 第8回　質問技法（2）　質問を使って話を聴く 第9回　傾聴・質問技法　対話のスキル向上を試みる 第10回　心理療法の体験（1）　セルフモニタリング 第11回　心理療法の体験（2）　マインドフルネス 第12回　心理療法の体験（3）　問題解決技法 第13回　心理療法の体験（4）　価値の明確化と行動活性化 第14回　よりよい生き方を考える 第15回　まとめと試験 授業での演習を支援するため、TAを各回の授業に配置しています。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に授業資料を読み込むとともに、関連する文献を調べる。（1時間） 授業後は内容の理解を深め、カウンセリングの技法を活用する。（3時間）
授業方法	授業の形式は演習である。毎回の授業は、担当教員からの説明、1人で行うワーク、2人で行うペアワーク、グループディスカッションを中心に構成する。グループは原則的に変更しない。毎回のコメントシートの提出を求める。
評価基準と評価方法	15回の授業のうち現に10回以上の出席で単位認定を行う。平常点50%、試験50%の割合で評価を行う。 平常点：コメントシートの内容、授業態度、ワーク、ペアワーク、グループディスカッションへの取り組み（到達目標2～3の確認） 試験：授業内容に基づきカウンセリングの基本的な知識と理解を問う（到達目標1の確認）
履修上の注意	授業への積極的な参加を望む。演習形式のため、出席とペアワーク、グループワークを重視する。遅刻、欠席はしないこと。 修学上の合理的配慮が必要な場合は所定の手続きを行うとともに具体的な配慮内容が担当教員に伝わるよう申し出、建設的な対話となるよう心掛けること。 他の履修者の迷惑になるような私語、授業と関係がないことなど、授業を円滑に運営するうえで妨げになるようなことはしないこと。
教科書	特に指定しない。
参考書	大谷佳子　『対人援助の現場で使える　聴く・伝える・共感する技術便利帖』　（翔泳社、ISBN 978-4-7981-5255-4） 大谷佳子　『対人援助の現場で使える　質問する技術便利帖』　（翔泳社、ISBN 978-4-7981-5988-1） 大谷佳子　『対人援助の現場で使える　言葉〈以外〉で伝える技術便利帖』　（翔泳社、ISBN 978-4-7981-7147-0）

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	カウンセリング基礎演習						
担当教員	山本　竜也					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P31020
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	カウンセリングに必要となる基本的な態度や考え方、知識、技法を学び、ペアワーク、グループワークで活用する。
授業の概要	カウンセリングでは、適切な態度や考え方、知識、技法を身に着けたうえで、支援を受ける者に対してこれらを活かしていく必要がある。「カウンセリング基礎演習」では、知識を教授したうえでペアワークやグループワークを通して履修者の体験的な理解を促し、良好な対人関係を築き、カウンセリングの基本を修得できるようにする。
到達目標	1. カウンセリングで必要な態度や考え方を理解し、説明できる。【知識・理解】【態度・志向性】 2. ペアワークやロールプレイを通してカウンセリングの基本的な知識や技法を用いて応答することができる。【知識・理解】【汎用的技能】 3. ペアワークやロールプレイを通してカウンセリングの態度や考え方、知識、技法を活用することができる。【汎用的技能】【態度・志向性】
授業計画	第1回　オリエンテーション（授業概要、単位認定の説明、ティーチングアシスタント（TA）の紹介） 第2回　カウンセリングの基本的態度と考え方 第3回　傾聴技法（1）　傾聴とは何かを考える 第4回　傾聴技法（2）　相手の話を聴く適切な態度を考える 第5回　傾聴技法（3）　共感的理解を示しながら話を聴く 第6回　傾聴技法（4）　困り感を理解する 第7回　質問技法（1）　質問とは何かを考える 第8回　質問技法（2）　質問を使って話を聴く 第9回　傾聴・質問技法　対話のスキル向上を試みる 第10回　心理療法の体験（1）　セルフモニタリング 第11回　心理療法の体験（2）　マインドフルネス 第12回　心理療法の体験（3）　問題解決技法 第13回　心理療法の体験（4）　価値の明確化と行動活性化 第14回　よりよい生き方を考える 第15回　まとめと試験 授業での演習を支援するため、TAを各回の授業に配置しています。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に授業資料を読み込むとともに、関連する文献を調べる。（1時間） 授業後は内容の理解を深め、カウンセリングの技法を活用する。（3時間）
授業方法	授業の形式は演習である。毎回の授業は、担当教員からの説明、1人で行うワーク、2人で行うペアワーク、グループディスカッションを中心に構成する。グループは原則的に変更しない。毎回のコメントシートの提出を求める。
評価基準と評価方法	15回の授業のうち現に10回以上の出席で単位認定を行う。平常点50%、試験50%の割合で評価を行う。 平常点：コメントシートの内容、授業態度、ワーク、ペアワーク、グループディスカッションへの取り組み（到達目標2～3の確認） 試験：授業内容に基づきカウンセリングの基本的な知識と理解を問う（到達目標1の確認）
履修上の注意	授業への積極的な参加を望む。演習形式のため、出席とペアワーク、グループワークを重視する。遅刻、欠席はしないこと。 修学上の合理的配慮が必要な場合は所定の手続きを行うとともに具体的な配慮内容が担当教員に伝わるよう申し出、建設的な対話となるよう心掛けること。 他の履修者の迷惑になるような私語、授業と関係がないことなど、授業を円滑に運営するうえで妨げになるようなことはしないこと。
教科書	特に指定しない。
参考書	大谷佳子　『対人援助の現場で使える　聴く・伝える・共感する技術便利帖』　（翔泳社、ISBN 978-4-7981-5255-4） 大谷佳子　『対人援助の現場で使える　質問する技術便利帖』　（翔泳社、ISBN 978-4-7981-5988-1） 大谷佳子　『対人援助の現場で使える　言葉〈以外〉で伝える技術便利帖』　（翔泳社、ISBN 978-4-7981-7147-0）

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	感情・人格心理学						
担当教員	山本　竜也					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P12050
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の観点から、感情および人格（パーソナリティ）の主要な理論と日常生活における役割について学ぶ。
授業の概要	ある状況における感情は人それぞれであり、その背後には人格（パーソナリティ）という個人を特徴づけるものがあると考えられている。これらは私たちが日常生活を送るうえで切り離せないものであり、対人関係にも影響を与える。「感情・人格心理学」では、感情や人格（パーソナリティ）について、具体的現象を交えながら学ぶ。
到達目標	1. 感情に関する理論及び感情喚起の機序、維持、強度と、感情が行動に及ぼす影響について説明できる。【知識・理解】 2. 人格の概念及び形成過程について説明できる。【知識・理解】 3. 感情や人格（パーソナリティ）のアセスメント方法を説明できる。【知識・理解】 4. 人格の類型、特性等について説明できる。【知識・理解】
授業計画	第1回： オリエンテーション（授業概要と単位認定の説明） 第2回： 感情の定義と主要な理論 第3回： 感情の喚起、維持、強度 第4回： 日常生活における感情の役割 第5回： ポジティブ感情の効果 第6回： ネガティブ感情の効果 第7回： 感情調整の不全 第8回： 感情のアセスメント方法 第9回： 人格（パーソナリティ）の定義と主要な理論（人格の類型と特性等） 第10回： 人格（パーソナリティ）の形成における生物学的要因 第11回： 人格（パーソナリティ）の形成における社会・心理的要因 第12回： 人格（パーソナリティ）の障害 第13回： 人格（パーソナリティ）のアセスメント方法 第14回： 感情・人格（パーソナリティ）の観点からよりよい生き方を考える 第15回： 授業のまとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に授業資料を読み込むとともに、関連する文献を調べる。（1時間） 授業後は内容の理解を深め、日常生活における知識や理論の応用について考える。（3時間）
授業方法	原則的に講義であるが、適宜ワークを取り入れるため積極的に参加すること。なお、各回でコメントシートの提出を求め、次の授業開始時に質問などに回答する。
評価基準と評価方法	15回の授業のうち3分の2以上の出席を単位認定の要件とする。遅刻は2回で1回の欠席とみなす。平常点50%、期末試験50%の割合で評価を行う。 平常点：授業態度、コメントシートの記述内容、適宜指示する課題への取り組み（到達目標1～4の確認） 期末試験：授業内容に基づき感情・人格心理学の知識と理解を問う（到達目標1～4の確認）
履修上の注意	公認心理師の資格取得を目指す場合必修である。 修学上何らかの合理的配慮が必要な場合は所定の手続きを行うとともに、担当教員に当該授業における具体的な配慮内容が伝わるように申し出、建設的な対話を心がけること。 授業への積極的な参加を望む。他の履修者の迷惑になるような私語、授業と関係がないことなど、授業を円滑に運営するうえで妨げになるようなことはしないこと。遅刻、欠席はしないこと。
教科書	特に指定しない。
参考書	中間玲子（編）　『感情・人格心理学』　（ミネルヴァ書房、ISBN 9784623087105）

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	学習・言語心理学A						
担当教員	安原　秀和					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P1203A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	学習と言語についての心のしくみ
授業の概要	学習とは動物が行動を変化させていく過程のことです。 言語とはヒトが音声や文字を用いて自身の意思や感情を伝える手段のことです。 講義ではこれら学習と言語を可能にする心のしくみを基本から解説します。
到達目標	1. 人の行動が変化する過程を理解することができる【知識・理解】 2. 言語の習得における機序を理解することができる【知識・理解】 3. 日常の様々な場面を理論と照らし合わせて考えられるようになる【知識・理解】
授業計画	1. ガイダンス 2. 視覚と学習 3. 聴覚、体性感覚と学習 4. 認知心理学について 5. 条件づけ 6. 技能学習 7. 記憶の機序 8. 2講目から7講目までの授業内容についての復習・質疑応答と試験 9. 学習と記憶の関わり 10. 思考 11. 知識と概念 12. 象徴・記号としての言語 13. 非言語的コミュニケーションと言語的コミュニケーション 14. 失語症 15. 総復習
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	教科書をしっかり読みましょう。 授業前学習: 授業で扱うトピックについての予習(2時間) 授業後学習: 授業で扱ったトピックについての復習(2時間)
授業方法	講義と小テスト 授業中の小テストについては、教科書や配付資料を見ながら解くことができます。
評価基準と評価方法	出席と小テスト(20%)　到達目標1から3に関する到達度の確認 中間テスト(30%)　到達目標1から3に関する到達度の確認 期末テスト(50%)　到達目標1から3に関する到達度の確認 中間テストは8講目、期末テストは学期末に実施、両方とも持ち込みは不可
履修上の注意	5回の欠席で、受講資格を失ないます。欠席回数は自分で把握しましょう。 補講時間や場所の告知、テストの出題でmanabaを利用します。 manabaをこまめにチェックしましょう。
教科書	『心理学　第5版補訂版』 鹿取 廣人, 杉本 敏夫, 鳥居 修晃 東京大学出版会 978-4-13-012117-0
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	学習・言語心理学B						
担当教員	小川　徳子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P1203B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	言語の習得過程と発達の仕組み
授業の概要	人間は、生まれつき言葉を使えるわけではありません。赤ちゃんが言葉を話すようになるのは単語と文法を獲得するから、ということだけで説明できるのでしょうか。この科目では、人が言葉を使いこなせるようになっていく過程と、その発達を支えている要因について学びます。
到達目標	(1)言語習得の機序を理解し説明できる＊【知識・理解】 (2)言語に関する理論と研究を知る【知識・理解】 (3)言語と人間関係の発達の関連性を説明できるようになる【知識・理解】 (4)言語と思考・記憶の関連性を学ぶ【知識・理解】 ＊(1)は公認心理士カリキュラムの大項目
授業計画	第1回　言葉の機能 第2回　言語習得の理論 第3回　言葉と人間関係 第4回　音声・音韻の発達 第5回　言葉の発達と知覚の発達の関わり 第6回　言葉とコミュニケーション 第7回　幼児期前半（３歳頃まで）の発達 第8回　幼児期後半（６歳頃まで）の発達 第9回　会話の発達と心の理論 第10回　児童期の発達 第11回　言語と思考・言語と記憶、バイリンガルとリミテッドバイリンガル 第12回　書き言葉の発達 第13回　幼児期の物語理解 第14回　言葉の発達支援 第15回　宗復習と期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準部学修：各回のテーマについて自分なりに調べ、まとめてみる（2時間） 授業後学修：授業前、自分なりに学修した内容と授業で学んだ内容を総合したノートを作成(2時間)
授業方法	講義形式を中心とする。毎回、授業時間中に提示する質問への答を、ひとりひとりまたはグループワークで検討・回答を求める。ひとりひとりの場合は、ショートレポートとしてまとめてもらい、グループワークの場合は、グループごとのれぽーととしてまとめ、その内容の発表を求めることもある。
評価基準と評価方法	授業内の課題（小レポート・グループレポート）：40%、期末試験：60% 授業内の課題：授業中の設問に対する回答を個人（小レポート～またはグループ（グループレポート）でまとめ、時間内に提出する。設問への回答としての的確さ、自分なりに考えてみたかの確認。 期末試験：到達目標(1)～(3)に関する達成度の確認。
履修上の注意	・欠席回数が５回を超えた場合、期末試験の受験資格を失います。欠席回数の自己管理をお願いします。 ・授業内の課題については、当該時間内の提出でなければ受理しません。
教科書	なし。プリントを配布する。
参考書	岩立志津夫, 小椋たみ子 編　(2017)　よくわかる言語発達[改訂新版]　ミネルヴァ書房 ISBN:978-4623080335 針生 悦子(2019)　赤ちゃんはことばをどう学ぶのか（中公新書ラクレ）中央公論新社 ISBN : 978-4121506634

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	教育・学校心理学						
担当教員	黒崎　優美					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P33120
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	教育・学校分野の心理学
授業の概要	教育現場において生じる諸課題及びその背景について、また教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について、臨床心理学的接近法に基づき考え、理解を深めます。 ワークやディスカッションを通して互いの考えや理解を共有します。
到達目標	(1)教育現場において生じる問題及びその背景について説明できる。【知識・理解】 (2)教育現場における心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。【態度・志向性】 (3)授業を通して得た知識や理解を、自分自身や身近な出来事や社会現象の理解に応用し、それについて他者に伝えることができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回　導入　授業の進め方、子どもと教育・学校・社会 第 2回　グループとしての学校(1)　“空気”とグループ心性 第 3回　グループとしての学校(2)　グループ心性と“チーム学校” 第 4回　グループとしての学校(3)　“チーム学校”における教師・スクールカウンセラーの役割 第 5回　いじめの心理(1)　いじめの歴史と現状 第 6回　いじめの心理(2)　いじめの発生機序 第 7回　いじめの心理(3)　いじめの解決 第 8回　不登校の心理(1)　不登校の歴史と現状 第 9回　不登校の心理(2)　選択としての不登校とその課題 第10回　不登校の心理(3)　不登校の解決 第11回　学ぶことと心理(1)　学習と成長を可能にする相互作用 第12回　学ぶことと心理(2)　学習と成長を阻害する相互作用 第13回　課題発表とレポート公開「子どもと教育・学校・社会」 第14回　課題への講評、質疑応答 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：文献購読、配付資料（松蔭manabaコンテンツ）確認　＜２時間＞ 授業後学習：課題提出（松蔭manabaレポート等）、まとめプリント作成　＜２時間＞
授業方法	講義、演習（プレゼンテーション、ディスカッション）
評価基準と評価方法	平常点（40%）、試験（30%）、課題（30%）で評価をおこなう。ただし、試験と課題はどちらも必須。 ・平常点（授業内のワーク、授業レポート、その他授業への参加・貢献）。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認 ・試験（まとめプリント持ち込み可）。到達目標(1)に関する到達度の確認 ・課題（レポートもしくは発表）。到達目標(2)(3)に関する到達度の確認
履修上の注意	主体的に考え言語化する努力をしてください。
教科書	なし。毎回資料を配布します。
参考書	石隈利紀編 2019 教育・学校心理学(公認心理師の基礎と実践 / 野島一彦, 繁桝算男監修 ; 第18巻) 遠見書房 ISBN　9784866160689 その他については、適宜紹介します。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	黒崎　優美					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0104A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	研究に必要な基礎的能力を修得し、心理学への関心を形にしよう
授業の概要	これから大学で心理学を学ぶために必要となる基礎的な能力を身に付けるとともに、心理学への関心を深め、何をどのように学んでいくのかを検討し、“学びの目標”とその計画を設計することを目的とした授業です。 具体的には、施設の利用の仕方や授業の受け方、新聞・本・論文の読み方、心理学の研究方法の一つである面接法について学びます。各テーマに沿った個人やグループでのワークを行い、聞く・読む・書く力、課題を発見する力、情報を収集し整理する力、プレゼンテーション力を培っていきます。それらを通して、各自の大学生活における“学びの目標”とその具体的なプロセスを計画し、発表を行います。
到達目標	1.身近な問題を、心理学の概念や考え方と結びつけ、その解決策について考えることができる。【汎用的技能】 2.他者の意見を聞き取り、まとめ上げ、それを基に自分自身の意見を持つことができる。【汎用的技能】 3.自身の“学びの目標”をわかりやすく発表できる。【知識・理解】【汎用的技能】
授業計画	第 1回　オリエンテーション（自己紹介、manabaの操作練習、授業の進め方） 第 2回　図書館オリエンテーション(Pa)(Pb) 　　キャンパス生活入門、大学での学び方(Pc) 第 3回　図書館オリエンテーション(Pc) 　　キャンパス生活入門、大学での学び方(Pa)(Pb) 第 4回　大学の授業の受け方 第 5回　心理学科での学び方、大学で学びたいこと 第 6回　グループで考える“心の問題” 第 7回　新聞記事を読む（新聞から学べることとその限界） 第 8回　本を読む（本から学べることとその限界） 第 9回　論文を読む（論文から学べることとその限界） 第10回　レポートを書く 第11回　面接法による調査(1)　面接法とは 第12回　面接法による調査(2)　調査計画を立てる 第13回　面接法による調査(3)　調査を実施する 第14回　面接法による調査(4)　調査結果のまとめ 第15回　面接法による調査(5)　調査結果の発表
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：参考書や各自が興味を持った心理学に関する本を読む。収集したデータを整理し、自分なりに検討する。＜学習時間：2時間＞ 授業後学習：グループワークや発表・提出物へのコメントなどから内容の振り返りを行い、見直しや修正などを行う。＜学習時間：2時間＞
授業方法	演習：参考書をはじめとする資料を用いた準備学習、個人ワークやグループディスカッション、個人やグループでの発表を行う。＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	授業での課題提出や授業態度などの平常点（50%）：到達目標1の達成度確認 発表資料と発表（50%）：到達目標2、3の達成度確認 発表や提出物に関しては、授業時間内にコメントを行うとともに、適宜、提出物に修正点やコメントを記して返却を行い、評価と改善点を提示する。
履修上の注意	遅刻・欠席については、厳しく査定する。 授業開始5分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。
教科書	なし
参考書	神戸松蔭女子学院大学人間科学部心理学科編　2016　暮らしの中のカウンセリング入門:心の問題を理解するための最初歩　北大路書房　ISBN-10: 4762829412 山田剛史・林創　2011　大学生のためのリサーチリテラシー入門:研究のための8つの力　ミネルヴァ書房　ISBN-10: 4623060454 初学者向け学科別資料（@図書館3Fまなぶくんコーナー） その他については適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	小松　貴弘					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0104A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	研究に必要な基礎的能力を修得し、心理学への関心を形にしよう
授業の概要	これから大学で心理学を学ぶために必要となる基礎的な能力を身に付けるとともに、心理学への関心を深め、何をどのように学んでいくのかを検討し、“学びの目標”とその計画を設計することを目的とした授業です。 具体的には、施設の利用の仕方や授業の受け方、新聞・本・論文の読み方、心理学の研究方法の一つである面接法について学びます。各テーマに沿った個人やグループでのワークを行い、聞く・読む・書く力、課題を発見する力、情報を収集し整理する力、プレゼンテーション力を培っていきます。それらを通して、各自の大学生活における“学びの目標”とその具体的なプロセスを計画し、発表を行います。
到達目標	1.身近な問題を、心理学の概念や考え方と結びつけ、その解決策について考えることができる。【汎用的技能】 2.他者の意見を聞き取り、まとめ上げ、それを基に自分自身の意見を持つことができる。【汎用的技能】 3.自身の“学びの目標”をわかりやすく発表できる。【知識・理解】【汎用的技能】
授業計画	第 1回　オリエンテーション（自己紹介、manabaの操作練習、授業の進め方） 第 2回　図書館オリエンテーション(Pa)(Pb) 　　キャンパス生活入門、大学での学び方(Pc) 第 3回　図書館オリエンテーション(Pc) 　　キャンパス生活入門、大学での学び方(Pa)(Pb) 第 4回　大学の授業の受け方 第 5回　心理学科での学び方、大学で学びたいこと 第 6回　グループで考える“心の問題” 第 7回　新聞記事を読む（新聞から学べることとその限界） 第 8回　本を読む（本から学べることとその限界） 第 9回　論文を読む（論文から学べることとその限界） 第10回　レポートを書く 第11回　面接法による調査(1)　面接法とは 第12回　面接法による調査(2)　調査計画を立てる 第13回　面接法による調査(3)　調査を実施する 第14回　面接法による調査(4)　調査結果のまとめ 第15回　面接法による調査(5)　調査結果の発表
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：参考書や各自が興味を持った心理学に関する本を読む。収集したデータを整理し、自分なりに検討する。＜学習時間：2時間＞ 授業後学習：グループワークや発表・提出物へのコメントなどから内容の振り返りを行い、見直しや修正などを行う。＜学習時間：2時間＞
授業方法	演習：参考書をはじめとする資料を用いた準備学習、個人ワークやグループディスカッション、個人やグループでの発表を行う。＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	授業での課題提出や授業態度などの平常点（50%）：到達目標1の達成度確認 発表資料と発表（50%）：到達目標2、3の達成度確認 発表や提出物に関しては、授業時間内にコメントを行うとともに、適宜、提出物に修正点やコメントを記して返却を行い、評価と改善点を提示する。
履修上の注意	遅刻・欠席については、厳しく査定する。 授業開始5分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。
教科書	なし
参考書	神戸松蔭女子学院大学人間科学部心理学科編　2016　暮らしの中のカウンセリング入門:心の問題を理解するための最初歩　北大路書房　ISBN-10: 4762829412 山田剛史・林創　2011　大学生のためのリサーチリテラシー入門:研究のための8つの力　ミネルヴァ書房　ISBN-10: 4623060454 初学者向け学科別資料（@図書館3Fまなぶくんコーナー） その他については適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A						
担当教員	山本　竜也					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0104A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	研究に必要な基礎的能力を修得し、心理学への関心を形にしよう
授業の概要	これから大学で心理学を学ぶために必要となる基礎的な能力を身に付けるとともに、心理学への関心を深め、何をどのように学んでいくのかを検討し、“学びの目標”とその計画を設計することを目的とした授業です。 具体的には、施設の利用の仕方や授業の受け方、新聞・本・論文の読み方、心理学の研究方法の一つである面接法について学びます。各テーマに沿った個人やグループでのワークを行い、聞く・読む・書く力、課題を発見する力、情報を収集し整理する力、プレゼンテーション力を培っていきます。それらを通して、各自の大学生活における“学びの目標”とその具体的なプロセスを計画し、発表を行います。
到達目標	1.身近な問題を、心理学の概念や考え方と結びつけ、その解決策について考えることができる。【汎用的技能】 2.他者の意見を聞き取り、まとめ上げ、それを基に自分自身の意見を持つことができる。【汎用的技能】 3.自身の“学びの目標”をわかりやすく発表できる。【知識・理解】【汎用的技能】
授業計画	第 1回　オリエンテーション（自己紹介、manabaの操作練習、授業の進め方） 第 2回　図書館オリエンテーション(Pa)(Pb) 　　キャンパス生活入門、大学での学び方(Pc) 第 3回　図書館オリエンテーション(Pc) 　　キャンパス生活入門、大学での学び方(Pa)(Pb) 第 4回　大学の授業の受け方 第 5回　心理学科での学び方、大学で学びたいこと 第 6回　グループで考える“心の問題” 第 7回　新聞記事を読む（新聞から学べることとその限界） 第 8回　本を読む（本から学べることとその限界） 第 9回　論文を読む（論文から学べることとその限界） 第10回　レポートを書く 第11回　面接法による調査(1)　面接法とは 第12回　面接法による調査(2)　調査計画を立てる 第13回　面接法による調査(3)　調査を実施する 第14回　面接法による調査(4)　調査結果のまとめ 第15回　面接法による調査(5)　調査結果の発表
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：参考書や各自が興味を持った心理学に関する本を読む。収集したデータを整理し、自分なりに検討する。＜学習時間：2時間＞ 授業後学習：グループワークや発表・提出物へのコメントなどから内容の振り返りを行い、見直しや修正などを行う。＜学習時間：2時間＞
授業方法	演習：参考書をはじめとする資料を用いた準備学習、個人ワークやグループディスカッション、個人やグループでの発表を行う。＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	授業での課題提出や授業態度などの平常点（50%）：到達目標1の達成度確認 発表資料と発表（50%）：到達目標2、3の達成度確認 発表や提出物に関しては、授業時間内にコメントを行うとともに、適宜、提出物に修正点やコメントを記して返却を行い、評価と改善点を提示する。
履修上の注意	遅刻・欠席については、厳しく査定する。 授業開始5分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。
教科書	なし
参考書	神戸松蔭女子学院大学人間科学部心理学科編　2016　暮らしの中のカウンセリング入門:心の問題を理解するための最初歩　北大路書房　ISBN-10: 4762829412 山田剛史・林創　2011　大学生のためのリサーチリテラシー入門:研究のための8つの力　ミネルヴァ書房　ISBN-10: 4623060454 初学者向け学科別資料（@図書館3Fまなぶくんコーナー） その他については適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	黒崎　優美					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0104B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の研究方法を用いて調べ、分析し、伝えよう “学びの目標”を振り返り、更新しよう。
授業の概要	大学で心理学を学ぶために必要となる基礎的な能力を伸ばし、心理学への関心をより深め、“学びの目標”を発展させることを目的とした授業です。 具体的には、心理学の研究方法でもっともよく用いられる質問紙調査法を用いて、調査、結果の分析、論文や発表資料の作成を通して、情報を収集し整理する力、データを分析する力、書く力、プレゼンテーション力を培っていきます。それらに加えて、前期の「基礎演習A」で形にした“学びの目標”を振り返り、今後の大学生活の見通しを立て、さらに発展させていきます。
到達目標	1.心理学の研究テーマに関する質問紙を作成し、データを収集することができる。【汎用的技能】 2.収集したデータについて、Excelを用いて基礎的な分析を行い、結果をまとめることができる。【汎用的技能】 3.心理学の学術論文形式に沿った論文やその要約を、WordやPowerPointを用いて作成することができる。【知識・理解】【汎用的技能】 4.“学びの目標”に基づく取り組みや今後の目標をわかりやすく発表できる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回　質問紙調査法(1)　質問紙調査法とは 第 2回　質問紙調査法(2)　共通テーマを設定し、質問項目を作成する 第 3回　質問紙調査法(3)　質問項目の確認と修正 第 4回　質問紙調査法(4)　質問紙（オンライン実施用）を作成する 第 5回　“学びの目標”(1)　夏休みの取り組みの報告会 第 6回　データ分析(1)　単純集計と基本統計量の算出を行う 第 7回　データ分析(2)　変数間の関係を分析する 第 8回　データ分析(3)　分析結果を図表にまとめる 第 9回　論文作成(1)　心理学の学術論文形式について学び、問題と方法についてまとめる 第10回　論文作成(2)　結果についてまとめる 第11回　論文作成(3)　考察についてまとめ、論文を完成させる 第12回　“学びの目標”(2)　1年間の学びを振り返り、“学びの目標”に基づき課題と今後の目標を検討する 第13回　研究成果の発表(1)　作成した論文の内容を発表資料にまとめる 第14回　研究成果の発表(2)　研究成果を発表し、共有する 第15回　“学びの目標”(2)　1年間の学びの振り返りと今後の目標について発表し、共有する
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：参考書や自身の調査に関連する文献に目を通し、その内容を理解して発表資料を作成する。また、Word, Excel, PowerPointの基本的な操作方法ができるように練習を行う。＜学習時間：2時間＞ 授業後学習：調査で得たデータの整理(Excel)、論文(Word)や発表資料(PowerPoint)の作成を行う。作成した資料に対する班メンバーらのコメントを踏まえ、内容の見直しや修正を行う。＜学習時間：2時間＞
授業方法	演習：参考書等の資料を用いた準備学習、個人ワークやグループディスカッション、個人やグループでの発表を行う。＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	授業での課題提出や授業態度などの平常点（50%）：到達目標1、2、3の達成度確認 発表資料と発表（50%）：到達目標2、3、4の達成度確認 発表や提出物に関しては、授業時間内にコメントを行うとともに、適宜、提出物に修正点やコメントを記して返却を行い、評価と改善点を提示する。
履修上の注意	遅刻・欠席については、厳しく査定する。 授業開始５分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。
教科書	なし
参考書	永房典之編著　2008　なぜ人は他者が気になるのか? - 人間関係の心理　金子書房ISBN-10: 4760830286 山田剛史・林 創　2011　大学生のためのリサーチリテラシー入門:研究のための8つの力　ミネルヴァ書房　ISBN-10: 4623060454

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	小松　貴弘					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0104B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の研究方法を用いて調べ、分析し、伝えよう “学びの目標”を振り返り、更新しよう。
授業の概要	大学で心理学を学ぶために必要となる基礎的な能力を伸ばし、心理学への関心をより深め、“学びの目標”を発展させることを目的とした授業です。 具体的には、心理学の研究方法でもっともよく用いられる質問紙調査法を用いて、調査、結果の分析、論文や発表資料の作成を通して、情報を収集し整理する力、データを分析する力、書く力、プレゼンテーション力を培っていきます。それらに加えて、前期の「基礎演習A」で形にした“学びの目標”を振り返り、今後の大学生活の見通しを立て、さらに発展させていきます。
到達目標	1.心理学の研究テーマに関する質問紙を作成し、データを収集することができる。【汎用的技能】 2.収集したデータについて、Excelを用いて基礎的な分析を行い、結果をまとめることができる。【汎用的技能】 3.心理学の学術論文形式に沿った論文やその要約を、WordやPowerPointを用いて作成することができる。【知識・理解】【汎用的技能】 4.“学びの目標”に基づく取り組みや今後の目標をわかりやすく発表できる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回　質問紙調査法(1)　質問紙調査法とは 第 2回　質問紙調査法(2)　共通テーマを設定し、質問項目を作成する 第 3回　質問紙調査法(3)　質問項目の確認と修正 第 4回　質問紙調査法(4)　質問紙（オンライン実施用）を作成する 第 5回　“学びの目標”(1)　夏休みの取り組みの報告会 第 6回　データ分析(1)　単純集計と基本統計量の算出を行う 第 7回　データ分析(2)　変数間の関係を分析する 第 8回　データ分析(3)　分析結果を図表にまとめる 第 9回　論文作成(1)　心理学の学術論文形式について学び、問題と方法についてまとめる 第10回　論文作成(2)　結果についてまとめる 第11回　論文作成(3)　考察についてまとめ、論文を完成させる 第12回　“学びの目標”(2)　1年間の学びを振り返り、“学びの目標”に基づき課題と今後の目標を検討する 第13回　研究成果の発表(1)　作成した論文の内容を発表資料にまとめる 第14回　研究成果の発表(2)　研究成果を発表し、共有する 第15回　“学びの目標”(2)　1年間の学びの振り返りと今後の目標について発表し、共有する
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：参考書や自身の調査に関連する文献に目を通し、その内容を理解して発表資料を作成する。また、Word, Excel, PowerPointの基本的な操作方法ができるように練習を行う。＜学習時間：2時間＞ 授業後学習：調査で得たデータの整理(Excel)、論文(Word)や発表資料(PowerPoint)の作成を行う。作成した資料に対する班メンバーらのコメントを踏まえ、内容の見直しや修正を行う。＜学習時間：2時間＞
授業方法	演習：参考書等の資料を用いた準備学習、個人ワークやグループディスカッション、個人やグループでの発表を行う。＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	授業での課題提出や授業態度などの平常点（50%）：到達目標1、2、3の達成度確認 発表資料と発表（50%）：到達目標2、3、4の達成度確認 発表や提出物に関しては、授業時間内にコメントを行うとともに、適宜、提出物に修正点やコメントを記して返却 を行い、評価と改善点を提示する。
履修上の注意	遅刻・欠席については、厳しく査定する。 授業開始５分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。
教科書	なし
参考書	永房典之編著　2008　なぜ人は他者が気になるのか? - 人間関係の心理　金子書房ISBN-10: 4760830286 山田剛史・林 創　2011　大学生のためのリサーチリテラシー入門:研究のための8つの力　ミネルヴァ書房　ISBN-10: 4623060454

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B						
担当教員	山本　竜也					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0104B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の研究方法を用いて調べ、分析し、伝えよう “学びの目標”を振り返り、更新しよう。
授業の概要	大学で心理学を学ぶために必要となる基礎的な能力を伸ばし、心理学への関心をより深め、“学びの目標”を発展させることを目的とした授業です。 具体的には、心理学の研究方法でもっともよく用いられる質問紙調査法を用いて、調査、結果の分析、論文や発表資料の作成を通して、情報を収集し整理する力、データを分析する力、書く力、プレゼンテーション力を培っていきます。それらに加えて、前期の「基礎演習A」で形にした“学びの目標”を振り返り、今後の大学生活の見通しを立て、さらに発展させていきます。
到達目標	1.心理学の研究テーマに関する質問紙を作成し、データを収集することができる。【汎用的技能】 2.収集したデータについて、Excelを用いて基礎的な分析を行い、結果をまとめることができる。【汎用的技能】 3.心理学の学術論文形式に沿った論文やその要約を、WordやPowerPointを用いて作成することができる。【知識・理解】【汎用的技能】 4.“学びの目標”に基づく取り組みや今後の目標をわかりやすく発表できる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回　質問紙調査法(1)　質問紙調査法とは 第 2回　質問紙調査法(2)　共通テーマを設定し、質問項目を作成する 第 3回　質問紙調査法(3)　質問項目の確認と修正 第 4回　質問紙調査法(4)　質問紙（オンライン実施用）を作成する 第 5回　“学びの目標”(1)　夏休みの取り組みの報告会 第 6回　データ分析(1)　単純集計と基本統計量の算出を行う 第 7回　データ分析(2)　変数間の関係を分析する 第 8回　データ分析(3)　分析結果を図表にまとめる 第 9回　論文作成(1)　心理学の学術論文形式について学び、問題と方法についてまとめる 第10回　論文作成(2)　結果についてまとめる 第11回　論文作成(3)　考察についてまとめ、論文を完成させる 第12回　“学びの目標”(2)　1年間の学びを振り返り、“学びの目標”に基づき課題と今後の目標を検討する 第13回　研究成果の発表(1)　作成した論文の内容を発表資料にまとめる 第14回　研究成果の発表(2)　研究成果を発表し、共有する 第15回　“学びの目標”(2)　1年間の学びの振り返りと今後の目標について発表し、共有する
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：参考書や自身の調査に関連する文献に目を通し、その内容を理解して発表資料を作成する。また、Word, Excel, PowerPointの基本的な操作方法ができるように練習を行う。＜学習時間：2時間＞ 授業後学習：調査で得たデータの整理(Excel)、論文(Word)や発表資料(PowerPoint)の作成を行う。作成した資料に対する班メンバーらのコメントを踏まえ、内容の見直しや修正を行う。＜学習時間：2時間＞
授業方法	演習：参考書等の資料を用いた準備学習、個人ワークやグループディスカッション、個人やグループでの発表を行う。＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	授業での課題提出や授業態度などの平常点（50%）：到達目標1、2、3の達成度確認 発表資料と発表（50%）：到達目標2、3、4の達成度確認 発表や提出物に関しては、授業時間内にコメントを行うとともに、適宜、提出物に修正点やコメントを記して返却 を行い、評価と改善点を提示する。
履修上の注意	遅刻・欠席については、厳しく査定する。 授業開始５分後に出席をとる。30分を過ぎた遅刻は、欠席扱いとする。
教科書	なし
参考書	永房典之編著　2008　なぜ人は他者が気になるのか? - 人間関係の心理　金子書房ISBN-10: 4760830286 山田剛史・林 創　2011　大学生のためのリサーチリテラシー入門:研究のための8つの力　ミネルヴァ書房　ISBN-10: 4623060454

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	健康・医療心理学						
担当教員	室屋　賢士					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P33110
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	医療現場において臨床心理学がどのように活かされているかを学び、精神疾患などの知識のみならず具体的な臨床心理学的アプローチといった実践的な知識についても理解を深める。
授業の概要	『医療』は臨床心理学が実践されている現場の一つである。本講義では、医療現場において働く臨床心理士ならびに公認心理師に求められる知識や具体的な臨床心理学的アプローチについて学習していく。また、医療の現場では、医師、看護師、その他様々な職種と関わり、連携していくことが求められる。そのため、本講義では、他職種連携についても取り扱う。
到達目標	①　ストレスと心身の疾病との関係について説明することができる。【知識・理解】 ②　医療現場における心理社会的課題及び必要な支援について説明することができる。【知識・理解】 ③　保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援について説明することができる。【知識・理解】 ④　災害時等に必要な心理に関する支援について説明することができる。【知識・理解】 ⑤　学習した心理技法を実際に使用したり、日常に般化することができる。【汎用的技能】 ⑥　学習した内容について疑問を持ち、それを議題としてあげることができる。【態度・志向性】
授業計画	第１回　オリエンテーション　本講義についての概要 第２回　医療現場において心理職に期待されること、役割について 第３回　医療現場で求められる知識①　精神疾患Ⅰ 第４回　医療現場で求められる知識②　精神疾患Ⅱ 第５回　医療現場で求められる知識③　精神疾患Ⅲ 第６回　医療現場で求められる知識③　精神疾患Ⅳ 第７回　医療現場で求められる知識④　発達障害Ⅰ 第８回　医療現場で求められる知識⑤　発達障害Ⅱ 第９回　医療現場で求められる知識⑤　発達障害Ⅲ 第１０回　医療現場で用いられる心理技法①　心理アセスメント（知能検査） 第１１回　医療現場で求められる心理技法②　心理アセスメント（投映法） 第１２回　医療現場で求められる心理技法③　心理アセスメント（質問紙法） 第１３回　医療現場で求められる心理技法④　認知行動療法Ⅰ 第１４回　医療現場で求められる心理技法⑤　認知行動療法Ⅱ 第１５回　講義のまとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：メディアなどで取り上げられているメンタルヘルスなどに興味を持ち、積極的に調べたうえで、それを講義に持ち込むこと（学習時間：2時間）。 授業後学習：講義で学習した内容について、参考書籍や論文を読むこと（学習時間：2時間）。
授業方法	パワーポイントにて資料を提示しながら講義を行う。また、いくつかの心理尺度を使用し、心理アセスメントを経験をしてもらう。
評価基準と評価方法	試験：７０％　到達目標①から⑥に関する到達度の確認 授業態度（質疑応答などの積極的な授業参加ならびに平常点）：３０％　到達目標①から⑥に関する到達度の確認
履修上の注意	・私語厳禁 ・病院臨床に興味・関心のある学生の受講を望む。
教科書	特になし。参考資料についてはその都度、講義中に紹介する。
参考書	その都度、講義中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	行動観察法						
担当教員	石井　篤子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P22020
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	行動観察法について学ぶなかで，心理学における研究の取り組み方や考え方について理解すること。
授業の概要	行動観察法を中心に，心理学の研究の進め方やまとめ方を理解し習得する。また，授業で学んだ行動観察法の手法を課題演習を通して実践し，データを分析し結果をまとめる。さらに，グループに分かれて，行動観察法を用いた研究計画を立てることにより，心理学研究の進め方を理解する。
到達目標	1.心理学における観察研究の目的と方法について理解し，説明することができる。【知識・理解】 2. データを分析してまとめて図表の作成し，結果を考察することができる。【態度・志向性】【汎用的技能】
授業計画	第1回：行動観察法について（授業の概要と進め方について） 第2回：観察法の基礎①なぜ観察するのか 第3回：観察法の基礎②観察することを体験してみよう 第4回：時間見本法の理論と手法 第5回：事象見本法の理論と手法 第6回：産物記録法と参与観察について 第7回：行動観察の歴史とアクション・リサーチについて 第8回：心理学における研究倫理について 第9回：心理学における信頼性と妥当性について 第10回：行動観察法を使ってみよう 第11回：データ分析・結果をまとめる 第12回：研究計画を構築する 第13回：研究計画発表準備・中間報告会 第14回：研究計画発表会 第15回：まとめ・レポート作成
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：シラバスの授業計画にある用語について，書籍やインターネットを使って事前に調べておくこと。＜学習時間：2時間＞ 授業後学習：授業で取り上げた内容について，確認整理をしておくこと。また，授業で紹介した参考文献を読んで，授業の内容についての理解を深めること。＜学習時間：2時間＞
授業方法	基本的には講義形式を用いる。必要に応じて映像資料や動画データなど視聴覚的な資料を用いることや，観察実験の実施などの体験学習を用いる。また、ペアやグループワークによる共同学習も行う。
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度（30%）：到達目標1,2の達成度確認 期末レポート・授業内発表（70%）：到達目標1,2の達成度確認 ※授業への参加・貢献度は授業時間内に行う感想・質問シートの記入を元に算定する。
履修上の注意	欠席が5回を超える場合には単位を認定しない。また遅刻は2分の1欠席として計算する。 15分以上の遅刻は欠席として扱うものとする。
教科書	特に指定せず，授業内にて資料を配布する。
参考書	『心理学基礎演習Vol.3 観察法・調査的面接法の進め方』、松浦均・西口利文編、ナカニシヤ出版、ISBN978-4-7795-0290-3 『心理学マニュアル 観察法』、中澤潤・大野木裕明・南博文編、北大路書房、ISBN4-7628-2076-8

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	公認心理師の職責						
担当教員	小松　貴弘					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P73010
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	公認心理師の職務、法的義務などを学ぶ。
授業の概要	公認心理師の職務の内容、法的義務、倫理面で遵守すべきこと、自己研鑽のあり方などについて、幅広く学ぶことを目指す。公認心理師の資格が、社会のどのような要請のもとに創設され、どのような役割が期待されているかを概観し、公認心理師の目指すべき姿について理解することを目指す。
到達目標	（１）公認心理師の役割について説明できる。【知識・理解】 （２）公認心理師の法的義務を理解し、必要な倫理を身につける。【知識・理解】 （３）心理に関する支援を要する者等の安全を最優先し、常にその者中心の立場に立つことができる。【態度・志向性】 （４）守秘義務及び情報共有の重要性を理解し、情報を適切に扱うことができる。【知識・理解】 （５）保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務の内容について説明できる。【知識・理解】
授業計画	第１回　オリエンテーション：本科目の位置づけと目的について 第２回　公認心理師とはどのような資格か 第３回　公認心理師に必要な技能（コンピテンシー） 第４回　心理支援の専門職になるために 第５回　心理支援の専門職として働くために 第６回　公認心理師の法的義務と倫理 第７回　支援を必要としている人の視点に立ち、安全を守る 第８回　情報の適切な取り扱い 第９回　チームや地域で連携して働く 第10回　保健医療分野で働く 第11回　福祉分野で働く 第12回　教育分野で働く 第13回　司法・犯罪分野で働く 第14回　産業・労働分野で働く 第15回　授業のまとめと期末テスト
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には各回の授業テーマについて教科書及び関連する文献に目を通しておくこと。＜２時間＞ 授業後には授業内容を振り返り要点を確認して理解を深めること。＜２時間＞
授業方法	講義を行うとともに、適宜、小グループでのディスカッションや演習を行う。
評価基準と評価方法	授業態度30%、期末試験70% 授業態度：授業に取り組む姿勢、授業内の発言、ディスカッションへの参加度、他の受講生の学びへの協力的な態度、毎回の授業後に提出を求めるミニレポートの記述内容の的確さ等を評価する。到達目標（１）（２）（３） （４）に関する到達度の確認。 期末試験：授業を通じた公認心理師の職責についての理解度を評価する。到達目標（１）（２）（３）（４）（５）に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法：ミニレポートの記述、質問等について、翌週に説明、解説を行う。
履修上の注意	私語等の他の受講生への迷惑行為や、授業の妨げとなる行為は厳に慎むこと。注意等が聞き入れられない場合には、他の受講生の学習権の保障のために退室を求めることがある。20分以上の遅刻と早退は欠席として扱う。総授業回数の３分の１以上を欠席した場合には、原則として試験の受験を認めない。
教科書	『公認心理師の職責』、下山晴彦他監修、ミネルヴァ書房、2020年、ISBN9784623086115
参考書	『公認心理師の職責』、野島一彦編、遠見書房、2018年、ISBN978-4-86616-051-1 その他、授業中に適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心のふしぎ						
担当教員	黒崎　優美					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P01010
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	臨床心理学の入門講座
授業の概要	日常生活における身近な事柄からいわゆる心の病まで、心をめぐって生じるさまざまな事象について、臨床心理学的接近法に基づき考え、理解を深めます。 臨床心理学に関連する資格や職業についても学びます。 ワークやディスカッションを通して互いの考えや理解を共有します。
到達目標	(1)臨床心理学の基本的な知識を修得し、それについて他者に伝えることができる。【知識・理解】 (2)臨床心理学への興味・関心を深め、これから学んでいきたいことを明確にし他者に伝えることができる。【態度・志向性】 (3)自分自身や身近な出来事や社会現象について、臨床心理学的な観点から理解し説明することができる。【汎用的技能】
授業計画	第 1回　導入　心のふしぎ道の歩み方 第 2回　心的構造論(1)　なぜうっかりしてしまうのか？ 第 3回　心的構造論(2)　夢うらないは本当か？ 第 4回　心的構造論(3)　なぜ自分にうそをつくのか？ 第 5回　心的発達論(1)　みんなおっぱいで大きくなった！ 第 6回　心的発達論(2)　自分探しとはどういうことか？ 第 7回　心理査定と心理療法(1)　心の重さははかれるか？ 第 8回　心理査定と心理療法(2)　心を病むとはどういうことか？ 第 9回　心理査定と心理療法(3)　心が癒えるとはどういうことか？ 第10回　集団の心理(1)　心はどうやってつながるのか？ 第11回　集団の心理(2)　集団も心の病にかかるのか？ 第12回　心理の資格と仕事 第13回　課題発表とレポート公開「私にとっての心のふしぎ」 第14回　課題への講評、質疑応答 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：文献購読、配付資料（松蔭manabaコンテンツ）確認　＜２時間＞ 授業後学習：課題提出（松蔭manabaレポート等）、まとめプリント作成　＜２時間＞
授業方法	講義、演習（プレゼンテーション、ディスカッション）＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	平常点（40%）、試験（30%）、課題（30%）で評価をおこなう。ただし、試験と課題はどちらも必須。 ・平常点（授業内のワーク、授業レポート、その他授業への参加・貢献）。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認 ・試験（まとめプリント持ち込み可）。到達目標(1)に関する到達度の確認 ・課題（レポートもしくは発表）。到達目標(2)(3)に関する到達度の確認
履修上の注意	主体的に考え言語化する努力をしてください。
教科書	なし。毎回資料を配布します。
参考書	適宜紹介します。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	子育て支援の心理学						
担当教員	野上　慶子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P43070
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	社会・地域・個人の観点から，子育てとその支援についての基礎的な知識を学ぶとともに，育児困難の背景的要因について考える。
授業の概要	子育てに関した発達心理学・臨床心理学・社会福祉的な知見を学びながら，子育ての中で生じる様々な困難さやその支援についての基礎的な知識を学ぶ。
到達目標	1.子育てやその支援をする上で必要となる資源（機関や法律など）についての知識を持ち，人に説明できる。【知識・理解】 2.子育てという日常の営みが持つ楽しさだけでなく，苦しさも理解することができる。【態度・志向性】 3.様々な立場から子育支援に対する視点を持つことができる。【態度・志向性】
授業計画	第1回：オリエンテーション ～子育てを支援することとは～ 第2回：妊娠から出産まで ～親になることへの選択・親としての発達～ 第3回：乳児期の子育て① ～乳幼児とその家族への支援～ 第4回：乳児期の子育て② ～ハイリスク児とその家族への支援～ 第5回：幼児期の子育て① ～気になる子どもの発見から家族への支援～ 第6回：幼児期の子育て② ～落ち着きのない子どもとその家族への支援～ 第7回：幼児期の子育て③ ～攻撃的な子どもとその家族への支援～ 第8回：幼児期の子育て④ ～こだわりの強い子どもとその家族への支援～ 第9回：幼児期の子育て⑤ ～コミュニケーションが苦手な子どもとその家族への支援～ 第10回：幼児期の子育て⑥ ～不安が強い子どもとその家族への支援～ 第11回：児童期・思春期の子育て支援　～学校適応に難しさがある子どもとその家族への支援～ 第12回：多様化する家族システムでの子育て支援 ～ひとり親家庭等への支援～ 第13回：多文化環境での子育て ～子育てのグローバリゼーション～ 第14回：親子関係に対する支援 ～発達段階に応じたアプローチ～ 第15回：授業内容のまとめ ～子育て支援に必要な視点とは～
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各授業で扱う授業のキーワードに関して，参考書や授業内で配布される補足資料などに目を通すとともに，子どもや家族に関するテレビや小説，映画などを子育て支援という観点から観ること。（ワークとして，作品紹介を求める）＜学習時間：2時間＞ 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。＜学習時間：2時間）＞
授業方法	基本的には講義形式を用いる。必要に応じて映像資料や写真など視聴覚的な資料を用いることや，少人数のグループによるディスカッションやワークを行う。
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度（30%）：到達目標2,3の達成度を確認 小テスト（30%）：到達目標1の達成度を確認 期末レポート（40%）：到達目標2,3の達成度を確認 ※授業への参加・貢献度は，毎回の授業にてmanabaで実施する小テスト内でのワーク，質問・感想欄の入力を元に算定する 。
履修上の注意	欠席が5回を超える場合には単位を認定しない。また遅刻は2分の1欠席として計算する。 15分以上の遅刻は欠席として扱うものとする。
教科書	特に指定しません。授業の前日までに，レジュメをmanabaに掲載しますので，各自ダウンロードしてください。
参考書	藤崎眞知代・大日向雅美（2011）育児のなかでの臨床発達支援 ミネルヴァ書房. ISBN：978-4623059607

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	産業・組織心理学						
担当教員	金丸　由佳里					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P43020
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	職場における問題と支援方法について、および、組織における人の行動について、産業・組織心理学や組織行動の知見をもとに解説する。
授業の概要	授業の前半では、これまでの歴史で明らかとなっている産業組織心理学の知見をご紹介したり、産業領域で働く場合には知っておかなければ損をしてしまうような法律の知識や上手なコミュニケーション方法等をご紹介したりすることで、心理職以外のキャリアを考えている方にもお役に立てるような知識をご提供いたします。 授業の後半では、産業領域で心理職が活躍するテーマについての基礎知識を習得いただくとともに、ロールプレイやグループワーク等の実践を通じて、産業領域で働く心理職の業務の疑似体験をしていただくことで知識をより深く習得いただきます。 講師はEAP（Employee Assistance Program）機関での仕事も行っていますので、働く方々の支援の実際について最新情報をご提供いたします。
到達目標	(1)職場における問題に対して必要な心理に関する支援について説明できる【知識・理解】 (2)組織における人の行動について説明できる【知識・理解】 (3)積極的傾聴技法、ストレスチェックの手法を、日頃の対人関係に応用できる【汎用的技能】 (4)組織の諸問題やキャリア諸理論を学ぶなかで自分自身に向き合い、深く自己理解できる【態度・志向性】
授業計画	第一回：産業・組織心理学とは 第二回：職業性ストレスとメンタルヘルス 第三回：産業・組織分野における心理学的アセスメント 第四回：リーダーシップ理論 第五回：ワークモチベーション／エンゲージメント 第六回：職場集団のダイナミクスとコミュニケーション 第七回：産業・組織分野の制度・法律 第八回：面接相談の基本を学ぶ1　～産業・組織分野における心理学的援助～ 第九回：面接相談の基本を学ぶ2　～積極的傾聴法の要所～ 第十回：面接相談の基本を学ぶ3　～キャリア発達・キャリア開発～ 第十一回：面接相談の基本を学ぶ4　～職場復帰支援～ 第十二回：面接相談の基本を学ぶ5　～人事部門・管理職からの相談対応～ 第十三回：最近の産業・組織分野の心理職の活動領域１　～組織開発～ 第十四回：最近の産業・組織分野の心理職の活動領域２　～健康経営～ 第十五回：最近の産業・組織分野の心理職の活動領域２　～人的資本経営／女性活躍～
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：(学習時間2時間) 事前に指定するキーワードについて参考図書等で下調べし、manabaの小レポートとして提出する 授業後学習：(学習時間2時間) 授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。 松蔭manaba「小テスト」に掲載する理解度確認テストで理解度を確かめる
授業方法	基本的には講義形式で授業を進めますが、テーマによってグループワークやペアワーク等も行っていただきます。 授業のテーマとなるキーワードについて下調べいただいた内容は、毎回の授業の冒頭にグループまたはペアで共有をいただきます。
評価基準と評価方法	各授業後の小テスト：20% 各授業前の小レポート：30% 期末のレポート：50% の内訳で評価を行います。 いずれも、到達目標（１）～（４）の達成度合いの確認のために行います。
履修上の注意	①下調べした内容の「レポート」は、授業の前日までにmanaba「レポート」で提出をお願いいたします ②授業の振り返り「アンケート」は、当日を含む三日以内に松蔭manaba「アンケート」で提出をお願いいたします ③授業の初めに、下調べしたキーワードについてグループまたはペアでディスカッションを行いますので遅刻なさらないようにお願いいたします ④各授業で使用する資料は印刷せずmanaba上に事前に公開いたします。各自、授業中にPC、スマホ等のデバイスでご覧いただくか、必要に応じて資料の印刷にご協力をお願いいたします
教科書	講義用の資料は講師にて準備いたしますので、特定の書籍のご購入は必要ありません。 「履修上の注意」に記載の通り、資料は印刷せずmanaba上にデータをアップロードいたします。
参考書	・「産業・組織心理学　個人と組織の心理学的支援のために」　加藤容子・三宅美樹編著　ミネルヴァ書房　ISBN：978-4-623-08720-4 ・「公認心理師の基礎と実践⑳―産業・組織心理学」　野島和彦・繁桝算男監修　新田泰生編　遠見書房　ISBN：978-4-86616-070-2 ・「産業・組織カウンセリング実践の手引き　基礎から応用への全８章」　三浦由美子・磯崎富士雄・斎藤壮士著　遠見書房　ISBN：978-4-86616-131-0

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	社会・集団・家族心理学A						
担当教員	土肥　伊都子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P1204A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	自己，対人関係に関する社会心理学の知見、理論を習得する。
授業の概要	個人の行動や態度、感情や性格などは、生育環境や現在の社会的環境、身近な他者の存在などによって大きく影響を受けている。反対に一人一人の行動が、思わぬ集合現象や集団的活動を引き起こす。本講義では、こうした個人と社会の相互影響について理解すべく、自己、対人関係に関する社会心理学の知見、理論を学習する。
到達目標	(1)　対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程について、理解し人に説明できる。【知識・理解】 (2)　人の態度及び行動についての理論を理解している。【知識・理解】 (3)　家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について、人に説明できる。【知識・理解】
授業計画	第１回　社会心理学とは 第２回　社会心理学の方法・社会行動の原則 第３回　対人認知、ステレオタイプと偏見 第４回　帰属 第５回　印象形成 第６回　自己意識、自己概念、自尊心 第７回　社会的比較 第８回　対人魅力 第９回　対人コミュニケーション、非言語コミュニケーション 第１０回　自己開示 第１１回　認知的整合性、態度の機能と構造 第１２回　説得による態度と行動の変化 第１３回　社会的影響 第１４回　前期授業の補足，質疑応答 第１５回　前期試験と後期授業の説明
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習すること。(学習時間：2時間) 授業後学習：授業内容に関連した新聞記事や書籍を見つけて、manabaにその記事の内容を投稿する。(学習時間：２時間)
授業方法	講義形式
評価基準と評価方法	平常点（今後に活かせる授業内容に関する小レポート）　30%　到達目標(1)(3)に関する到達度の確認、 定期試験　70%　到達目標(2)に関する到達度の確認
履修上の注意	座席指定 教科書は，毎回必携
教科書	「自ら挑戦する社会心理学」　土肥伊都子　（編著）　保育出版社　2014　ISBN 978-4-905493-14-3
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	社会・集団・家族心理学B						
担当教員	土肥　伊都子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P1204B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	集団，家族、文化に関する社会心理学の知見、理論を習得
授業の概要	集団、家族、および文化が個人に及ぼす影響についてhttps://portal.shoin.ac.jp/synsyllabus/ContentMenu.do#て理解すべく、家族の機能や家族内人間関係、家族と社会と の関係について学習する。
到達目標	(1)対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程について、理解し人に説明できる。【知識・理解】 (2)人に関する現象について、適切な方法で把握し、分析することができる。【汎用的技能】 (3)　家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について、人に説明できる。【知識・理解】
授業計画	第１回　　同調と服従、意思決定 第２回　　集団・組織規範、制度 第３回　　援助・攻撃行動 第４回　　リーダーシップ 第５回　　文化的存在としての人間、異文化接触 第６回　　集団としての家族の普遍性と特殊性 第７回　　家族の機能（性、情緒、社会化） 第８回　　家族の発達段階、夫婦関係 第９回　　生殖革命、育児 第１０回　親子・きょうだい関係 第１１回　食・住文化と家族関係 第１２回　ワークライフバランス 第１３回　高齢化社会における家族と福祉 第１４回　補足説明と質疑応答 第１５回　後期試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習すること。(学習時間：2時間) 授業後学習：授業内容に関連した新聞記事や書籍を見つけて、manabaにその記事の内容を投稿する。(学習時間：２時間)
授業方法	講義形式
評価基準と評価方法	平常点（今後に活かせる授業内容に関する小レポート）　30%　到達目標(1)(3)に関する到達度の確認、 定期試験　70%　到達目標(2)に関する到達度の確認
履修上の注意	座席指定 教科書は，毎回必携
教科書	「自ら挑戦する社会心理学」　土肥伊都子　（編著）　保育出版社　2014　（第1回から第5回まで） ISBN 978-4-905493-14-3 「学びを人生へつなげる家族心理学」　土肥伊都子　（編著）　保育出版社　2017　（第6回から第14回まで） ISBN 978-4-905493-28-0
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学調査法						
担当教員	安原　秀和					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P22040
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学調査の手法および統計ソフト操作方法を習得する
授業の概要	心理学調査法の一手法である質問紙調査について学習します。質問紙の作成から統計ソフトを用いた分析までの 実習を行い、卒業論文執筆に必要な統計手法を身につけることを目指します。
到達目標	(1) 心理学調査に使用される統計手法を理解し、数値の読み取りができるようになる【知識・理解】 (2) 調査目的に応じたデータの収集・分析方法を自分で選択できるようになる【汎用的技能】 (3) 統計ソフトSPSSの操作方法を習得する【汎用的技能】
授業計画	第 1回 心理学調査の方法を知る 第 2回 心理学調査を計画する 第 3回 質問紙を作成する 第 4回 データを入力・整理する 第 5回 データを読む:単純集計 第 6回 2つの変数の関係を調べる:相関 第 7回 クロス集計表を解析する:χ2検定 第 8回 7回までを振り返る:小テスト 第 9回 平均値を比べる1:t検定 第10回 平均値を比べる2:分散分析 第11回 合成変数を作る:主成分分析 第12回 共通因子を見つける:因子分析 第13回 結果を解釈し、考察する 第14回 13回までを振り返る:小テスト 第15回 授業のまとめ/最終試験 授業でのPC操作を支援するため、SAを各回の授業に配置しています。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	本講義の内容と「心理学統計法/統計基礎論」の内容について予習・復習したうえで授業に臨んでください。 必要であれば、統計に関する図書、ネットサイトなども利用してください。 宿題を出します。 基本的なパソコン操作は理解しているものとして授業を行います。 【授業前準備学習】 各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、事前にPCを用いて課題を行う(2時間) 【授業後学習】 授業で行った分析の内容を確認し、SPSSの操作について復習する。また、宿題を行い、理解度を確かめる(2時間)
授業方法	【対面授業】 講義とPCを使用した実習
評価基準と評価方法	平常点(30%) 到達目標1)から3)に関する到達度の確認 実習への取り組み、課題・宿題への取り組みを総合的に評価します。 宿題は、次の授業で全体に向けてフィードバックして知識を共有すると共に、必要な箇所は個別にフィードバックします。 試験(70%) 到達目標1)から3)に関する到達度の確認 (1)小テスト2回:授業前半/後半の2回、小テストを実施します。 小テストは添削後返却し、各自の到達度の確認に活用します。 (2)最終試験:授業全体における到達度の確認を行います。
履修上の注意	「心理学統計法/統計基礎論」単位修得者のみ受講可能です。 「心理学統計法/統計基礎論」の資料や教科書を読んで授業に臨んで欲しいです。 全ての講義に出席することが望ましいです。 5回の欠席で受講資格を失います。 受講の際には私語や携帯電話の操作を慎むなど、最低限のマナーを守り、他の受講生に迷惑をかけないようにしてください。 守れない場合には、退席していただくこともあります。授業計画は、必要に応じて変更することがあります。

教科書	寺島拓幸・廣瀬毅士 (2021). 「心理学・社会学のためのSPSSによるデータ分析」 東京図書 ISBN978-4489023804
参考書	必要に応じて紹介します。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学調査法						
担当教員	安原　秀和					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P22040
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学調査の手法および統計ソフト操作方法を習得する
授業の概要	心理学調査法の一手法である質問紙調査について学習します。質問紙の作成から統計ソフトを用いた分析までの 実習を行い、卒業論文執筆に必要な統計手法を身につけることを目指します。
到達目標	(1) 心理学調査に使用される統計手法を理解し、数値の読み取りができるようになる【知識・理解】 (2) 調査目的に応じたデータの収集・分析方法を自分で選択できるようになる【汎用的技能】 (3) 統計ソフトSPSSの操作方法を習得する【汎用的技能】
授業計画	第 1回 心理学調査の方法を知る 第 2回 心理学調査を計画する 第 3回 質問紙を作成する 第 4回 データを入力・整理する 第 5回 データを読む:単純集計 第 6回 2つの変数の関係を調べる:相関 第 7回 クロス集計表を解析する:χ2検定 第 8回 7回までを振り返る:小テスト 第 9回 平均値を比べる1:t検定 第10回 平均値を比べる2:分散分析 第11回 合成変数を作る:主成分分析 第12回 共通因子を見つける:因子分析 第13回 結果を解釈し、考察する 第14回 13回までを振り返る:小テスト 第15回 授業のまとめ/最終試験 授業でのPC操作を支援するため、SAを各回の授業に配置しています。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	本講義の内容と「心理学統計法/統計基礎論」の内容について予習・復習したうえで授業に臨んでください。 必要であれば、統計に関する図書、ネットサイトなども利用してください。 宿題を出します。 基本的なパソコン操作は理解しているものとして授業を行います。 【授業前準備学習】 各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習し、事前にPCを用いて課題を行う(2時間) 【授業後学習】 授業で行った分析の内容を確認し、SPSSの操作について復習する。また、宿題を行い、理解度を確かめる(2時間)
授業方法	【対面授業】 講義とPCを使用した実習
評価基準と評価方法	平常点(30%) 到達目標1)から3)に関する到達度の確認 実習への取り組み、課題・宿題への取り組みを総合的に評価します。 宿題は、次の授業で全体に向けてフィードバックして知識を共有すると共に、必要な箇所は個別にフィードバックします。 試験(70%) 到達目標1)から3)に関する到達度の確認 (1)小テスト2回:授業前半/後半の2回、小テストを実施します。 小テストは添削後返却し、各自の到達度の確認に活用します。 (2)最終試験:授業全体における到達度の確認を行います。
履修上の注意	「心理学統計法/統計基礎論」単位修得者のみ受講可能です。 「心理学統計法/統計基礎論」の資料や教科書を読んで授業に臨んで欲しいです。 全ての講義に出席することが望ましいです。 5回の欠席で受講資格を失います。 受講の際には私語や携帯電話の操作を慎むなど、最低限のマナーを守り、他の受講生に迷惑をかけないようにしてください。 守れない場合には、退席していただくこともあります。授業計画は、必要に応じて変更することがあります。

教科書	寺島拓幸・廣瀬毅士 (2021). 「心理学・社会学のためのSPSSによるデータ分析」 東京図書 ISBN978-4489023804
参考書	必要に応じて紹介します。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	障害者・障害児心理学						
担当教員	古村　真帆					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P32060
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	身体障害，知的障害及び精神障害の概要について学ぶとともに，障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援についての理解の視点を育む。
授業の概要	身体障害，知的障害及び精神障害の特徴や，そうした困難さを抱える障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援について，当事者の視点に立って理解するという姿勢を養っていく。
到達目標	1. 代表的な身体障害，知的障害及び精神障害についての知識を得て，人に説明ができる。【知識・理解】【汎用的技能】 2. 障害者・障害児の心理社会的課題について，当事者の立場に立ってその困難さを具体的に人に説明ができる。【態度・志向性】【汎用的技能】 3. 障害者・障害児に対する支援について理論や法律，施設・機関などについて，人に説明ができる。【知識・理解】【汎用的技能】
授業計画	第1回：オリエンテーション　～“障碍”とはなんなのだろうか～ 第2回：子どもの心と体の発達　～発達はどこで生まれるのか～ 第3回：子どもの発達の困難さ　～“関係障碍”と二次障害～ 第4回：障碍のある人の視点に立つということ　～体験ワークと発表グループ作り～ 第5回：“身体障害”ってなんだろう①　～体の不自由さとその支援を体験する～ 第6回：“身体障害”ってなんだろう②　～目に見えない困難さ～ 第7回：“知的障害”ってなんだろう①　～理解の困難さとは～ 第8回：“知的障害”ってなんだろう②　～ライフステージを踏まえた支援の検討～ 第9回：知能や発達を測定するということ　～代表的な検査と実施の功罪～ 第10回：“発達障害”ってなんだろう①　～“外”から見る自閉症～ 第11回：“発達障害”ってなんだろう②　～“内”から見る自閉症～ 第12回：“発達障害”ってなんだろう③　～ADHD，LD，DCDの世界を体験する～ 第13回：様々な支援技法を体験する 第14回：障碍のある人を理解する体験ワークのグループ発表 第15回：振り返りと試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各授業で扱う授業のキーワードに関して，参考書や授業内で配布される補足資料などに目を通すとともに，障碍に関するテレビや小説，映画などを子育てを巡る“心の動き”という観点から観ること。（作品紹介を各回の感想シートにて求める）＜学習時間：2時間＞ 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。＜学習時間：2時間＞
授業方法	基本的に講義形式で行うが，必要に応じて映像資料や絵本や写真など視聴覚的な資料を用いることや，ロールプレイなどの体験学習を用いる。加えて，グループワーク（調べ学習とその成果のプレゼンテーション）を一部行う。
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度（30%）：到達目標1,2,3の達成度確認 グループ発表（35%）：到達目標2の達成度確認 期末試験（35%）：到達目標1,2,3の達成度確認 ※授業への参加・貢献度は授業時間内に行う感想・質問シートの記入を元に算定する。 感想・質問シートに関しては毎回の授業にて紹介・解説を行う。 グループ発表や試験に関しても，重要な内容は適宜補足や解説を行う。
履修上の注意	欠席が5回を超える場合には単位を認定しない。また遅刻は2分の1欠席として計算する。 15分以上の遅刻は欠席として扱うものとする。
教科書	特に指定せず，授業内にて資料を配布する。
参考書	藤本浩一・金綱知征・榊原久直（2019）読んでわかる児童心理学．サイエンス社． ISBN：978-4781914541 赤木 和重（2018）目からウロコ!驚愕と共感の自閉症スペクトラム入門．全国障害者問題研究会出版部．978-4881347157

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	消費社会の心理学						
担当教員	杉林　弘仁					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P43040
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	この授業は，消費する側の「心理」から捉えられる「消費行動」を捉えます。そして，製品やサービスを提供する側の「企業の行動」を捉えます。個人の消費心理と企業の意図の2つの立場から「消費社会」について考えるフレームをもつことがこの授業のテーマです。
授業の概要	本講では消費者行動論をベースにして消費心理について考えます。皆さん「なぜ，それを買ったのか」自分の消費行動について，あまり考えることはないと思います。人々の消費行動は，不思議に充ち満ちた世界です。この不思議の「消費」について考える「道具」です。この不思議の解明に乗りだそうというのがこの講義の内容です。 　授業の計画は３部構成です。最初は「個人としての消費者」から入ります。消費者行動の心理を理解するための理論や概念をつかみます。消費者行動論はマーケティングとの関わりは外せません。その次は，企業はどのようにして消費者の行動を読み取りマーケティングに活かそうとしているのか。企業のマーケティング視点から消費者行動論を捉えます。そして，最後は「社会的存在としての消費者」から消費社会の理解に入ります。
到達目標	（1）消費者心理に基づく消費行動を理解し，企業はどのようにして消費者の行動を読み取りマーケティングに活かそうとしているのか，消費と企業から消費社会の構造について説明できる。【知識･理解】 （2）教室の中や本の上でなく，市場をみる目を養い，日常からの購買心理の発見への工夫ができる。【態度･志向性】 （3）自ら積極的のコミュニケーションを図る態度を身につける。【汎用的技能】
授業計画	第1週　　イントロダクションとして，市場と企業の関わりについて考えます。みんなは消費者であること。最初に社会・経済・消費の構造を理解します。 第2週　　「消費者行動とは何なのか」まず，消費者行動論の全体像をつかみます。マーケティングの基礎的な理解をかねて，マーケティングと消費者行動の関わりを理解します。 第3週　　「消費者にとって現実はひとつじゃない」知覚のプロセスについて理解します。 第4週　　「消費者はどのように製品やサービスを学ぶのか」学習のプロセスを学習します。 第5週　　「人は何によって動かされるのか」消費者の情報処理と記憶のメカニズムを学習します。購買へと促す動機づけについて考えます。 第6週　　「なぜ好きと嫌いが生まれるのか」消費者の「態度」の形成について学習します。 第7週　　消費者は問題を解決する。「なぜ，それを買ったのか」消費者の購買意志決定のプロセスについて学習します。 第8週　　ここから企業の立場からの学習です。「消費者をどのように切り分けるのか」市場細分化について理解します。 第9週　　「消費者をどのように説得させるのか」企業のマーケティング･コミュニケーションについて学習します。 第10週 店頭からのマーケティングとして，「売れる店舗レイアウト」と「売れる販売」，そして「マーチャンダイジングとは何か」を学習します。 第11週 「買い物は自己表現なのか」「消費が自己のアイデンティティを示すのか」消費とアイデンティティについて考えます。 第12週 「買い物は誰が決めるのか」家族や組織としての購買意志決定について考えます。 第13週 我々は「社会的動物」としての個人です。個人に影響を与える「集団」について考えます。 第14週 「なぜブランド品を選ぶのか、製品はライフスタイルの基礎か」社会階級とライフスタイル，「ステイタス」について考えます。 第15週 「文化とは何か」、文化と消費者行動について考えます。消費者行動論の総復習として確認テスト，その解説と消費者行動論のポイントを振り返ります。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	（準備学習の内容・時間） 授業前：課題を出します。（2時間） 授業後：テキストや授業で得た知見から，実際の消費者行動を企業のマーケティング活動に照らして「考えてみる時間」をとってください。 それには，フィールドにでて観察することです。現場で得た知見やアイデアを，ノートを作って記録することを求めます。（2時間）
授業方法	・授業はパワーポイントを使って「講義形式」で進めますが，状況によって授業予定項目がかわる場合があります。 ・受講者数にもよりますが，双方コミュニケーションを図るため随時発言を求め，ディスカッションの時間も設けます。
評価基準と評価方法	●評価基準と評価方法＜Evaluation＞ ・授業への取組みや積極性 20%：。授業での発言やコメントなど授業への貢献度や「態度」をみます。 ・期中のレポートもしくはテスト30%：　状況みて途中でレポートもしくはテストを行います。 ・期末の確認テスト 50%
履修上の注意	出席点というものは存在しませんが，出席が60%以下の受講生は期末テストを受けることはできません。

教科書	松井剛･西川英彦他(2020)『１からの消費者行動論 第2版』（碩学舎/中央経済社） 2,400円
参考書	皆さんの状況をみて随意，紹介していきます。 松井剛･大竹光寿･北村真琴訳(2015)『ソロモン消費者行動論』8,800円 青木幸弘･新倉貴士･佐々木壮太郎他(2012)『消費者行動論　マーケティングとブランド構築への応用』他著(有斐閣) 2,200円

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	司法・犯罪心理学						
担当教員	淺田　慎太郎					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P43060
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	司法・犯罪領域に関する心理学
授業の概要	司法・犯罪に関する心理学について学びます。 講師は臨床心理士・公認心理師として、元受刑者の立ち直りを支援しています。 その経験も踏まえて、主に、司法・犯罪領域における心理臨床について講義します。
到達目標	①犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を獲得できる。【知識・理解】 ②司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援についての基本的知識を獲得できる。【知識・理解】
授業計画	第1回　司法・犯罪領域について、犯罪統計、非行・犯罪に対応する社会的枠組み（前半） 第2回　非行・犯罪に対応する社会的枠組み（後半）、出所後の元受刑者 第3回　非行・犯罪の個体要因、環境要因 第4回　社会構造・社会過程としての非行・犯罪（前半） 第5回　社会構造・社会過程としての非行・犯罪（後半） 第6回　非行・犯罪のリスク・アセスメント 第7回　司法心理療法概論 第8回　司法心理療法①：事例を通して理解する 第9回　司法心理療法②：事例を通して理解する 第10回　非行・犯罪とアタッチメント 第11回　精神鑑定 第12回　刑務所での治療 第13回　犯罪被害者への支援 第14回　女性の犯罪、試験にむけてのQ&A 第15回　到達度確認のための試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：基本的に資料はありません。事前資料がある場合は、ポータルを通して配布します。自分で印刷してお持ちください。それに目を通したり、参考図書を読んで予習しましょう。（2時間） 授業後：講義内容を振り返り、復習をしてください。（2時間）
授業方法	講義形式で行います。 内容によっては、グループでのディスカッションを行います。
評価基準と評価方法	試験70%　到達目標①及び②に関する到達度の確認 平常点30%　到達目標①及び②に関する到達度の確認 総合して60%未満の場合は、不可になります。
履修上の注意	欠席は3回を上限とします。 したがって、欠席が4回になった時点で、試験受験資格を失います。 配慮可能性については適宜相談が必要です。 また非行・犯罪関係の内容であるため、学術的テーマとして、人が人を傷つけたり、傷つけられたりすることについて話がおよびます。 苦手な人は、履修するかどうかを十分検討してください。
教科書	特にありません。
参考書	犯罪統計について：『犯罪白書』『警察白書』 犯罪心理学について：『犯罪心理学事典』『犯罪行動の心理学［原著第6版］』『犯罪心理学―行動科学のアプローチ』 司法臨床について：『司法心理療法―犯罪と非行への心理学的アプローチ』『児童虐待・解離・犯罪:暴力犯罪への精神分析的アプローチ』 このあたりがおすすめです。 よくある「犯罪心理学入門」的な本でもかまいません。 興味があれば読んでみてください。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	神経・生理心理学						
担当教員	中尾　美月					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P12060
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	ココロとカラダの関係を科学する。
授業の概要	心はどこにあるのだろうか。それは脳だろうか。緊張すると心臓がどきどきしたり，胃が痛くなったりするということは，心臓や胃にあるのだろうか。それとも身体のどこにも存在しないのだろうか。 この授業では，心と身体の関係について，古典的ともいえる知見から，最新の脳科学研究の成果に至るまで，数多くの興味深いトピックを紹介する。さらに，心のありかについて自らの考えをまとめることで，人に対するより深い理解と関心が持てるようになることを目指す。
到達目標	①脳神経系の構造及び機能について論じることができる。（知識・理解） ②記憶，感情等の生理学的反応の機序について論じることができる。（知識・理解） ③高次脳機能障害の概要について論じることができる。（知識・理解） ④心と身体の関係を調べる神経・生理学的な方法について論じることができる。（知識・理解） ⑤心のありかについて自らの考えをまとめることで，人に対するより深い理解と関心が持てるようになる。（態度・志向性）
授業計画	第 1回　　神経・生理心理学とは 第 2回　　脳　あなたは右脳タイプ？左脳タイプ？ 第 3回　　視覚　なぜものが見えるのか 第 4回　　顔認識　なぜアヒルロが流行ったのか 第 5回　　知覚の統合　青い食べ物でダイエット？ 第 6回　　記憶1　記憶の亡霊 第 7回　　記憶2　マインドマップを描こう 第 8回　　知能　脳トレで頭が良くなる？ 第 9回　　発達　赤ちゃんはワンダーランド 第10回　　感情　泣くから悲しい？ 第11回　　ストレス　癒しの脳科学 第12回　　恋愛　愛は麻薬？それとも絆？ 第13回　　人間らしさ　脳の中のもうひとりの私 第14回　　まとめ　心はどこにある？ 第15回　　レポート解説
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業の最後に次回授業のキーワードを示すので，文献やインターネットを使って調べておく。（学習時間：60分） 授業後学習：授業で学んだ内容について，リアクションペーパーを作成する。（学習時間：120分）
授業方法	講義：基本的にパワーポイントと配付プリントで授業を進める。授業後，1週間以内にリアクションペーパー（授業内容についてのコメント・質問など）を作成し，manabaを使って提出することを求める。リアクションペーパーに書かれた内容については，その一部を翌週の授業で紹介・解説する。
評価基準と評価方法	リアクションペーパー50%：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問など）。到達目標①②③④に関する到達度の確認。 レポート50%：第14回ではリアクションペーパーではなくレポートの提出を求める。到達目標⑤に関する到達度の確認。
履修上の注意	基本的に，授業を聞きたい者にとって邪魔になる行為を禁止する。 私語は厳禁。私語で周りに迷惑をかける者には退場を命じることもある。
教科書	教科書は使用しない。毎週プリントを配付する。
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理演習A						
担当教員	小松　貴弘					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P3303A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理的支援に関する知識及び技能の基本的な水準の習得
授業の概要	心理に関する支援を要する具体的な場面を想定した事例検討やロールプレイ（役割演技）を通じて、心理的支援に関する知識及び技能について学ぶ。
到達目標	心理に関する支援を要するものなどに関する以下の知識及び技能を習得する。【汎用的技能】【態度・志向性】 コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等
授業計画	第１回　オリエンテーション：授業の位置づけ、進め方、評価方法等 第２回　心理支援の基本的な枠組みとルール 第３回　コミュニケーション①：報告と討論 第４回　コミュニケーション②：演習 第５回　コミュニケーション③：ロールプレイ 第６回　心理検査①：報告と討論 第７回　心理検査②：演習 第８回　心理検査③：ロールプレイ 第９回　心理面接①：報告と討論 第10回　心理面接②：演習 第11回　心理面接③：ロールプレイ 第12回　地域支援とチームアプローチ①：報告と討論 第13回　地域支援とチームアプローチ②：演習 第14回　地域支援とチームアプローチ③：ロールプレイ 第15回　まとめと振り返り、心理演習Bに向けて
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回の内容に関連した書籍の講読。＜２時間＞ 授業後学習：課題レポートの作成。＜２時間＞
授業方法	演習形式。グループワークやロールプレイ、発表やディスカッションを中心とする。
評価基準と評価方法	グループワークやロールプレイへの参加姿勢と発表やディスカッションの内容（40%）、各回の授業レポート（30%）、課題レポート及び期末レポート（30%）により到達目標に関する到達度の確認をおこなう。
履修上の注意	「カウンセリング基礎演習」「基礎演習A」「基礎演習B」「心のふしぎ」「心理学概論」「心理学実験A」「心理学実験B」「臨床心理学概論A」「臨床心理学概論B」「心理学的支援法」「心理的アセスメントA」「心理的アセスメントB」「心理学統計法」（計13科目）のうち11科目以上の単位を修得済みであること。 ※転科生・編入生については、「心理学概論」「カウンセリング基礎演習」「臨床心理学概論A」「臨床心理学概論B」「心理学的支援法」「心理的アセスメントA」「心理的アセスメントB」「心理学統計法」「心理学実験A」「心理学実験B」（計10科目）のうち８科目以上の単位を修得済みであること。 遅刻・欠席は厳しく査定する。原則３回以上欠席した場合は単位認定を行わない。
教科書	特になし
参考書	授業内で紹介する

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理演習A						
担当教員	山本　竜也					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P3303A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理的支援に関する知識及び技能の基本的な水準の習得
授業の概要	心理に関する支援を要する具体的な場面を想定した事例検討やロールプレイ（役割演技）を通じて、心理的支援に関する知識及び技能について学ぶ。
到達目標	心理に関する支援を要するものなどに関する以下の知識及び技能を習得する。【汎用的技能】【態度・志向性】 コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等
授業計画	第１回　オリエンテーション：授業の位置づけ、進め方、評価方法等 第２回　心理支援の基本的な枠組みとルール 第３回　コミュニケーション①：報告と討論 第４回　コミュニケーション②：演習 第５回　コミュニケーション③：ロールプレイ 第６回　心理検査①：報告と討論 第７回　心理検査②：演習 第８回　心理検査③：ロールプレイ 第９回　心理面接①：報告と討論 第10回　心理面接②：演習 第11回　心理面接③：ロールプレイ 第12回　地域支援とチームアプローチ①：報告と討論 第13回　地域支援とチームアプローチ②：演習 第14回　地域支援とチームアプローチ③：ロールプレイ 第15回　まとめと振り返り、心理演習Bに向けて
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回の内容に関連した書籍の講読。＜２時間＞ 授業後学習：課題レポートの作成。＜２時間＞
授業方法	演習形式。グループワークやロールプレイ、発表やディスカッションを中心とする。
評価基準と評価方法	グループワークやロールプレイへの参加姿勢と発表やディスカッションの内容（40%）、各回の授業レポート（30%）、課題レポート及び期末レポート（30%）により到達目標に関する到達度の確認をおこなう。
履修上の注意	「カウンセリング基礎演習」「基礎演習A」「基礎演習B」「心のふしぎ」「心理学概論」「心理学実験A」「心理学実験B」「臨床心理学概論A」「臨床心理学概論B」「心理学的支援法」「心理的アセスメントA」「心理的アセスメントB」「心理学統計法」（計13科目）のうち11科目以上の単位を修得済みであること。 ※転科生・編入生については、「心理学概論」「カウンセリング基礎演習」「臨床心理学概論A」「臨床心理学概論B」「心理学的支援法」「心理的アセスメントA」「心理的アセスメントB」「心理学統計法」「心理学実験A」「心理学実験B」（計10科目）のうち８科目以上の単位を修得済みであること。 遅刻・欠席は厳しく査定する。原則３回以上欠席した場合は単位認定を行わない。
教科書	特になし
参考書	授業内で紹介する

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理演習B						
担当教員	小松　貴弘					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P3303B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理的支援に関する知識及び技能の基本的な水準の習得
授業の概要	心理に関する支援を要する具体的な場面を想定した事例検討やロールプレイ（役割演技）を通じて、心理的支援に関する知識及び技能について学ぶ。
到達目標	（１）心理に関する支援を要するもの等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成ができる。【汎用的技能】 （２）心理に関する支援を要するものへの現実生活を視野に入れたチームアプローチができる。【汎用的技能】 （３）多職種連携及び地域連携ができる。【態度・志向性】 （４）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解を持てる。【態度・志向性】
授業計画	第１回　オリエンテーション：授業の位置づけ、進め方、評価方法等 第２回　ニーズの把握と支援計画①：報告と討論 第３回　ニーズの把握と支援計画②：演習 第４回　チームアプローチ①：報告と討論 第５回　チームアプローチ②：演習 第６回　多職種連携及び地域支援①：報告と討論 第７回　多職種連携及び地域支援②；演習 第８回　公認心理師の職業倫理と法的義務①：報告と討論 第９回　公認心理師の職業倫理と法的義務②：演習 第10回　ロールプレイ① 第11回　ロールプレイ② 第12回　ロールプレイ③ 第13回　ロールプレイ④ 第14回　ロールプレイ⑤ 第15回　まとめと振り返り、心理実習に向けて
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回の内容に関連した書籍の講読。＜２時間＞ 授業後学習：課題レポートの作成。＜２時間＞
授業方法	演習形式。グループワークやロールプレイ、発表やディスカッションを中心とする。
評価基準と評価方法	グループワークやロールプレイへの参加姿勢と発表やディスカッションの内容（40%）、各回の授業レポート（30%）、課題レポート及び期末レポート（30%）により到達目標の（１）～（４）に関する到達度の確認をおこなう。
履修上の注意	「心理演習A」の単位を修得済みであること。 遅刻・欠席は厳しく査定する。原則３回以上欠席した場合は単位認定を行わない。
教科書	特になし
参考書	授業中に紹介する

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理演習B						
担当教員	山本　竜也					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P3303B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理的支援に関する知識及び技能の基本的な水準の習得
授業の概要	心理に関する支援を要する具体的な場面を想定した事例検討やロールプレイ（役割演技）を通じて、心理的支援に関する知識及び技能について学ぶ。
到達目標	（１）心理に関する支援を要するもの等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成ができる。【汎用的技能】 （２）心理に関する支援を要するものへの現実生活を視野に入れたチームアプローチができる。【汎用的技能】 （３）多職種連携及び地域連携ができる。【態度・志向性】 （４）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解を持てる。【態度・志向性】
授業計画	第１回　オリエンテーション：授業の位置づけ、進め方、評価方法等 第２回　ニーズの把握と支援計画①：報告と討論 第３回　ニーズの把握と支援計画②：演習 第４回　チームアプローチ①：報告と討論 第５回　チームアプローチ②：演習 第６回　多職種連携及び地域支援①：報告と討論 第７回　多職種連携及び地域支援②；演習 第８回　公認心理師の職業倫理と法的義務①：報告と討論 第９回　公認心理師の職業倫理と法的義務②：演習 第10回　ロールプレイ① 第11回　ロールプレイ② 第12回　ロールプレイ③ 第13回　ロールプレイ④ 第14回　ロールプレイ⑤ 第15回　まとめと振り返り、心理実習に向けて
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回の内容に関連した書籍の講読。＜２時間＞ 授業後学習：課題レポートの作成。＜２時間＞
授業方法	演習形式。グループワークやロールプレイ、発表やディスカッションを中心とする。
評価基準と評価方法	グループワークやロールプレイへの参加姿勢と発表やディスカッションの内容（40%）、各回の授業レポート（30%）、課題レポート及び期末レポート（30%）により到達目標の（１）～（４）に関する到達度の確認をおこなう。
履修上の注意	「心理演習A」の単位を修得済みであること。 遅刻・欠席は厳しく査定する。原則３回以上欠席した場合は単位認定を行わない。
教科書	特になし
参考書	授業中に紹介する

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学概論						
担当教員	土肥　伊都子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P01020
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の学問の成り立ち，人の心の基本的な仕組みおよび働きについて学ぶ
授業の概要	心理学の幅広い分野を，教科書の内容にそって学習する．これにより，心理学という学問は，心のはたらきを「行動」として捉え，その法則を科学的に定立するものであることが理解できる．また，授業時間の一部を使ってできる，簡単な実験や質問紙調査を行い，自己分析も行う．
到達目標	(1)　心理学の成り立ちを理解できている。【知識・理解】 (2)　人の心の基本的な仕組み及び働きについて、理解できている。【知識・理解】
授業計画	第１回　　オリエンテーション　～科学としての心理学　　（PC必携） 第２回　　感覚・知覚 第３回　　学習 第４回　　記憶 第５回　　認知 第６回　　生理 第７回　　情動と動機づけ 第８回　　知能 第９回　　パーソナリティ 第１０回　発達 第１１回　臨床 第１２回　社会　その１ 第１３回　社会　その２ 第１４回　質疑応答、補足 第１５回　まとめ　　（PC必携）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習すること。(学習時間：2時間) 授業後学習：授業内容に関連した新聞記事や書籍を見つけて、manabaにその記事の内容を投稿する。(学習時間：２時間)
授業方法	【対面授業】 ＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	平常点　　30%　;　授業の理解度、自己の行動への適用可能性。到達目標(1)(2)に関する達成度の確認。 期末試験　　70%　;　到達目標(1)(2)に関する達成度の確認。
履修上の注意	教科書は必ず用意すること
教科書	「自ら実感する心理学」土肥伊都子（編著）（保育出版社） 2021年　ISBN 978-4-909378-31-6
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学研究法A						
担当教員	大和田　攝子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0305A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	卒業研究に向けて、自らの研究テーマを探索する。
授業の概要	臨床心理学領域の中から各自が関心を持つテーマについての文献を取り上げ、発表・討論を通して理解を深めるとともに、学術論文の形式や読み方など基本的な知識の習得を目指す。
到達目標	(1)心理学における実証的研究法（量的研究および質的研究）について説明できる。【知識・理解】 (2)データを用いた実証的な思考方法について説明できる。【知識・理解】 (3)研究における倫理について説明できる。【態度・志向性】
授業計画	第1回：オリエンテーション、発表割り当て 第2回：文献の種類と論文の形式について学ぶ 第3回：文献検索の方法を学ぶ 第4回：文献講読とディスカッション（1） 第5回：文献講読とディスカッション（2） 第6回：文献講読とディスカッション（3） 第7回：文献講読とディスカッション（4） 第8回：文献講読とディスカッション（5） 第9回：文献講読とディスカッション（6） 第10回：文献講読とディスカッション（7） 第11回：文献講読とディスカッション（8） 第12回：文献講読とディスカッション（9） 第13回：文献講読とディスカッション（10） 第14回：文献講読とディスカッション（11） 第15回：授業の総括と夏期休暇中の課題
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：研究テーマに関する文献を熟読し、発表資料を作成する。＜2時間＞ 授業後学習：発表や討論の内容を踏まえ、関連文献を収集する。＜2時間＞
授業方法	演習形式： 受講生による発表とディスカッションを行う。
評価基準と評価方法	平常点 50%　：質疑応答など授業への積極的参加。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 提出物 50%　：到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。
履修上の注意	発表者には入念な準備を、参加者には活発な討論を期待する。
教科書	適宜紹介する。
参考書	適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学研究法A						
担当教員	黒崎　優美					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0305A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の研究
授業の概要	４年次の「卒業研究」に向けて、研究テーマを設定し、研究論文の読み方や書き方を習得します。 各自の興味・関心に応じて先行研究を調べ、まとめた内容を発表し、ディスカッションを通して理解を深め、各自の研究テーマを決めていきます。
到達目標	(1)心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）について説明できる。【知識・理解】 (2)データを用いた実証的な思考方法について説明できる。【知識・理解】 (3)研究における倫理について説明できる。【態度・志向性】
授業計画	第 1回　オリエンテーション（授業の進め方） 第 2回　心理学の研究方法(1)　概説。練習用テーマの設定。班分け 第 3回　心理学の研究方法(2)　専門用語や先行研究の調べ方。概説 第 4回　心理学の研究方法(3)　専門用語や先行研究の調べ方。実践 第 5回　心理学の研究方法(4)　発表と討議 第 6回　興味・関心の明確化(1)　グループワーク（ブレインストーミング） 第 7回　興味・関心の明確化(2)　整理と資料作成 第 8回　興味・関心の明確化(3)　発表と討議 第 9回　先行研究から学ぶ(1)　整理 第10回　先行研究から学ぶ(2)　資料作成 第11回　先行研究から学ぶ(3)　1回目の発表と討議 第12回　先行研究から学ぶ(4)　整理 第13回　先行研究から学ぶ(5)　資料作成 第14回　先行研究から学ぶ(3)　2回目の発表と討議 第15回　中間発表（研究テーマ）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：文献購読、資料作成　＜２時間＞ 授業後学習：発表者へのコメント、資料の加筆修正　＜２時間＞
授業方法	講義、演習（グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション）
評価基準と評価方法	平常点と提出物により評価をおこなう。 ・平常点（質疑応答など授業への積極的参加）50%。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認 ・提出物50%。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認
履修上の注意	授業外時間も積極的に学び意見や質問をしてください グループワークやディスカッションに積極的に参加してください
教科書	なし
参考書	適宜紹介します。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学研究法A						
担当教員	小松　貴弘					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0305A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	社会や身の回りの人々、自分自身をさまざまな視点や角度から見つめながら、自らの心理学的研究の探求のためのテーマを見つける
授業の概要	卒業研究に向けて、研究の進め方の基本を学ぶとともに、各自の関心に基づいて読んだ文献について報告を行い、ディスカッションを通じて自らの関心のあり方を深めることを目指す。
到達目標	(1)心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）について説明できる。【知識・理解】 (2)データを用いた実証的な思考方法について説明できる。【知識・理解】 (3)研究における倫理について説明できる。【態度・志向性】
授業計画	第１回　オリエンテーション：自己紹介と報告の割り当て 第２回　研究の進め方を学ぶ(1)：テーマの探し方 第３回　研究の進め方を学ぶ(2)：文献の探し方と読み方 第４回　研究の進め方を学ぶ(3)：研究の計画の立て方 第５回　研究の進め方を学ぶ(4)：報告の仕方とディスカッションの仕方 第６回　文献調査に基づく報告とディスカッションⅠ(1)：発表グループ１ 第７回　文献調査に基づく報告とディスカッションⅠ(2)：発表グループ２ 第８回　文献調査に基づく報告とディスカッションⅠ(3)：発表グループ３ 第９回　研究計画の報告とディスカッション(1)：発表グループ１ 第10回　研究計画の報告とディスカッション(2)：発表グループ２ 第11回　研究計画の報告とディスカッション(3)：発表グループ３ 第12回　文献調査に基づく報告とディスカッションⅡ(1)：発表グループ１ 第13回　文献調査に基づく報告とディスカッションⅡ(2)：発表グループ２ 第14回　文献調査に基づく報告とディスカッションⅡ(3)：発表グループ３ 第15回　まとめ：総括と今後の課題
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には関連する文献を読み報告資料を作成すること。＜２時間＞ 授業後は文献の追加調査を行うこと。＜２時間＞
授業方法	演習形式。受講生の報告と質疑応答、ディスカッションを行う。
評価基準と評価方法	・平常点（質疑応答など授業への積極的参加）50%。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 ・提出物50%。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 ・課題に対するフィードバックの方法：発表に対するディスカッションとコメントを通じて行う。
履修上の注意	主体的に卒業研究に向けた学びに取り組み、積極的に発言し、ディスカッションに参加すること。
教科書	なし
参考書	適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学研究法A						
担当教員	土肥　伊都子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0305A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	社会心理学の先行研究のレビュー
授業の概要	社会心理学の研究分野の中から、学生自身が興味をもつテーマを選び、まとめ、発表する。以下にテーマの候補をあげる。自己・自己概念、対人認知、動機・感情、対人魅力、対人スキル、集団行動、リーダーシップ、社会的態度、ライフスタイル・価値観、精神的健康、職業意識、社会問題（ジェンダー、環境、福祉など）。
到達目標	(1)心理学における実証的研究法（量的研究および質的研究）について説明できる。【知識・理解】 (2)データを用いた実証的な思考方法について説明できる。【知識・理解】 (3)研究における倫理について説明できる。【態度・志向性】
授業計画	第１回　オリエンテーション，発表割当て 第２回　個人発表と討論１（研究テーマ案） 第３回　個人発表と討論２（研究テーマ案） 第４回　個人発表と討論３（研究テーマ案） 第５回　個人発表と討論４（研究テーマ案） 第６回　文献（研究論文・著書）の収集 第７回　文献（研究論文・著書）発表１ 第８回　文献（研究論文・著書）発表２ 第９回　文献（研究論文・著書）発表３ 第１０回　文献（研究論文・著書）発表４ 第１１回　文献（研究論文・著書）発表５ 第１２回　文献（研究論文・著書）発表６ 第１３回　文献（研究論文・著書）発表７ 第１４回　文献（研究論文・著書）発表８ 第１５回　夏季休暇中の課題についての説明と報告書の作成方法
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：自分が関心をもつ社会心理学に関する問題についての情報収集を行う。具体的には、心理学関係の著書、新聞などに目を通す（学習時間：2時間）。 事後学習：授業内で指示したテーマ・課題について、講義ノートにまとめる。(学習時間：２時間)。
授業方法	ゼミナール形式
評価基準と評価方法	・平常点（質疑応答など授業への積極的参加）50%。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 ・提出物50%。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。
履修上の注意	発表の際には、パワーポイントで作成したレジュメのファイルを、事前にmanabaに提出すること
教科書	なし
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学研究法A						
担当教員	中村　博文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0305A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	事象の心理学的理解
授業の概要	受講生各自が興味をもつ心理学のテーマについて、内外の文献を取り上げ、発表、討論を行う。 その過程で、心理学的観点に基づいた現象の理解、および研究の基本的な技法と態度を身につけることを目的とする。
到達目標	(1)心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）について説明できる。【知識・理解】 (2)データを用いた実証的な思考方法について説明できる。【知識・理解】 (3)研究における倫理について説明できる。【態度・志向性】
授業計画	#01：オリエンテーションー演習の進め方について #02：心理学論文の形式 #03：文献の種類 #04：文献検索の方法 #05：受講生による発表と討論ー1周目の① #06：受講生による発表と討論ー1周目の② #07：受講生による発表と討論ー1周目の③ #08：受講生による発表と討論ー1周目の④ #09：受講生による発表と討論ー1周目の⑤ #10：受講生による発表と討論ー2周目の① #11：受講生による発表と討論ー2周目の② #12：受講生による発表と討論ー2周目の③ #13：受講生による発表と討論ー2周目の④ #14：受講生による発表と討論ー2周目の⑤ #15：まとめ、文献リストの提出
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習（2時間以上）：関心がある領域についての文献を検索し、発表資料としてまとめる。 授業後学習（2時間以上）：授業内での討論を踏まえ、関連文献を複数検索し、読んでおく。
授業方法	演習形式。 毎回、数名ずつ（受講人数によりその数は異なる）発表を行い、それに基づいて全員での討論を行う。発表、討論ともに、積極的に取り組むことを求める。
評価基準と評価方法	平常点（50%）：発表や質疑応答など、授業への積極的参加。【到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認】 提出物（50%）：発表資料。また、学期末の文献リスト。【到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認】
履修上の注意	演習科目なので、出席と授業への参加態度を重視する。 1回の授業あたり、最低1回の発言を求める。
教科書	指定しない。
参考書	適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学研究法A						
担当教員	山本　竜也					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0305A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	興味のある心理学的事象を明確にし、先行研究について調べる。
授業の概要	心理学における研究法について説明し、4年生で行う卒業研究に向けて自ら研究計画を立案し、遂行できるように、興味のある心理学的事象を明確にし、先行研究について調べて報告する。また、心理学的研究を行うにあたり求められる倫理的配慮についても学ぶ。
到達目標	1. 心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）について説明できる。【知識・理解】 2. データを用いた実証的な思考方法について説明できる。【知識・理解】 3. 研究における倫理について説明できる。【態度・志向性】
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：心理学研究法の概要 第3回：興味・関心の明確化（1）　発表、質疑応答、討論 第4回：興味・関心の明確化（2）　第3回の続き 第5回：興味・関心の明確化（3）　第4回の続き 第6回：興味・関心のある心理学的事象について調べる（1）　文献の調査、報告 第7回：興味・関心のある心理学的事象について調べる（2）　第6回の続き 第8回：興味・関心のある心理学的事象について調べる（3）　第7回の続き 第9回：先行研究を調べる①（1）　発表、質疑応答、討論 第10回：先行研究を調べる①（2）　第9回の続き 第11回：先行研究を調べる①（3）　第10回の続き 第12回：先行研究を調べる②（1）　発表、質疑応答、討論 第13回：先行研究を調べる②（2）　第12回目の続き 第14回：先行研究を調べる②（3）　第13回目の続き 第15回：まとめ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には、授業内で報告をするために資料を作成する（2時間） 授業後には、授業内での意見に基づいて追加で文献を調べたり、資料を作成したりする（2時間）
授業方法	演習形式（ゼミ）。
評価基準と評価方法	平常点（質疑応答など授業への積極的参加）50%。到達目標（1）（2）（3）に関する到達度の確認 提出物50%。到達目標（1）（2）（3）に関する到達度の確認
履修上の注意	積極的な授業参加、主体的な活動を望む。
教科書	なし。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学研究法B						
担当教員	大和田　攝子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0305B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案する。
授業の概要	心理学研究法Aに引き続き、各自が関心を持つテーマについての文献を取り上げ、発表・討論を通して理解を深める。最終的には、卒業研究のテーマを決定し、研究計画を立案することを目指す。
到達目標	(1)心理学における実証的研究法（量的研究および質的研究）について説明できる。【知識・理解】 (2)データを用いた実証的な思考方法について説明できる。【知識・理解】 (3)研究における倫理について説明できる。【態度・志向性】
授業計画	第1回：文献研究に関する発表とディスカッション（1） 第2回：文献研究に関する発表とディスカッション（2） 第3回：文献研究に関する発表とディスカッション（3） 第4回：文献研究に関する発表とディスカッション（4） 第5回：文献研究に関する発表とディスカッション（5） 第6回：文献研究に関する発表とディスカッション（6） 第7回：文献研究に関する発表とディスカッション（7） 第8回：研究計画に関する発表とディスカッション（1） 第9回：研究計画に関する発表とディスカッション（2） 第10回：研究計画に関する発表とディスカッション（3） 第11回：研究計画に関する発表とディスカッション（4） 第12回：研究計画に関する発表とディスカッション（5） 第13回：研究計画に関する発表とディスカッション（6） 第14回：研究計画に関する発表とディスカッション（7） 第15回：授業の総括
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：研究テーマに関する文献を熟読し、発表資料を作成する。＜2時間＞ 授業後学習：発表や討論の内容を踏まえ、関連文献を収集する。＜2時間＞
授業方法	演習形式： 受講生による発表とディスカッションを行う。
評価基準と評価方法	平常点 50%　：質疑応答など授業への積極的参加。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 提出物 50%　：到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。
履修上の注意	発表者には入念な準備を、参加者には活発な討論を期待する。
教科書	適宜紹介する。
参考書	適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学研究法B						
担当教員	黒崎　優美					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0305B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の研究
授業の概要	４年次の卒業論文作成に向けて、「心理学研究法A」において決定した研究テーマについて、文献購読等を行いさらに理解を深めます。 作成した研究計画の内容を発表し、ディスカッションを通して理解を深め、研究計画書を完成させます。
到達目標	(1)心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）について説明できる。【知識・理解】 (2)データを用いた実証的な思考方法について説明できる。【知識・理解】 (3)研究における倫理について説明できる。【態度・志向性】
授業計画	第 1回　オリエンテーション（授業の進め方） 第 2回　研究計画書の立て方。概説 第 3回　研究計画書完成までの計画。 第 4回　研究計画書完成までの計画。発表と討議 第 5回　研究計画の検討(1)　導入 第 6回　研究計画の検討(2)　先行研究 第 7回　研究計画の検討(3)　仮説 第 8回　研究計画の検討(4)　資料作成 第 9回　研究計画の検討(5)　発表と討議 第10回　研究計画の検討(6)　研究方法 第11回　研究計画の検討(7)　尺度等の検討 第12回　研究計画の検討(8)　尺度作成等 第13回　研究計画の検討(9)　発表と討議 第14回　研究計画書の作成(1)　資料作成 第15回　研究計画書の作成(2)　発表と討議
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：文献購読、資料作成　＜２時間＞ 授業後学習：発表者へのコメント、資料の加筆修正　＜２時間＞
授業方法	講義、演習（グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション）
評価基準と評価方法	平常点と提出物により評価をおこなう。 ・平常点（質疑応答など授業への積極的参加）50%。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認 ・提出物50%。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認
履修上の注意	授業外時間も積極的に学び意見や質問をしてください。 グループワークやディスカッションに積極的に参加してください。
教科書	なし
参考書	適宜紹介します。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学研究法B						
担当教員	小松　貴弘					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0305B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	自らの心理学的研究のテーマを定め、それに基づいた研究計画を作成する
授業の概要	報告とディスカッションを通じて、自らの関心のあり方を深めることを通じて、研究テーマを設定し、そのテーマの探求の方法を研究計画として具体化することを目指す。
到達目標	(1)心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）について説明できる。【知識・理解】 (2)データを用いた実証的な思考方法について説明できる。【知識・理解】 (3)研究における倫理について説明できる。【態度・志向性】
授業計画	第１回　オリエンテーション：各自の課題の確認と報告の割り当て 第２回　研究の進め方を学ぶ(1)：先行研究の整理の仕方 第３回　研究の進め方を学ぶ(2)：適切な研究方法の選び方 第４回　研究の進め方を学ぶ(3)：収集したデータの分析の仕方 第５回　研究の進め方を学ぶ(4)：考察の仕方 第６回　研究計画の報告とディスカッションⅠ(1)：発表グループ１ 第７回　研究計画の報告とディスカッションⅠ(2)：発表グループ２ 第８回　研究計画の報告とディスカッションⅠ(3)：発表グループ３ 第９回　追加文献調査の報告とディスカッション(1)：発表グループ１ 第10回　追加文献調査の報告とディスカッション(2)：発表グループ２ 第11回　追加文献調査の報告とディスカッション(3)：発表グループ３ 第12回　研究計画の報告とディスカッションⅡ(1)：発表グループ１ 第13回　研究計画の報告とディスカッションⅡ(2)：発表グループ２ 第14回　研究計画の報告とディスカッションⅡ(3)：発表グループ３ 第15回　まとめ：総括と今後の課題
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には関連する文献を読み報告資料を作成すること。＜２時間＞ 授業後は文献の追加調査を行うこと。＜２時間＞
授業方法	演習形式。受講生の報告と質疑応答、ディスカッションを行う。
評価基準と評価方法	・平常点（質疑応答など授業への積極的参加）50%。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 ・提出物50%。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 ・課題に対するフィードバックの方法：発表に対するディスカッションとコメントを通じて行う。
履修上の注意	主体的に卒業研究に向けた学びに取り組み、積極的に発言し、ディスカッションに参加すること。
教科書	なし
参考書	適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学研究法B						
担当教員	土肥　伊都子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0305B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	自らの社会心理学研究の計画作成
授業の概要	自分の関心のあるテーマに関する社会心理学の最近の研究を、雑誌論文（「心理学研究」、「社会心理学研究」、「実験社会心理学研究」など）の中から選び、まとめ、発表する。 卒業論文のテーマを具体化していく。
到達目標	(1)心理学における実証的研究法（量的研究および質的研究）について説明できる。【知識・理解】 (2)データを用いた実証的な思考方法について説明できる。【知識・理解】 (3)研究における倫理について説明できる。【態度・志向性】
授業計画	第１回　個人発表と討論　（夏季休暇中の課題の提出） 第２回　文献（先行研究論文）収集 第３回　個人発表と討論１　（研究計画案） 第４回　個人発表と討論２　（研究計画案） 第５回　個人発表と討論３　（研究計画案） 第６回　個人発表と討論４　（研究計画案） 第７回　個人発表と討論５　（雑誌論文のまとめと，仮説作成） 第８回　個人発表と討論６　（雑誌論文のまとめと，仮説作成） 第９回　個人発表と討論７　（雑誌論文のまとめと，仮説作成） 第１０回　個人発表と討論８　（雑誌論文のまとめと，仮説作成） 第１１回　個人発表と討論９　（雑誌論文のまとめと，仮説作成） 第１２回　個人発表と討論１０（雑誌論文のまとめと，仮説作成） 第１３回　個人発表と討論１１（雑誌論文のまとめと，仮説作成） 第１４回　研究計画書の作成１ 第１５回　研究計画書の作成２
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：卒業論文のテーマ候補についての情報収集を行う。具体的には、著書、論文、新聞などに目を通す（学習時間：2時間）。 事後学習：授業内で指示した課題、議論した内容について、講義ノートにまとめる（学習時間：２時間）。
授業方法	ゼミナール形式
評価基準と評価方法	・平常点（質疑応答など授業への積極的参加）50%。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 ・提出物50%。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。
履修上の注意	発表の際には、パワーポイントで作成したレジュメのファイルを、事前にmanabaに提出すること
教科書	なし
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学研究法B						
担当教員	中村　博文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0305B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	卒業研究のテーマ決定
授業の概要	「心理学研究法A」に引き続き、受講生各自が興味をもつ心理学のテーマについて内外の文献を取り上げ、発表、討論を行うことで、テーマについての理解をさらに深める。 その上で、最終的に卒業論文のテーマを決定し、研究計画を立案することを目的とする。
到達目標	(1)心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）について説明できる。【知識・理解】 (2)データを用いた実証的な思考方法について説明できる。【知識・理解】 (3)研究における倫理について説明できる。【態度・志向性】
授業計画	#01：演習の進め方についてのオリエンテーション #02：受講生による発表と討論－1周目の① #03：受講生による発表と討論－1周目の② #04：受講生による発表と討論－1周目の③ #05：1周目の発表についての全体講評とディスカッション #06：受講生による発表と討論－2周目の① #07：受講生による発表と討論－2周目の② #08：受講生による発表と討論－2周目の③ #09：2周目の発表についての全体講評とディスカッション #10：受講生による発表と討論－3周目の① #11：受講生による発表と討論－3周目の② #12：受講生による発表と討論－3周目の③ #13：3周目の発表についての全体講評とディスカッション #14：卒業研究計画書と文献リストの提出① #15：卒業研究計画書と文献リストの提出②
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習（2時間以上）：関心がある領域についての文献を検索し、発表資料としてまとめる。 授業後学習（2時間以上）：授業内の討論を踏まえ、関連文献を複数検索し、読んでおく。
授業方法	演習形式。 毎回、数名ずつ（受講人数によりその数は異なる）発表を行い、それに基づいて全員での討論を行う。発表、討論ともに、積極的に取り組むことを求める。
評価基準と評価方法	平常点（50%）：発表や質疑応答など、授業への積極的参加。【到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認】 提出物（50%）：発表資料。また、学期末の文献リストと研究計画書。【到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認】
履修上の注意	演習科目なので、出席と授業への参加態度を重視する。 1回の授業あたり、最低1回の発言を求める。
教科書	指定しない。
参考書	適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学研究法B						
担当教員	山本　竜也					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0305B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	卒業研究に向けて、研究計画を作成する。
授業の概要	心理学研究法Ａに引き続き、各自の興味・関心に基づいて先行研究を調べていき、その中に自分なりの問題意識を持ち、それを解決するために必要な研究計画を立案する。
到達目標	1. 心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）について説明できる。【知識・理解】 2. データを用いた実証的な思考方法について説明できる。【知識・理解】 3. 研究における倫理について説明できる。【態度・志向性】
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：心理学研究法の進め方（1）　研究倫理、情報の整理 第3回：心理学研究法の進め方（2）　研究方法について 第4回：心理学研究法の進め方（3）　統計的解析について 第5回：心理学研究法の進め方（4）　結果の示し方 第6回：研究計画の報告とディスカッション①（1） 第7回：研究計画の報告とディスカッション①（2）　第6回の続き 第8回：研究計画の報告とディスカッション①（3）　第7回の続き 第9回：研究計画の報告とディスカッション②（1） 第10回：研究計画の報告とディスカッション②（2）　第9回の続き 第11回：研究計画の報告とディスカッション②（3）　第10回の続き 第12回：研究計画の報告とディスカッション③（1） 第13回：研究計画の報告とディスカッション③（2）　第12回の続き 第14回：研究計画の報告とディスカッション③（3）　第13回の続き 第15回：まとめ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には、授業内で報告をするために資料を作成する（2時間） 授業後には、授業内での意見に基づいて追加で文献を調べたり、資料を作成したりする（2時間）
授業方法	演習形式（ゼミ）。
評価基準と評価方法	平常点（質疑応答など授業への積極的参加）50%。到達目標（1）（2）（3）に関する到達度の確認 提出物50%。到達目標（1）（2）（3）に関する到達度の確認
履修上の注意	積極的な授業参加、主体的な活動を望む。
教科書	なし。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学上級演習I						
担当教員	安原　秀和					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P73050
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学系大学院入試の対策 基礎心理学の用語や概念についての理解を深める
授業の概要	大学院入試の「専門」の試験のための対策授業である。 臨床以外の領域である「基礎」領域についての知識をつける。
到達目標	(1)大学院入試に必要な心の働きや心の健康に関する幅広い知識について確認できる【知識・理解】 (2)大学院入試に必要な心理学の専門用語を見て理解できる【知識・理解】
授業計画	第1回　ガイダンス 第2回　学習 1 第3回　学習 2 第4回　記憶 1 第5回　記憶 2 第6回　感覚・知覚 1 第7回　感覚・知覚 2 第8回　中間テスト 第9回　思考1 第10回　思考2 第11回　言語1 第12回　言語2 第13回　失語症と失行症、それらの神経基盤 第14回　動機付け1 動機付けと情動 第15回　動機付け2 動機付けの種類と葛藤 期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各授業回で少なくとも1名が担当者となり発表を行なうため、指定された教科書を読み、教科書の内容をまとめ、発表資料作成をおこなうことが必要である。発表をしない学生も予習すべきである。また、その週における授業テーマに合わせた小テストの解答のために教科書や参考書を含め様々な情報媒体に触れて、課題に取り組む必要がある。 授業前学習：教科書の予習および教科書の内容をまとめた、発表資料作成(3時間以上) 授業後学習：授業で課された小テストについての答案作成と授業内容の復習(2時間以上)
授業方法	演習 各回の課題を担当者が発表し、質疑応答を通して理解を深める。
評価基準と評価方法	テストの成績(50%) 発表の出来(50%) これらを通して到達目標に関する到達度の確認を総合的に行う。
履修上の注意	授業外の学習で忙しくなると思いますので、頑張ってください。 演習中の発言も積極的にお願いします。 大学院入試のための対策講座です。受け身ではなく、授業時間外でも自発的に学習が進められる姿勢が求められます。 欠席の場合は必ず連絡を入れてください。
教科書	『心理学 新版』 無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治 有斐閣 ISBN:　978-4641053861
参考書	『心理学　第5版補訂版』 鹿取 廣人, 杉本 敏夫, 鳥居 修晃 東京大学出版会 978-4-13-012117-0 ※こちらは買う必要はありません

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学上級演習II						
担当教員	黒崎　優美					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P74060
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	臨床心理学系大学院進学等に向けての専門的知識の習得
授業の概要	臨床心理学系の大学院進学や心理臨床の専門職として活動するために必要となる、より専門性の高い臨床心理学の専門的知識の習得を目指します。 大学院入試の過去問題（臨床心理学領域専門科目）を中心に調べた内容の発表と討議を通して互いの理解を深めます。 外国語の入試科目についても課題を通して対策をおこないます。
到達目標	(1)臨床心理学系の大学院進学や心理臨床の専門職に必要とされる専門的知識を習得し、それらの内容について説明することができる。【知識・理解】 (2)授業を通して得た知識を活かして、臨床や研究の方向性を明確化し他者に伝えることができる。【知識・理解】
授業計画	第 1回　オリエンテーション（心理学系大学院入試の動向、授業の進め方） 第 2回　臨床心理学の基礎(1)　臨床心理学とは 第 3回　臨床心理学の基礎(2)　臨床心理学の研究方法 第 4回　臨床心理学の基礎(3)　臨床心理学の基礎理論 第 5回　臨床心理的アセスメント(1)　臨床心理アセスメントとは 第 6回　臨床心理的アセスメント(2)　面接法 第 7回　臨床心理的アセスメント(3)　観察法 第 8回　臨床心理的アセスメント(4)　検査法 第 9回　臨床心理的アセスメント(5)　臨床心理アセスメントの限界 第10回　臨床心理的支援(1)　臨床心理的支援とは 第11回　臨床心理的支援(2)　さまざまな分野での臨床心理的支援 第12回　臨床心理的支援(3)　臨床心理的支援のさまざまな方法 第13回　臨床心理的支援(4)　臨床心理的支援を支える諸理論 第14回　臨床心理的支援(5)　多職種の連携と協働 第15回　総括
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：文献講読、資料作成　＜２時間＞ 授業後学習：課題（専門科目過去問題、外国語過去問題）　＜２時間＞
授業方法	演習（プレゼンテーション、ディスカッション）
評価基準と評価方法	平常点（50%）と提出物（50%）により評価をおこなう。 ・平常点（発表、討議、その他授業への参加・貢献）。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認 ・提出物（課題）。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認
履修上の注意	臨床心理学系大学院への進学や心理臨床の専門職を目指す学生を対象とします。
教科書	なし
参考書	一般社団法人日本心理学諸学会連合 心理学検定局(編)　2022　心理学検定 公式問題集 2023年　実務教育出版. その他については授業内で紹介します。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学実験A						
担当教員	小川・董・水澤・安原					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0203A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の実験
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、知覚、記憶、社会、生理の各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。
到達目標	1)①実験の計画立案ができるようになる【汎用的技能】 2)②統計に関する基礎的な知識を用いて、科学的なレポートを作成できるようになる【汎用的技能】 3)心の状態をとらえるための科学的な手法を修得できる【知識・理解】 ①～②は公認心理師カリキュラム大項目に対応。
授業計画	1　導入・実験とはなにか（小川） 2　実験をやってみる・研究倫理（小川） 3　実験レポートの書き方　（小川） 4　触二点閾の測定　（水澤） 5　触二点閾の測定のレポート作成（水澤） 6　触二点閾:応用実験（水澤） 7　記憶の系列位置効果　（小川） 8　記憶の系列位置効果：データの分析・レポート（小川） 9　記憶の系列位置効果：応用実験（小川） 10　質問紙調査（アンケート調査）の計画・実施（董） 11　質問紙調査（アンケート調査）のデータの分析・レポート作成（董） 12　質問紙調査：応用調査（董） 13　ストループ（安原） 14　ストループ:データの分析・レポート（安原） 15　ストループ：応用実験（安原） 全ての回で＜PC必携＞ 4～15の実験・調査内容は4人の授業担当者がローテーションするため、実施順序はクラスによって異なる。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成を行う予定である。 ただし、授業時間内で完成できない場合やレポートの再提出のための修正作業などを授業外の時間で行う必要がある。各実験後、応用的な実験や調査を自ら立案・実施する。学んだ実験手法について授業後に復習し理解を深める必要がある。 授業外学修時間：毎週の授業後、レポート作成、実験内容の復習（２時間）
授業方法	＜BYOD対象科目＞ 実験：グループワークでの実験実施からレポート作成、および結果の発表までを行う。通常の実験課題では、グループでデータ整理・結果についてのディスカッションや発表を行う。
評価基準と評価方法	授業への取り組み（５０％）、レポート課題の評価（５０％） 授業への取り組み：実験への取り組み、グループ作業への貢献により、総合的に評価する。 レポート課題：実験結果をもとにしたレポートが作成できているかを評価する。再提出が求められた場合に指摘された部分を修正できているかも評価に含む。 上記二つにより到達目標１）～３）の関する到達度を総合的に評価する。
履修上の注意	３，４限続きの授業につき最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。 欠席３回目で単位取得資格を失う。実験課題によっては２回を使って実験実施とレポート作成を行うため、実験実施しなかった者はレポートが書けなくなる可能性がある。 ＊欠席回数は自分で把握しておきましましょう。メールでの問い合わせは原則、受け付けません。
教科書	資料を配布する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学実験A						
担当教員	小川・董・水澤・安原					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0203A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の実験
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、知覚、記憶、社会、生理の各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。
到達目標	1)①実験の計画立案ができるようになる【汎用的技能】 2)②統計に関する基礎的な知識を用いて、科学的なレポートを作成できるようになる【汎用的技能】 3)心の状態をとらえるための科学的な手法を修得できる【知識・理解】 ①～②は公認心理師カリキュラム大項目に対応。
授業計画	1　導入・実験とはなにか（水澤） 2　実験をやってみる・研究倫理（水澤） 3　実験レポートの書き方　（水澤） 4　触二点閾の測定　（水澤） 5　触二点閾の測定のレポート作成（水澤） 6　触二点閾:応用実験（水澤） 7　記憶の系列位置効果　（小川） 8　記憶の系列位置効果：データの分析・レポート（小川） 9　記憶の系列位置効果：応用実験（小川） 10　質問紙調査（アンケート調査）の計画・実施（董） 11　質問紙調査（アンケート調査）のデータの分析・レポート作成（董） 12　質問紙調査：応用調査（董） 13　ストループ（安原） 14　ストループ:データの分析・レポート（安原） 15　ストループ：応用実験（安原） 全ての回で＜PC必携＞ 4～15の実験・調査内容は4人の授業担当者がローテーションするため、実施順序はクラスによって異なる。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成を行う予定である。 ただし、授業時間内で完成できない場合やレポートの再提出のための修正作業などを授業外の時間で行う必要がある。各実験後、応用的な実験や調査を自ら立案・実施する。学んだ実験手法について授業後に復習し理解を深める必要がある。 授業外学修時間：毎週の授業後、レポート作成、実験内容の復習（２時間）
授業方法	＜BYOD対象科目＞ 実験：グループワークでの実験実施からレポート作成、および結果の発表までを行う。通常の実験課題では、グループでデータ整理・結果についてのディスカッションや発表を行う。
評価基準と評価方法	授業への取り組み（５０％）、レポート課題の評価（５０％） 授業への取り組み：実験への取り組み、グループ作業への貢献により、総合的に評価する。 レポート課題：実験結果をもとにしたレポートが作成できているかを評価する。再提出が求められた場合に指摘された部分を修正できているかも評価に含む。 上記二つにより到達目標１）～３）の関する到達度を総合的に評価する。
履修上の注意	３，４限続きの授業につき最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。 欠席３回目で単位取得資格を失う。実験課題によっては２回を使って実験実施とレポート作成を行うため、実験実施しなかった者はレポートが書けなくなる可能性がある。 ＊欠席回数は自分で把握しておきましましょう。メールでの問い合わせは原則、受け付けません。
教科書	資料を配布する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学実験A						
担当教員	小川・董・水澤・安原					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0203A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の実験
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、知覚、記憶、社会、生理の各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。
到達目標	1)①実験の計画立案ができるようになる【汎用的技能】 2)②統計に関する基礎的な知識を用いて、科学的なレポートを作成できるようになる【汎用的技能】 3)心の状態をとらえるための科学的な手法を修得できる【知識・理解】 ①～②は公認心理師カリキュラム大項目に対応。
授業計画	1　導入・実験とはなにか（董） 2　実験をやってみる・研究倫理（董） 3　実験レポートの書き方　（董） 4　触二点閾の測定　（水澤） 5　触二点閾の測定のレポート作成（水澤） 6　触二点閾:応用実験（水澤） 7　記憶の系列位置効果　（小川） 8　記憶の系列位置効果：データの分析・レポート（小川） 9　記憶の系列位置効果：応用実験（小川） 10　質問紙調査（アンケート調査）の計画・実施（董） 11　質問紙調査（アンケート調査）のデータの分析・レポート作成（董） 12　質問紙調査：応用調査（董） 13　ストループ（安原） 14　ストループ:データの分析・レポート（安原） 15　ストループ：応用実験（安原） 全ての回で＜PC必携＞ 4～15の実験・調査内容は4人の授業担当者がローテーションするため、実施順序はクラスによって異なる。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成を行う予定である。 ただし、授業時間内で完成できない場合やレポートの再提出のための修正作業などを授業外の時間で行う必要がある。各実験後、応用的な実験や調査を自ら立案・実施する。学んだ実験手法について授業後に復習し理解を深める必要がある。 授業外学修時間：毎週の授業後、レポート作成、実験内容の復習（２時間）
授業方法	＜BYOD対象科目＞ 実験：グループワークでの実験実施からレポート作成、および結果の発表までを行う。通常の実験課題では、グループでデータ整理・結果についてのディスカッションや発表を行う。
評価基準と評価方法	授業への取り組み（５０％）、レポート課題の評価（５０％） 授業への取り組み：実験への取り組み、グループ作業への貢献により、総合的に評価する。 レポート課題：実験結果をもとにしたレポートが作成できているかを評価する。再提出が求められた場合に指摘された部分を修正できているかも評価に含む。 上記二つにより到達目標１）～３）の関する到達度を総合的に評価する。
履修上の注意	３，４限続きの授業につき最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。 欠席３回目で単位取得資格を失う。実験課題によっては２回を使って実験実施とレポート作成を行うため、実験実施しなかった者はレポートが書けなくなる可能性がある。 ＊欠席回数は自分で把握しておきましましょう。メールでの問い合わせは原則、受け付けません。
教科書	資料を配布する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学実験B						
担当教員	小川・董・水澤・安原					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0203B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の実験
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、知覚、記憶、社会、生理の各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。
到達目標	1)①実験の計画立案ができるようになる【汎用的技能】 2)②統計に関する基礎的な知識を用いて、科学的なレポートを作成できるようになる【汎用的技能】 3)心の状態をとらえるための科学的な手法を修得できる【知識・理解】 ①～②は公認心理師カリキュラム大項目に対応。
授業計画	1　両側性転移の実験実施＆レポート作成　　（水澤） 2　係留効果の実験実施　　（水澤） 3　係留効果のレポート作成（水澤） 4　要求水準　（小川） 5　ミュラーリヤー錯視　　（小川） 6　ミュラーリヤー錯視のレポート　　（小川） 7　ストレス・リラクセーションと心拍数（董） 8　ストレスと心拍数のレポート作成（董） 9　リラクセーションと心拍数のレポート作成（董） 10　同調行動実験＆レポート（安原） 11　パーソナルスペース　　（安原） 12　パーソナルスペース実験＆レポート（安原） 13　自由実験：立案・計画（安原） 14　自由実験：実施・分析（安原） 15　自由実験：レポート作成（安原） 全ての回でPC必携 1～13の実験・調査内容は4人の授業担当者がローテーションするため、実施順序はクラスによって異なる。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成を行う予定である。 ただし、授業時間内で完成できない場合やレポートの再提出のための修正作業などを授業外の時間で行う必要がある。 さらに、後半に設定されている「自由実験」ではそれまでの実験をベースに新しい実験を立案する必要があるため、学んだ実験手法について授業後に復習し理解を深めておく必要がある。 授業外学修時間：毎週の授業後、レポート作成、実験内容の復習（２時間）
授業方法	＜BYOD対象科目＞ 実験：グループで実験実施からレポート作成、および結果の発表までを行う。通常の実験課題では、グループでデータ整理・結果についてのディスカッションを行う。自由実験では実験内容からすべてをグループで検討し実施し、結果をクラスで発表（プレゼンテーション）する。
評価基準と評価方法	授業への取り組み（５０％）、レポート課題の評価（５０％） 授業への取り組み：実験への取り組み、グループ作業への貢献により、総合的に評価する。 レポート課題：実験結果をもとにしたレポートが作成できているかを評価する。再提出が求められた場合に指摘された部分を修正できているかも評価に含む。 上記二つにより到達目標１）～３）の関する到達度を総合的に評価する。
履修上の注意	３，４限続きの授業につき最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。 データ処理に使用するので電卓を持参すること。 欠席３回目で単位取得資格を失う。実験課題によっては２回を使って実験実施とレポート作成を行うので、実験実施しなかった者はレポートが書けなくなる可能性がある。 ＊欠席回数は自分で把握しておきましましょう。メールでの問い合わせは原則、受け付けません。
教科書	資料を配布する。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学実験B						
担当教員	小川・董・水澤・安原					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0203B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の実験
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、知覚、記憶、社会、生理の各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。
到達目標	1)①実験の計画立案ができるようになる【汎用的技能】 2)②統計に関する基礎的な知識を用いて、科学的なレポートを作成できるようになる【汎用的技能】 3)心の状態をとらえるための科学的な手法を修得できる【知識・理解】 ①～②は公認心理師カリキュラム大項目に対応。
授業計画	1　両側性転移の実験実施＆レポート作成　　（水澤） 2　係留効果の実験実施　　（水澤） 3　係留効果のレポート作成（水澤） 4　要求水準　（小川） 5　ミュラーリヤー錯視　　（小川） 6　ミュラーリヤー錯視のレポート　　（小川） 7　ストレス・リラクセーションと心拍数（董） 8　ストレスと心拍数のレポート作成（董） 9　リラクセーションと心拍数のレポート作成（董） 10　同調行動実験＆レポート（安原） 11　パーソナルスペース　　（安原） 12　パーソナルスペース実験＆レポート（安原） 13　自由実験：立案・計画（水澤） 14　自由実験：実施・分析（水澤） 15　自由実験：レポート作成（水澤） 全ての回でPC必携 1～13の実験・調査内容は4人の授業担当者がローテーションするため、実施順序はクラスによって異なる。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成を行う予定である。 ただし、授業時間内で完成できない場合やレポートの再提出のための修正作業などを授業外の時間で行う必要がある。 さらに、後半に設定されている「自由実験」ではそれまでの実験をベースに新しい実験を立案する必要があるため、学んだ実験手法について授業後に復習し理解を深めておく必要がある。 授業外学修時間：毎週の授業後、レポート作成、実験内容の復習（２時間）
授業方法	＜BYOD対象科目＞ 実験：グループで実験実施からレポート作成、および結果の発表までを行う。通常の実験課題では 、グループでデータ整理・結果についてのディスカッションを行う。自由実験では実験内容からすべてをグループで検討し実施し、結果をクラスで発表（プレゼンテーション）する。
評価基準と評価方法	授業への取り組み（５０％）、レポート課題の評価（５０％） 授業への取り組み：実験への取り組み、グループ作業への貢献により、総合的に評価する。 レポート課題：実験結果をもとにしたレポートが作成できているかを評価する。再提出が求められた場合に指摘された部分を修正できているかも評価に含む。 上記二つにより到達目標１）～３）の関する到達度を総合的に評価する。
履修上の注意	３，４限続きの授業につき最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。 データ処理に使用するので電卓を持参すること。 欠席３回目で単位取得資格を失う。実験課題によっては２回を使って実験実施とレポート作成を行うので、実験実施しなかった者はレポートが書けなくなる可能性がある。 ＊欠席回数は自分で把握しておきましましょう。メールでの問い合わせは原則、受け付けません。
教科書	資料を配布する。

参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学実験B						
担当教員	小川・董・水澤・安原					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P0203B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3～4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学の実験
授業の概要	基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、知覚、記憶、社会、生理の各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。
到達目標	1)①実験の計画立案ができるようになる【汎用的技能】 2)②統計に関する基礎的な知識を用いて、科学的なレポートを作成できるようになる【汎用的技能】 3)心の状態をとらえるための科学的な手法を修得できる【知識・理解】 ①～②は公認心理師カリキュラム大項目に対応。
授業計画	1　両側性転移の実験実施＆レポート作成　　（水澤） 2　係留効果の実験実施　　（水澤） 3　係留効果のレポート作成（水澤） 4　要求水準　（小川） 5　ミュラーリヤー錯視　　（小川） 6　ミュラーリヤー錯視のレポート　　（小川） 7　ストレス・リラクセーションと心拍数（董） 8　ストレスと心拍数のレポート作成（董） 9　リラクセーションと心拍数のレポート作成（董） 10　同調行動実験＆レポート（安原） 11　パーソナルスペース　　（安原） 12　パーソナルスペース実験＆レポート（安原） 13　自由実験：立案・計画（小川） 14　自由実験：実施・分析（小川） 15　自由実験：レポート作成（小川） 全ての回でPC必携 1～13の実験・調査内容は4人の授業担当者がローテーションするため、実施順序はクラスによって異なる。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成を行う予定である。 ただし、授業時間内で完成できない場合やレポートの再提出のための修正作業などを授業外の時間で行う必要がある。 さらに、後半に設定されている「自由実験」ではそれまでの実験をベースに新しい実験を立案する必要があるため、学んだ実験手法について授業後に復習し理解を深めておく必要がある。 授業外学修時間：毎週の授業後、レポート作成、実験内容の復習（２時間）
授業方法	＜BYOD対象科目＞ 実験：グループで実験実施からレポート作成、および結果の発表までを行う。通常の実験課題では、グループでデータ整理・結果についてのディスカッションを行う。自由実験では実験内容からすべてをグループで検討し実施し、結果をクラスで発表（プレゼンテーション）する。
評価基準と評価方法	授業への取り組み（５０％）、レポート課題の評価（５０％） 授業への取り組み：実験への取り組み、グループ作業への貢献により、総合的に評価する。 レポート課題：実験結果をもとにしたレポートが作成できているかを評価する。再提出が求められた場合に指摘された部分を修正できているかも評価に含む。 上記二つにより到達目標１）～３）の関する到達度を総合的に評価する。
履修上の注意	３，４限続きの授業につき最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。 データ処理に使用するので電卓を持参すること。 欠席３回目で単位取得資格を失う。実験課題によっては２回を使って実験実施とレポート作成を行うので、実験実施しなかった者はレポートが書けなくなる可能性がある。 ＊欠席回数は自分で把握しておきましましょう。メールでの問い合わせは原則、受け付けません。
教科書	資料を配布する。

参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学的支援法						
担当教員	小松　貴弘					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P32010
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学的支援法にはどのようなものがあり、どのような支援を行うべきであるのかを学ぶ
授業の概要	心理学的支援は、心理学的な支援を要する人たちと具体的に関わる実践的な活動である。そこでは、問題の適切な理解に基づいた、適切な支援が模索されなくてはならない。心理学的支援にはどのようなものがあり、それぞれどのような性質の問題に対して適切な関わり方なのか、そもそも心理学的支援とは何を目的に何を目指して行われるべきなのかなどについて学ぶことを目指す。
到達目標	（１）代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界について概説できる。【知識・理解】 （２）訪問による支援や地域支援の意義について概説できる。【知識・理解】 （３）良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法を知る。【態度・志向性】 （４）心理に関する支援を要する者のプライバシーへの配慮ができる。【態度・志向性】 （５）心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援の適切なあり方を説明できる。【態度・志向性】 （６）心の健康教育について概説できる。【知識・理解】
授業計画	第１回　オリエンテーション：心理学的支援とは 第２回　心理療法の諸学派（１）：心理力動論 第３回　心理療法の諸学派（２）：行動論 第４回　心理療法の諸学派（３）：システム論 第５回　支援者に求められるあり方（１）：心理学的支援における価値と倫理 第６回　支援者に求められるあり方（２）：援助的コミュニケーションのスキル 第７回　心理学的支援の多様な技術（１）：気づきを促進する 第８回　心理学的支援の多様な技術（２）：新しい体験を提供する 第９回　心理学的支援の多様な技術（３）：より適応的な行動の学習を促進する 第10回　心理学的支援の多様な技術（４）：関係者のシステムに働きかける支援のあり方 第11回　心理学的支援の多様なモード（１）：プレイセラピー 第12回　心理学的支援の多様なモード（２）：グループセラピー 第13回　コミュニティへの支援（１）：地域支援の意義 第14回　コミュニティへの支援（２）：訪問による支援 第15回　コミュニティへの支援（３）：心の健康教育 第16回　期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には各回の授業テーマについて教科書及び関連する文献に目を通しておくこと。＜２時間＞ 授業後には授業内容を振り返り要点を確認して理解を深めること。＜２時間＞
授業方法	講義を行うとともに、適宜、小グループでのディスカッションや演習を行う。
評価基準と評価方法	授業態度30%、期末試験70% 授業態度：授業に取り組む姿勢、授業内の発言、ディスカッションへの参加度、他の受講生の学びへの協力的な態度、毎回の授業後に提出を求めるミニレポートの記述内容の的確さ等を評価する。到達目標（１）（２）（３）（４）（５）（６）に関する到達度の確認。 期末試験：授業を通じた心理学的支援法についての理解度を評価する。到達目標（１）（２）（４）（５）（６）に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法：ミニレポートの記述、質問等について、翌週に説明、解説を行う。
履修上の注意	私語等の他の受講生への迷惑行為や、授業の妨げとなる行為は厳に慎むこと。注意等が聞き入れられない場合には、他の受講生の学習権の保障のために退室を求めることがある。20分以上の遅刻と早退は欠席として扱う。総授業回数の３分の１以上を欠席した場合には、原則として試験の受験を認めない。
教科書	『公認心理師標準テキスト　心理学的支援法』、杉原保史・福島哲夫・東斉彰編、北大路書房、2019年、ISBN978-4-7628-3056-3
参考書	授業中に適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学統計法						
担当教員	野口　智草					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P22030
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理統計の基礎を理解する
授業の概要	心理学では、実験や調査によってデータを収集し、それを統計的に分析することで意味のある結果を見出し、そこから人間の心のありようを推測します。従って、心理学を学ぶ上で統計学の知識は欠かせないものです。ただし、必ずしも学問としての「統計学」を隅々まで理解する必要はありません。本講義では極力簡明な説明を心がけ、統計学的な知識を用いてデータを解釈する、そのエッセンスを理解できるよう進めていきます。
到達目標	(1) 心理学で用いられる統計手法が理解できる。【知識・理解】 (2) 統計に関する基礎的な知識を持つことができる。【知識・理解】
授業計画	第1回　統計を学ぶ目的 第2回　変数とデータ 第3回　度数分布・代表値 第4回　標準偏差（ＳＤ） 第5回　正規分布・標本と母集団 第6回　相関 第7回　前半まとめ・中間試験・パソコン実習［PC必携］ 第8回　母集団の推定と真の標準偏差 第9回　推定誤差（ＳＥ） 第10回　統計的検定 第11回　ｔ値 第12回　帰無仮説と対立仮説・ｐ値 第13回　対応のないｔ検定・カイ2乗検定 第14回　分散分析 第15回　後半まとめ・期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：ほぼ毎回宿題を課します。内容はデータ集め、表やグラフ作成、統計的な値の計算など様々です＜学習時間:2時間＞ 授業後学習：授業はそれまでの授業を理解しているものとして進行していきます。毎回授業内容を確認・整理し、理解できなかった点は質問できるよう、疑問点を整理しておくようにしてください。＜学習時間:2時間＞
授業方法	講義 ＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	宿題 30%　中間テスト 30%　期末テスト 40% 宿題：到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 中間テスト・期末テスト：到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 宿題および中間テストは採点し、翌週返却する。期末テストは、結果の全体的な講評をフィードバックする。
履修上の注意	全ての講義に出席することが望ましいです。10回以上の出席がないと、受講資格を失います。 私語を慎む、携帯電話等の電源を切る、遅刻・早退しないなど、受講する上での基本的なマナーを守って下さい。守れない学生には、即刻退席してもらいます。
教科書	なし
参考書	『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』吉田寿夫（著）　北大路書房　ISBN 4-7628-2125-X

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学統計法						
担当教員	野口　智草					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P22030
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理統計の基礎を理解する
授業の概要	心理学では、実験や調査によってデータを収集し、それを統計的に分析することで意味のある結果を見出し、そこから人間の心のありようを推測します。従って、心理学を学ぶ上で統計学の知識は欠かせないものです。ただし、必ずしも学問としての「統計学」を隅々まで理解する必要はありません。本講義では極力簡明な説明を心がけ、統計学的な知識を用いてデータを解釈する、そのエッセンスを理解できるよう進めていきます。
到達目標	(1) 心理学で用いられる統計手法が理解できる。【知識・理解】 (2) 統計に関する基礎的な知識を持つことができる。【知識・理解】
授業計画	第1回　統計を学ぶ目的 第2回　変数とデータ 第3回　度数分布・代表値 第4回　標準偏差（ＳＤ） 第5回　正規分布・標本と母集団 第6回　相関 第7回　前半まとめ・中間試験・パソコン実習［PC必携］ 第8回　母集団の推定と真の標準偏差 第9回　推定誤差（ＳＥ） 第10回　統計的検定 第11回　ｔ値 第12回　帰無仮説と対立仮説・ｐ値 第13回　対応のないｔ検定・カイ2乗検定 第14回　分散分析 第15回　後半まとめ・期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：ほぼ毎回宿題を課します。内容はデータ集め、表やグラフ作成、統計的な値の計算など様々です＜学習時間:2時間＞ 授業後学習：授業はそれまでの授業を理解しているものとして進行していきます。毎回授業内容を確認・整理し、理解できなかった点は質問できるよう、疑問点を整理しておくようにしてください。＜学習時間:2時間＞
授業方法	講義 ＜BYOD対象科目＞
評価基準と評価方法	宿題 30%　中間テスト 30%　期末テスト 40% 宿題：到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 中間テスト・期末テスト：到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 宿題および中間テストは採点し、翌週返却する。期末テストは、結果の全体的な講評をフィードバックする。
履修上の注意	全ての講義に出席することが望ましいです。10回以上の出席がないと、受講資格を失います。 私語を慎む、携帯電話等の電源を切る、遅刻・早退しないなど、受講する上での基本的なマナーを守って下さい。守れない学生には、即刻退席してもらいます。
教科書	なし
参考書	『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』吉田寿夫（著）　北大路書房　ISBN 4-7628-2125-X

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理実習						
担当教員	黒崎優美・小松貴弘・中村博文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P34040
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	心理に関する支援を要する者等に対する支援を実践するための基本的な知識、技能、倫理の修得。
授業の概要	保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野に関する施設において、見学等による実習を行い、当該施設の実習指導者又は教員による指導を通じて、心理学的支援の実際と心理専門職の役割について理解を深めることを目指す。
到達目標	（１）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチが理解できる。【態度・志向性】 （２）多職種連携及び地域連携が理解できる。【態度・志向性】 （３）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解をもてる。【態度・志向性】
授業計画	○事前実習 第1回　学外実習を受けるにあたって 第2回　保健医療分野（医療機関）についての事前学習① 第3回　福祉分野についての事前学習① 第4回　教育分野についての事前学習① 第5回　司法・犯罪分野についての事前学習① 第6回　産業・労働分野についての事前学習① 第7回　保健医療分野（医療機関）についての事前学習② 第8回　福祉分野についての事前学習② 第9回　教育分野についての事前学習② 第10回　司法・犯罪分野についての事前学習② 第11回　産業・労働分野についての事前学習② ○学外実習 第12回　学外実習（保健医療分野）①　（学外見学・研修実施予定） 第13回　学外実習（保健医療分野）②　（学外見学・研修実施予定） 第14回　学外実習（保険医療分野）③　（学外見学・研修実施予定） 第15回　学外実習（福祉分野）①　（学外見学・研修実施予定） 第16回　学外実習（福祉分野）②　（学外見学・研修実施予定） 第17回　学外実習（福祉分野）③　（学外見学・研修実施予定） 第18回　学外実習（教育分野）①　（学外見学・研修実施予定） 第19回　学外実習（教育分野）②　（学外見学・研修実施予定） 第20回　学外実習（教育分野）③　（学外見学・研修実施予定） 第21回　学外実習（司法・犯罪分野）①　（学外見学・研修実施予定） 第22回　学外実習（司法・犯罪分野）②　（学外見学・研修実施予定） 第23回　学外実習（司法・犯罪分野）③　（学外見学・研修実施予定） 第24回　学外実習（産業・労働分野）①　（学外見学・研修実施予定） 第25回　学外実習（産業・労働分野）②　（学外見学・研修実施予定） 第26回　学外実習（産業・労働分野）③　（学外見学・研修実施予定） ○事後実習 第27回　実習記録の作成と実習報告① 第28回　実習記録の作成と実習報告② 第29回　実習記録の作成と実習報告③ 第30回　実習記録の作成と実習報告④ 第31回　実習記録の作成と実習報告⑤ 第32回　最終実習報告会
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前後の準備学習として関連書籍の講読を行う。
授業方法	実習。学外のさまざまな相談機関や支援機関で公認心理師の職務を学ぶ実習を行う。あわせて、それぞれ実習機関についての事前学習の発表とディスカッションを行い、事後学習として報告書の作成、発表、振り返りのディスカッションを行う。
評価基準と評価方法	事前実習における発表と提出物20%：到達目標（１）に関する理解度の確認 実習に取り組む姿勢50%：到達目標（１）（２）（３）に関する理解度の確認 事後実習における発表と提出物30%：到達目標（２）（３）に関する理解度の確認

履修上の注意	「心理学的支援法」「心理演習Ａ」「心理演習Ｂ」の単位を修得済みであること。 事前・事後実習の曜日時限は決定次第連絡する。 学外実習の日程は施設との調整により決まるので、固定の曜日時限に行うわけではないことに注意すること。 特に実習中における実習先での行動については、担当教員及び実習先の実習指導者及び関係者からの指示をよく理解して、それに従うこと。指示やルールを守れない場合や遅刻・欠席が重なる場合には、実習への参加の中止を指示することもありうることに留意すること。 原則として、自己都合による遅刻・欠席は認められない。 履修登録時に実習費10,000円を納入しなければならない。
教科書	なし。
参考書	適宜、紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理実習						
担当教員	坂本真佐哉・大和田攝子・山本竜也					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P34040
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0

授業のテーマ	心理に関する支援を要する者等に対する支援を実践するための基本的な知識、技能、倫理の修得。
授業の概要	保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5分野に関する施設において、見学等による実習を行い、当該施設の実習指導者又は教員による指導を通じて、心理学的支援の実際と心理専門職の役割について理解を深めることを目指す。
到達目標	（１）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチが理解できる。【態度・志向性】 （２）多職種連携及び地域連携が理解できる。【態度・志向性】 （３）公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解をもてる。【態度・志向性】
授業計画	○事前実習 第1回　学外実習を受けるにあたって 第2回　保健医療分野（医療機関）についての事前学習① 第3回　福祉分野についての事前学習① 第4回　教育分野についての事前学習① 第5回　司法・犯罪分野についての事前学習① 第6回　産業・労働分野についての事前学習① 第7回　保健医療分野（医療機関）についての事前学習② 第8回　福祉分野についての事前学習② 第9回　教育分野についての事前学習② 第10回　司法・犯罪分野についての事前学習② 第11回　産業・労働分野についての事前学習② ○学外実習 第12回　学外実習（保健医療分野）①　（学外見学・研修実施予定） 第13回　学外実習（保健医療分野）②　（学外見学・研修実施予定） 第14回　学外実習（保険医療分野）③　（学外見学・研修実施予定） 第15回　学外実習（福祉分野）①　（学外見学・研修実施予定） 第16回　学外実習（福祉分野）②　（学外見学・研修実施予定） 第17回　学外実習（福祉分野）③　（学外見学・研修実施予定） 第18回　学外実習（教育分野）①　（学外見学・研修実施予定） 第19回　学外実習（教育分野）②　（学外見学・研修実施予定） 第20回　学外実習（教育分野）③　（学外見学・研修実施予定） 第21回　学外実習（司法・犯罪分野）①　（学外見学・研修実施予定） 第22回　学外実習（司法・犯罪分野）②　（学外見学・研修実施予定） 第23回　学外実習（司法・犯罪分野）③　（学外見学・研修実施予定） 第24回　学外実習（産業・労働分野）①　（学外見学・研修実施予定） 第25回　学外実習（産業・労働分野）②　（学外見学・研修実施予定） 第26回　学外実習（産業・労働分野）③　（学外見学・研修実施予定） ○事後実習 第27回　実習記録の作成と実習報告① 第28回　実習記録の作成と実習報告② 第29回　実習記録の作成と実習報告③ 第30回　実習記録の作成と実習報告④ 第31回　実習記録の作成と実習報告⑤ 第32回　最終実習報告会
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前後の準備学習として関連書籍の講読を行う。
授業方法	実習。学外のさまざまな相談機関や支援機関で公認心理師の職務を学ぶ実習を行う。あわせて、それぞれ実習機関についての事前学習の発表とディスカッションを行い、事後学習として報告書の作成、発表、振り返りのディスカッションを行う。
評価基準と評価方法	事前実習における発表と提出物20%：到達目標（１）に関する理解度の確認 実習に取り組む姿勢50%：到達目標（１）（２）（３）に関する理解度の確認 事後実習における発表と提出物30%：到達目標（２）（３）に関する理解度の確認

履修上の注意	「心理学的支援法」「心理演習Ａ」「心理演習Ｂ」の単位を修得済みであること。 事前・事後実習の曜日時限は決定次第連絡する。 学外実習の日程は施設との調整により決まるので、固定の曜日時限に行うわけではないことに注意すること。 特に実習中における実習先での行動については、担当教員及び実習先の実習指導者及び関係者からの指示をよく理解して、それに従うこと。指示やルールを守れない場合や遅刻・欠席が重なる場合には、実習への参加の中止を指示することもありうることに留意すること。 原則として、自己都合による遅刻・欠席は認められない。 履修登録時に実習費10,000円を納入しなければならない。
教科書	なし。
参考書	適宜、紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理的アセスメントA						
担当教員	大和田　攝子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P2201A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	知能・発達検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）について学ぶ。
授業の概要	心理的アセスメントをする際によく用いられる検査として、知能・発達検査や性格検査がある。本講義では主に知能・発達検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）を取り上げ、その理論的背景、実施法、結果の解釈について講義と実習を中心に授業を進める。
到達目標	(1) 心理的アセスメントの目的及び倫理について説明できる。【知識・理解】 (2) 心理的アセスメントの観点及び展開について説明できる。【知識・理解】 (3) 心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）について説明できる。【知識・理解】 (4) 授業で取り上げた心理検査について、適切な記録の作成及び報告を行うことができる。【汎用的技能】【態度・志向性】
授業計画	第1回：概論（1）－心理的アセスメントとは何か－ 第2回：概論（2）－心理検査の種類と特色－ 第3回：ウェクスラー式知能検査（1）解説・実施法 第4回：ウェクスラー式知能検査（2）実施法 第5回：ウェクスラー式知能検査（3）結果の処理 第6回：新版K式発達検査（1）解説・実施法 第7回：新版K式発達検査（2）実施法 第8回：新版K式発達検査（3）結果の処理 第9回：Y-G性格検査（1）解説・実施法 第10回：Y-G性格検査（2）結果の処理 第11回：MMPI（1）解説・実施法 第12回：MMPI（2）結果の処理 第13回：内田クレペリン精神作業検査 第14回：SDS職業適性診断テスト 第15回：レポート返却、講評 授業での補助をするため、TA（ティーチング アシスタント）を各回の授業に配置しています。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回の授業で扱う心理検査について参考書を事前に熟読しておく。＜2時間＞ 授業後学習：各回の授業で取り上げた心理検査について、実施法や結果の解釈について復習する。また、授業時間内に検査の実施や結果の処理が終わらない場合は、次の授業までに作業を終わらせておくこと。＜2時間＞
授業方法	講義（実習を含む）： 知能・発達検査については、グループで役割を交代し検査を実施する。得られた結果はグループで共有しレポートにまとめる。 性格検査については、個人で検査を実施し、結果をレポートにまとめる。
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 レポート 40% ：レポートの内容により評価する。到達目標(1)(2)(3)(4)に関する到達度の確認。 平常点 60% ： 実習に取り組む姿勢により評価する。到達目標(4)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 最終回の授業で添削したレポートを返却し、講評を行う。
履修上の注意	1. 実習を中心とするため、2/3以上の出席に満たない者は、原則として単位認定を行わない。 2. レポート提出に関する注意事項は授業内で指示する。
教科書	プリントを配布する。
参考書	『臨床心理アセスメント 新訂版』松原達哉（編）丸善出版　ISBN 978-4-621-08648-3

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理的アセスメントA						
担当教員	大和田　攝子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P2201A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	知能・発達検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）について学ぶ。
授業の概要	心理的アセスメントをする際によく用いられる検査として、知能・発達検査や性格検査がある。本講義では主に知能・発達検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）を取り上げ、その理論的背景、実施法、結果の解釈について講義と実習を中心に授業を進める。
到達目標	(1) 心理的アセスメントの目的及び倫理について説明できる。【知識・理解】 (2) 心理的アセスメントの観点及び展開について説明できる。【知識・理解】 (3) 心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）について説明できる。【知識・理解】 (4) 授業で取り上げた心理検査について、適切な記録の作成及び報告を行うことができる。【汎用的技能】【態度・志向性】
授業計画	第1回：概論（1）－心理的アセスメントとは何か－ 第2回：概論（2）－心理検査の種類と特色－ 第3回：ウェクスラー式知能検査（1）解説・実施法 第4回：ウェクスラー式知能検査（2）実施法 第5回：ウェクスラー式知能検査（3）結果の処理 第6回：新版K式発達検査（1）解説・実施法 第7回：新版K式発達検査（2）実施法 第8回：新版K式発達検査（3）結果の処理 第9回：Y-G性格検査（1）解説・実施法 第10回：Y-G性格検査（2）結果の処理 第11回：MMPI（1）解説・実施法 第12回：MMPI（2）結果の処理 第13回：内田クレペリン精神作業検査 第14回：SDS職業適性診断テスト 第15回：レポート返却、講評 授業での補助をするため、TA（ティーチング アシスタント）を各回の授業に配置しています。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回の授業で扱う心理検査について参考書を事前に熟読しておく。＜2時間＞ 授業後学習：各回の授業で取り上げた心理検査について、実施法や結果の解釈について復習する。また、授業時間内に検査の実施や結果の処理が終わらない場合は、次の授業までに作業を終わらせておくこと。＜2時間＞
授業方法	講義（実習を含む）： 知能・発達検査については、グループで役割を交代し検査を実施する。得られた結果はグループで共有しレポートにまとめる。 性格検査については、個人で検査を実施し、結果をレポートにまとめる。
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 レポート 40% ：レポートの内容により評価する。到達目標(1)(2)(3)(4)に関する到達度の確認。 平常点 60% ： 実習に取り組む姿勢により評価する。到達目標(4)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 最終回の授業で添削したレポートを返却し、講評を行う。
履修上の注意	1. 実習を中心とするため、2/3以上の出席に満たない者は、原則として単位認定を行わない。 2. レポート提出に関する注意事項は授業内で指示する。
教科書	プリントを配布する。
参考書	『臨床心理アセスメント 新訂版』松原達哉（編）丸善出版　ISBN 978-4-621-08648-3

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理的アセスメントA						
担当教員	大和田　攝子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P2201A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	知能・発達検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）について学ぶ。
授業の概要	心理的アセスメントをする際によく用いられる検査として、知能・発達検査や性格検査がある。本講義では主に知能・発達検査と性格検査（質問紙法・作業検査法）を取り上げ、その理論的背景、実施法、結果の解釈について講義と実習を中心に授業を進める。
到達目標	(1) 心理的アセスメントの目的及び倫理について説明できる。【知識・理解】 (2) 心理的アセスメントの観点及び展開について説明できる。【知識・理解】 (3) 心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）について説明できる。【知識・理解】 (4) 授業で取り上げた心理検査について、適切な記録の作成及び報告を行うことができる。【汎用的技能】【態度・志向性】
授業計画	第1回：概論（1）－心理的アセスメントとは何か－ 第2回：概論（2）－心理検査の種類と特色－ 第3回：ウェクスラー式知能検査（1）解説・実施法 第4回：ウェクスラー式知能検査（2）実施法 第5回：ウェクスラー式知能検査（3）結果の処理 第6回：新版K式発達検査（1）解説・実施法 第7回：新版K式発達検査（2）実施法 第8回：新版K式発達検査（3）結果の処理 第9回：Y-G性格検査（1）解説・実施法 第10回：Y-G性格検査（2）結果の処理 第11回：MMPI（1）解説・実施法 第12回：MMPI（2）結果の処理 第13回：内田クレペリン精神作業検査 第14回：SDS職業適性診断テスト 第15回：レポート返却、講評 授業での補助をするため、TA（ティーチング アシスタント）を各回の授業に配置しています。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回の授業で扱う心理検査について参考書を事前に熟読しておく。＜2時間＞ 授業後学習：各回の授業で取り上げた心理検査について、実施法や結果の解釈について復習する。また、授業時間内に検査の実施や結果の処理が終わらない場合は、次の授業までに作業を終わらせておくこと。＜2時間＞
授業方法	講義（実習を含む）： 知能・発達検査については、グループで役割を交代し検査を実施する。得られた結果はグループで共有しレポートにまとめる。 性格検査については、個人で検査を実施し、結果をレポートにまとめる。
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 レポート 40% ：レポートの内容により評価する。到達目標(1)(2)(3)(4)に関する到達度の確認。 平常点 60% ： 実習に取り組む姿勢により評価する。到達目標(4)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 最終回の授業で添削したレポートを返却し、講評を行う。
履修上の注意	1. 実習を中心とするため、2/3以上の出席に満たない者は、原則として単位認定を行わない。 2. レポート提出に関する注意事項は授業内で指示する。
教科書	プリントを配布する。
参考書	『臨床心理アセスメント 新訂版』松原達哉（編）丸善出版　ISBN 978-4-621-08648-3

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理的アセスメントB						
担当教員	中村　博文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P2201B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	投映法の学習
授業の概要	心理的アセスメントについて、「投映法」といわれる心理検査法を中心に学習する。 具体的には、描画法、文章完成法（SCT）、P-Fスタディ、ロールシャッハ・テスト、TAT（主題統覚検査）などについて、それらの特徴、実施法、整理法、解釈法といったことを、体験を通じて学ぶ。 それらの学習を通じて、心理的アセスメントの目的及び倫理、心理的アセスメントの観点及び展開、心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）について学ぶ。
到達目標	(1)心理的アセスメントの目的及び倫理について説明できる。【態度・志向性】 (2)心理的アセスメントの観点及び展開について説明できる。【知識・理解】 (3)心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）について説明できる。【汎用的技能】 (4)授業で実施した投影法心理検査について、適切な記録の作成ならびに報告を行うことができる。【汎用的技能】
授業計画	#01：オリエンテーション－心理的アセスメントにおける投映法 #02：描画法①－バウム・テスト #03：描画法②－人物画テスト #04：描画法③－S-HTP #05：描画法④－風景構成法 #06：SCT①－理論と施行法 #07：SCT②－結果の整理と解釈 #08：P-Fスタディ①－理論と施行法 #09：P-Fスタディ②－結果の整理(1)　スコアリング #10：P-Fスタディ③－結果の整理(2)　スコアリング／各種指標の算出 #11：P-Fスタディ④－結果の整理(3)　各種指標の算出 #12：P-Fスタディ⑤－結果の解釈 #13：ロールシャッハ・テスト #14：TAT（主題統覚検査） #15：まとめ、レポート提出 ※授業での検査施行や、結果の整理、解釈を補助するため、TAを各回の授業に配置する。 ※授業進度によっては、検査種が増減する可能性がある。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習（2時間以上）：シラバスの授業計画にある用語、あるいは検査について、書籍やインターネットを使って事前に調べておく（例：#01は「投映法」、#02は「バウム・テスト」など）。 授業後学習（2時間以上）：授業で取り上げた内容について、確認整理をするとともに、配付資料に記載されている参考文献を読み、理解を深める。また、授業時間だけでは検査の実施、および整理が終わらない場合もあるが、その場合には指示にしたがって、次の授業までに課題を終えておく。
授業方法	講義（演習、実習的内容を含む）。
評価基準と評価方法	毎回の小レポート（50%）：その回の授業で学んだ内容に関する問いについて考えた回答、および質問、感想の提出を求める。【到達目標(1)～(3)のいずれかについての到達度確認。どの目標の確認かについては、授業回によって異なる）。提出された小レポートに対しては、次回の授業の冒頭で担当者がコメントを行う】 検査所見レポート（50%）：実施した検査を用いての自己分析所見レポートの提出を求める。なお、レポートの作成に際しては、採点基準（ルーブリック）を配布する。【到達目標(4)の到達度確認】
履修上の注意	テスト体験が必須となる授業なので、欠席や遅刻は原則として認めない。 自分自身を被検者として検査実習を行うことが必要であるため、そのことを踏まえて受講を検討すること。 毎回の授業で、プリントを配布する。欠席時のプリントについては、次回の授業時に限って再配布する。 私語など、他の受講生の迷惑となる行為については、厳しく注意する。態度が改まらない場合には退席を求めたり、以降の受講を不許可とする場合もある。
教科書	なし。
参考書	授業内で、適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理的アセスメントB						
担当教員	中村　博文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P2201B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	投映法の学習
授業の概要	心理的アセスメントについて、「投映法」といわれる心理検査法を中心に学習する。 具体的には、描画法、文章完成法（SCT）、P-Fスタディ、ロールシャッハ・テスト、TAT（主題統覚検査）などについて、それらの特徴、実施法、整理法、解釈法といったことを、体験を通じて学ぶ。 それらの学習を通じて、心理的アセスメントの目的及び倫理、心理的アセスメントの観点及び展開、心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）について学ぶ。
到達目標	(1)心理的アセスメントの目的及び倫理について説明できる。【態度・志向性】 (2)心理的アセスメントの観点及び展開について説明できる。【知識・理解】 (3)心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）について説明できる。【汎用的技能】 (4)授業で実施した投影法心理検査について、適切な記録の作成ならびに報告を行うことができる。【汎用的技能】
授業計画	#01：オリエンテーション－心理的アセスメントにおける投映法 #02：描画法①－バウム・テスト #03：描画法②－人物画テスト #04：描画法③－S-HTP #05：描画法④－風景構成法 #06：SCT①－理論と施行法 #07：SCT②－結果の整理と解釈 #08：P-Fスタディ①－理論と施行法 #09：P-Fスタディ②－結果の整理(1)　スコアリング #10：P-Fスタディ③－結果の整理(2)　スコアリング／各種指標の算出 #11：P-Fスタディ④－結果の整理(3)　各種指標の算出 #12：P-Fスタディ⑤－結果の解釈 #13：ロールシャッハ・テスト #14：TAT（主題統覚検査） #15：まとめ、レポート提出 ※授業での検査施行や、結果の整理、解釈を補助するため、TAを各回の授業に配置する。 ※授業進度によっては、検査種が増減する可能性がある。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習（2時間以上）：シラバスの授業計画にある用語、あるいは検査について、書籍やインターネットを使って事前に調べておく（例：#01は「投映法」、#02は「バウム・テスト」など）。 授業後学習（2時間以上）：授業で取り上げた内容について、確認整理をするとともに、配付資料に記載されている参考文献を読み、理解を深める。また、授業時間だけでは検査の実施、および整理が終わらない場合もあるが、その場合には指示にしたがって、次の授業までに課題を終えておく。
授業方法	講義（演習、実習的内容を含む）。
評価基準と評価方法	毎回の小レポート（50%）：その回の授業で学んだ内容に関する問いについて考えた回答、および質問、感想の提出を求める。【到達目標(1)～(3)のいずれかについての到達度確認。どの目標の確認かについては、授業回によって異なる）。提出された小レポートに対しては、次回の授業の冒頭で担当者がコメントを行う】 検査所見レポート（50%）：実施した検査を用いての自己分析所見レポートの提出を求める。なお、レポートの作成に際しては、採点基準（ルーブリック）を配布する。【到達目標(4)の到達度確認】
履修上の注意	テスト体験が必須となる授業なので、欠席や遅刻は原則として認めない。 自分自身を被検者として検査実習を行うことが必要であるため、そのことを踏まえて受講を検討すること。 毎回の授業で、プリントを配布する。欠席時のプリントについては、次回の授業時に限って再配布する。 私語など、他の受講生の迷惑となる行為については、厳しく注意する。態度が改まらない場合には退席を求めたり、以降の受講を不許可とする場合もある。
教科書	なし。
参考書	授業内で、適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理の仕事						
担当教員	単位認定者：黒崎　優美					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P72070
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	心理学と社会とのつながり
授業の概要	心理学の専門性を活かして様々な現場で活躍する職業人の講話を通して、心理学と社会とのつながりや職業適性について学ぶ
到達目標	(1)社会における多様な領域に心理学の知見が活かされていることについて理解し、説明することができる。【知識・理解】 (2)(1)の理解に基づき、自らの学びを社会に活かすことを考え、説明することができる。【態度・志向性】 (3)自分自身の職業適性について考え、将来像を描き、説明することができる。【態度・志向性】
授業計画	※第1回から第14回はゲストスピーカーを招へいする。第15回は単位認定者が担当する。 第 1回　イントロダクション／大学院からプロフェッショナルを目指す 第 2回　医療事務の仕事に心理の知識をどう活かせるか 第 3回　大学病院での心理の仕事 第 4回　母子生活支援施設における心理の仕事 第 5回　アニマルセラピストという仕事 第 6回　日本語教育の仕事に心理の知識をどう活かせるか 第 7回　小学校でのスクールソーシャルワーカーの仕事 第 8回　スクールカウンセラーの仕事 第 9回　児童指導員の仕事に心理の知識をどう活かせるか 第10回　福祉施設における心理の仕事 第11回　児童の施設における心理の仕事 第12回　金融機関における心理の仕事 第13回　緩和ケアにおける心理の仕事 第14回　県警での被害者支援カウンセラーの仕事 第15回　総括
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回のテーマについて調べ予備知識を得る　＜２時間＞ 授業後学習：各回のテーマに関連する文献を購読する　＜２時間＞
授業方法	講義（オムニバス形式）
評価基準と評価方法	平常点（50%）、毎回の小レポート（50%）により評価する。 ・平常点：受講時の態度、および、授業への参加の程度を総合的に評価する。到達目標(1)(2)(3)到達の確認 ・小レポート：毎回、授業の最後に小レポートを実施する。総合得点を小レポートの評価とする。到達目標(1)(2)(3)の到達の確認
履修上の注意	ゲストスピーカーは、いずれも学外で活動される方々である。私語、居眠り、遅刻、早退等の失礼な態度は厳に慎まなければならない。受講態度に問題がある場合は、以降の受講を不可とする場合もある。 なお、ゲストスピーカーの都合その他により、授業計画を変更する場合があるので注意すること。変更が生じた場合は、松蔭manabaを通じて連絡をおこなう。
教科書	指定しない
参考書	指定しない。ゲストスピーカーによる紹介などはその都度おこなう。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法A						
担当教員	中村　博文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P3305A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	さまざまな心理療法について学ぶーA. 精神分析と精神分析的心理療法
授業の概要	心理療法には、さまざまな学派（考え方）、またさまざまな対象がある。心理学科専門教育科目「心理療法」では、講師の専門性に応じたさまざまな心理療法について学ぶ。 「心理療法A」では、精神分析と精神分析的心理療法を学ぶ。精神分析とは、Freud, S.により創始された心理学理論、かつその理論に基づく心理学的援助技法の体系である。また、精神分析の考え方や技法を基盤として行われる心理療法を、精神分析的心理療法という。 この授業では、精神分析の基本的な考え方を学ぶとともに、精神分析的心理療法の実際について学習する。
到達目標	(1)Freudの精神分析の考え方や概念について、4つの基本的な観点から説明することができる。【知識・理解】 (2)Freud以降の精神分析の発展について、主な学派とそれらの特徴を解説することができる。【知識・理解】 (3)精神分析、精神分析的心理療法の技法について、専門用語を用いて説明することができる。【知識・理解】 (4)心に関する現象を、精神分析的な視点から説明できる。【態度・志向性】
授業計画	#01：オリエンテーションー精神分析・精神分析的心理療法とは？ #02：精神分析の基本的観点①：局所論／構造論 #03：精神分析の基本的観点②：力動論 #04：精神分析の基本的観点③：経済論 #05：精神分析の基本的観点④：発達論 #06：精神分析の技法①：催眠から自由連想へ #07：精神分析の技法②：転移、逆転移、中立性 #08：精神分析の発展①：アドラーとユング #09：精神分析の発展②：精神分析の学派(1)－自我心理学・対象関係論 #10：精神分析の発展③：精神分析の学派(2)－自己心理学・対人関係論 #11：精神分析の発展④：対象の拡大 #12：精神分析と精神分析的心理療法①：精神分析の基礎にあるもの #13：精神分析と精神分析的心理療法②：精神分析の新しい流れ #14：まとめ、試験 #15：試験解題
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習（2時間以上）：シラバスの授業計画にある用語について、書籍やインターネットを使って事前に調べておく（例：#01は「精神分析」「精神分析的心理療法」、#02は「局所論」「構造論」、など）。 授業後学習（2時間以上）：授業で取り上げた内容について、確認整理をしておく。また、授業で紹介した参考文献を読んで、授業の内容についての理解を深める。
授業方法	講義形式。 毎回の授業において、小レポート（その回の授業で学んだ内容に関する問いについて考えた回答、および質問、感想）を提出することを求める。 なお、提出された小レポートに対しては、次回の授業の冒頭で担当者がコメントを行う。
評価基準と評価方法	小レポート（14%）：毎回の授業で提出を求める小レポート。【到達目標(1)～(4)のいずれかについての到達度確認。どの目標の確認かについては、授業回によって異なる】 期末試験（86%）：客観式ならびに論述式の試験を行う。#15に解答例を配布する。【到達目標(1)～(4)の到達度確認】
履修上の注意	毎回の授業で、プリントを配布する。欠席時のプリントについては、次回の授業時に限って再配布する。 私語など、他の受講生の迷惑となる行為については、厳しく注意する。態度が改まらない場合には退席を求めたり、以降の受講を不可とする場合もある。
教科書	なし。
参考書	マイケル・カーン　2017　ベイシック・フロイトー21世紀に活かす精神分析の思考　岩崎学術出版社　ISBN：978-4753311262 土居健郎　1988　精神分析　講談社学術文庫　ISBN：978-4061588516 小松貴弘・渡辺亘・中村博文　2019　時間のかかる営みを、時間をかけて学ぶための心理療法入門　創元社　ISBN：978-4422117218 その他、授業内で適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法B						
担当教員	山本　竜也					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P3305B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	心理療法の中でも、認知行動療法について学ぶ。
授業の概要	心理療法には、様々なオリエンテーションがある。その中でも、認知行動療法はエビデンスに基づく心理療法として、うつ病、不安症、強迫症などさまざまな精神障害に対して有効性が確認されている。「心理療法B」では、認知行動療法について、その基礎理論と、アセスメント、技法について学ぶ。
到達目標	1. 認知行動療法について、その基礎理論、アセスメント法、介入法について説明することができる。【知識・理解】 2. 認知行動療法の考え方に基づき、様々な現象を理解しながら精神的健康に資する方向を自ら考えることができる。【汎用的技能】
授業計画	第1回： オリエンテーション（授業概要と単位認定の説明） 第2回： 認知行動療法の考え方 第3回： 行動理論と行動療法（1）　行動の定義、具体性テスト、分類ワーク 第4回： 行動理論と行動療法（2）　オペラント条件づけとレスポンデント条件づけ 第5回： 行動理論と行動療法（3）　架空事例の検討 第6回： 認知理論と認知療法（1）　認知の定義、認知の内容とプロセス 第7回： 認知理論と認知療法（2）　認知理論 第8回： 認知理論と認知療法（3）　架空事例の検討 第9回： 事例を通して学ぶ認知行動療法（1）　うつ病 第10回： 事例を通して学ぶ認知行動療法（2）　双極性障害 第11回： 事例を通して学ぶ認知行動療法（3）　パニック症 第12回： 事例を通して学ぶ認知行動療法（4）　社交不安症 第13回： 事例を通して学ぶ認知行動療法（5）　強迫症 第14回： 認知行動療法を通して考える生き方の方向性 第15回： 授業のまとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に授業資料を読み込むとともに、関連する文献を調べる。（1時間） 授業後には日常生活における現象を認知的あるいは行動的視点から捉えてみたり、それを他者と共有したりすることで授業の内容の理解を深める。（3時間）
授業方法	原則的に講義であるが、ペアワーク、グループワークなどを取り入れるため積極的に参加すること。また、ワークの内容は共有する。なお、各回でコメントシートの提出を求め、次の授業開始時に質問などに回答する。
評価基準と評価方法	15回の授業のうち3分の2以上の出席を単位認定の要件とする。遅刻は2回で1回の欠席とみなす。平常点50%、期末試験50%の割合で評価を行う。 平常点：授業態度、コメントシートの記述内容、適宜指示する課題への取り組み（到達目標1～2の確認） 期末試験：授業内容に基づき認知行動療法の考え方や知識、理解を問う（到達目標1～2の確認）
履修上の注意	修学上何らかの合理的配慮が必要な場合は所定の手続きを行うとともに、担当教員に当該授業における具体的な配慮内容が伝わるように申し出、建設的な対話を心がけること。 授業への積極的な参加を望む。他の履修者の迷惑になるような私語、授業と関係がないことなど、授業を円滑に運営するうえで妨げになるようなことはしないこと。遅刻、欠席はしないこと。 人は人によって癒されることもあれば傷つくこともある。心理療法はクライエントの精神的健康に大きな影響を与える専門的業務であることを十分に理解し、誠実な態度で受講することを強く求める。
教科書	特に指定しない。
参考書	適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法C						
担当教員	坂本　真佐哉					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P3305C
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	さまざまな心理療法について学ぶーⅢ．家族療法（システムズアプローチ）およびブリーフセラピーの理論と実際
授業の概要	心理療法には、さまざまな学派（考え方）、またさまざまな対象がある。心理学科専門教育科目「心理療法」では、講師の専門性に応じたさまざまな心理療法について学ぶ。 「心理療法C／心理療法Ⅲ」では、家族システムやコミュニケーション・システムの変化をめざした心理療法をはじめ、解決構築など近年の社会構成主義心理療法の分野について実際の事例を交えながら講義を行う。心理療法における「問題」の捉え方とその解決に関する考え方などについて、システム論や社会構成主義の観点から学び、さまざまな角度から物事をとらえる視点や考え方を養う。
到達目標	１．家族療法（システムズアプローチ）およびブリーフセラピーの主要な理論と用語について説明することができる。【知識・理解】 ２．身近な心の問題について、家族療法やブリーフセラピーの概念や用語を用いて解説し、解決策について提案することができる。 【知識・理解】【態度・志向性】
授業計画	第１回【対面】：心理療法における「問題」の捉え方 第２回【対面】：さまざまな心理援助の技法と家族療法、ブリーフセラピー 第３回【遠隔】：家族療法の理論と実際（１）家族療法とシステム論 第４回【遠隔】：家族療法の理論と実際（２）家族療法の実際 第５回【遠隔】：ブリーフセラピー概論 第６回【遠隔】：ミルトン・エリクソンの心理療法 第７回【遠隔】：MRIモデルの理論と技法（１）変化の理論 第８回【遠隔】：MRIモデルの理論と技法（２）コミュニケーション理論 第９回【遠隔】：ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法（１）基本的な考え方と特徴 第１０回【遠隔】：ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法（２）解決構築とは？ 第１１回【遠隔】：ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と技法（３）質問技法の実際 第１２回【遠隔】：ナラティヴ・セラピー（１）社会構成主義の理論 第１３回【遠隔】：ナラティヴ・セラピー（２）会話の実際 第１４回【遠隔】：ナラティヴ・セラピー（３）事例を中心に 第１５回【対面】：試験と総括
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容や用語について家族療法やブリーフセラピーの関連書にて予習〈２時間〉 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理〈２時間〉
授業方法	〈遠隔指定授業〉 講義形式であるが、授業中に与えられたテーマに関して、ペアもしくはグループでディスカッションを行うことがある。各回の授業終了時にリアクションペーパーを記入する。
評価基準と評価方法	授業内での提出物（リアクションペーパー）：20%、中間テスト40%、期末テスト40% 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問など）の内容の・記述の的確さなどを評価する。到達目標１および２に関する到達度の確認。 中間テストと期末テスト：授業で扱った心理療法の理論と技法についての理解度について評価する。到達目標１および２に関する到達度の確認。
履修上の注意	毎回プリントを配布する。欠席した際のプリントについては、次の回に限って再配布する。 リアクションペーパーについては、クラス内において開示されても良い内容について記述すること。
教科書	プリント資料を配布する。
参考書	坂本真佐哉著（2019）「今日から始まるナラティヴ・セラピー：希望をひらく対人援助」日本評論社 浅井伸彦編著、松本健輔著、坂本真佐哉監修（2021）「はじめての家族療法：クライエントとその関係者を支援するすべての人へ」北大路書房 坂本真佐哉編（2017）「逆転の家族面接」日本評論社 坂本真佐哉、黒澤幸子編（2016）「不登校・ひきこもりに効くブリーフセラピー」日本評論社 日本ブリーフサイコセラピー学会編（2020）「ブリーフセラピー入門：柔軟で効果的なアプローチに向けて」遠見書房

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法D						
担当教員	小松　貴弘					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P3305D
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	さまざまな心理療法について学ぶ 　ーD／Ⅳ. 対人関係精神分析
授業の概要	心理療法には、さまざまな学派(考え方)、またさまざまな対象がある。心理学科専門教育科目「心理療法」では、講師の専門性に応じたさまざまな心理療法について学ぶことを目指す。 　「心理療法D／Ⅳ」では、対人関係精神分析について学ぶ。対人関係精神分析は、サリヴァンを源流とする考え方であり、フロイトの精神分析がより生物学的要因を重視するものであったのに対して、社会的要因を重視したことに特徴がある。この立場の基本的な考え方と技法を学ぶとともに、心理療法の基礎の基礎から学ぶことを目指す。
到達目標	（１）心理療法がどのような営みであり、どのような過程で学ばれるものであるかについて説明できる。【汎用的技能】 （２）対人関係精神分析の基本的な考え方と心理療法の進め方を説明できる。【知識・理解】
授業計画	第１回　オリエンテーション：心理療法を学ぶ意味と心の捉え方 第２回　心理療法の前提（１）：心の健康と悩み 第３回　心理療法の前提（２）：心の成長 第４回　心理療法の本質（１）：心理療法とは何か 第５回　心理療法の本質（２）：心理療法のまなざし 第６回　心理療法の本質（３）：心理療法家の心構え 第７回　心理療法の実際（１）：事例の提示 第８回　心理療法の実際（２）：クライエントの視点 第９回　心理療法の実際（３）：セラピストの視点 第10回　心理療法の実際（４）：面接関係で起きること 第11回　対人関係精神分析を学ぶ（１）：対人関係精神分析の諸特徴 第12回　対人関係精神分析を学ぶ（２）：サリヴァンのパーソナリティ論 第13回　対人関係精神分析を学ぶ（３）：サリヴァンの発達論 第14回　対人関係精神分析を学ぶ（４）：サリヴァンの心理療法論 第15回　授業のまとめと期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には各回の授業テーマについて教科書及び関連する文献に目を通しておくこと。＜２時間＞ 授業後には授業内容を振り返り要点を確認して理解を深めること。＜２時間＞
授業方法	講義を行うとともに、適宜、小グループでのディスカッションや演習を行う。
評価基準と評価方法	授業態度30%、期末試験70% 授業態度：授業に取り組む姿勢、授業内の発言、ディスカッションへの参加度、他の受講生の学びへの協力的な態度、毎回の授業後に提出を求めるミニレポートの記述内容の的確さ等を評価する。到達目標（１）（２）に関す る到達度の確認。 期末試験：授業を通じた心理療法の基礎、対人関係精神分析についての理解度を評価する。到達目標（１）（２）に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法：ミニレポートの記述、質問等について、翌週に説明、解説を行う 。
履修上の注意	私語等の他の受講生への迷惑行為や、授業の妨げとなる行為は厳に慎むこと。注意等が聞き入れられない場合には、他の受講生の学習権の保障のために退室を求めることがある。20分以上の遅刻と早退は欠席として扱う。総授業回数の３分の１以上を欠席した場合には、原則として試験の受験を認めない。
教科書	『時間のかかる営みを、時間をかけて学ぶための心理療法入門』、小松貴弘・渡辺亘・中村博文編著、創元社、2019年、ISBN978-4-422-11721-8
参考書	『対人関係精神分析を学ぶ』、一丸藤太郎著、創元社、2020年、ISBN978-4422117553 その他、授業中に適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	ジェンダーの心理学						
担当教員	土肥　伊都子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P43050
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	ジェンダー（男女の社会的役割）についての心理学を学ぶ
授業の概要	男女に対する固定観念が，ジェンダー・ステレオタイプである。本講義では、ジェンダー・ステレオタイプがなぜ作られ、それがどのように維持されるのか、あるいはいかに変容するかを社会心理学の知見に基づき学習する。
到達目標	(1)人の行動や心の状態を、適切な方法で把握し、分析することができる。【汎用性技能】 (2)自分自身に向き合い、深い自己理解を得ようとする。【態度・志向性】
授業計画	第１回　「女性」とは？「男性」とは？ 第２回　ジェンダー・ステレオタイプとは 第３回　ジェンダー・ステレオタイプの形成 第４回　ジェンダー・ステレオタイプの維持 第５回　自己とジェンダー・ステレオタイプの維持 第６回　性別役割分業社会が思いこみをつくる 第７回　日本的土壌が思いこみをつくる 第８回　ジェンダーによる心身への影響 第９回　ステレオタイプが現実をつくる 第１０回　ステレオタイプと差別・偏見 第１１回　心理学とステレオタイプ 第１２回　心理学のつくり変えとジェンダー・ステレオタイプの変容 第１３回　多様性と連帯によるジェンダー社会の変容 第１４回　前期授業の質疑応答 第１５回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習すること。(学習時間：2時間) 授業後学習：授業内容に関連した新聞記事や書籍を見つけて、manabaにその記事の内容を投稿する。(学習時間：２時間)
授業方法	【対面授業】
評価基準と評価方法	平常点　　30%　　到達目標(1)(2)に関する到達度の確認、 期末試験　　70%　　到達目標(1)(2)に関する到達度の確認、
履修上の注意	教科書を必ず用意すること
教科書	「新版　ジェンダーの心理学」 青野篤子・土肥伊都子・森永康子（著）（ミネルヴァ書房） ISBN:978-4-623-09292-5
参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	人体の構造と機能及び疾病						
担当教員	新田　麻以子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P73030
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	公認心理師に必要とされる医学・医療に関する知識として、人体の構造や機能、及び心理学的支援が必要な主な疾病について学ぶ。
授業の概要	公認心理師は、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、心理学に関する支援を要する者やその関係者に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行う。 保健医療分野で働く公認心理師として、心理に関する支援を要する者やその関係者の相談や援助に取り組んでいくためには、医療スタッフと緊密な連携をとることが必要である。また、医療スタッフと情報を共有するためには医学的な知識も必要となる。本講義では、第6回まで人体の構造と機能、医学について学び、第7回からはがんや依存症、難病等の心理的支援が必要となりうる主な疾病について学び、それらの心理的支援について考える。
到達目標	1. 心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害について説明することができる。【知識・理解】 2. がん、難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病について説明することができる。【知識・理解】
授業計画	第1回　オリエンテーション、人体の構造と機能 第2回　心に関わる統合器官系 第3回　周生期医療 第4回　小児の成長発達と疾患、加齢と疾患 第5回　整形外科疾患とリハビリテーション 第6回　感染症の理解と対策 第7回　心理学的支援が必要な主な疾病①　腫瘍臨床とがんサバイバーシップ・遺伝性疾患・先天性疾患 第8回　心理学的支援が必要な主な疾病②　難病 第9回　心理学的支援が必要な主な疾病③　後天性免疫不全症候群・臓器移植 第10回　心理学的支援が必要な主な疾病④　認知症・脳血管障害 第11回　心理学的支援が必要な主な疾病⑤　糖尿病 第12回　心理学的支援が必要な主な疾病⑥　依存症―アルコール・薬物 第13回　心理学的支援が必要な主な疾病⑦　循環器疾患 第14回　心理学的支援が必要な主な疾病⑧　緩和ケア・エンドオブライフケア・グリーフケア 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：医学・医療に関する専門書やメディアなどで紹介されている情報を通じて事前に知識を得ておく。（学習時間60分） 授業後学習：時間の都合上、医学・医療領域に関する広範な知識をすべて扱うことはできないので、講義で扱われない内容については各自で書籍などを通じて理解を深める。（学習時間120分）
授業方法	資料を提示しながら講義を行う。
評価基準と評価方法	小レポート50%：各回提出のリアクションペーパーにより受講態度および理解度を評価する。（到達目標1. および2. に関する到達度の確認） 試験50%：第15回に実施する試験で評価する。（到達目標1. および2. に関する到達度の確認）
履修上の注意	毎回プリントを配布する。欠席した際のプリントはmanabaで入手して、次の授業に挑むこと。
教科書	特になし。参考資料などについてはその都度、講義中に紹介する。
参考書	『人体の構造と機能及び疾病』、斎藤清二、遠見書房、ISBN9784866160719 『人体の構造と機能及び疾病』、武田克彦、岩田淳、小林靖、医歯薬出版株式会社、ISBN9784263265970

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	精神疾患とその治療						
担当教員	山本　竜也					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P32100
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	精神医学、精神疾患（障害）について学ぶ。
授業の概要	精神的な問題は古くから知られてはいたものの、それに対する有効な治療法が見つかったのは比較的最近のことである。「精神疾患とその治療」では、精神疾患総論（代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む。）、向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化、医療機関との連携などについて学ぶ。
到達目標	1. 精神疾患総論（代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含む。）について説明できる。【知識・理解】 2. 向抗精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化について説明できる。【知識・理解】 3. 医療機関との連携について説明できる。【知識・理解】 4. 精神医学の基本的な考え方を説明できる。【知識・理解】 5. 精神科医療について説明することができる。【知識・理解】
授業計画	第1回： オリエンテーション（授業概要と単位認定の説明） 第2回： 精神医学の考え方(1)　正常と異常 第3回： 精神医学の考え方(2)　操作的診断と分類 第4回： 精神科医療と社会(1)　医療費の制度 第5回： 統合失調症 第6回： うつ病 第7回： 双極性障害 第8回： 社交不安症 第9回： パニック症 第10回： 強迫症 第11回： 認知症 第12回： 精神科医療と社会(2)　自立支援医療（精神通院医療）などの制度 第13回： 精神科医療と社会(3)　日本における精神保健福祉の課題 第14回： 精神科医療と社会(4)　日本における地域精神保健福祉の課題 第15回： 授業のまとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に授業資料を読み込むとともに、関連する文献を調べる。（1時間） 授業後は内容の理解を深め、授業で取り上げた精神疾患と関連する疾患を調べる。また、授業で取り扱い切れなかった精神疾患を調べる。（3時間）
授業方法	授業の方法は原則的に講義であるが、一部ワーク等を取り入れるため積極的に参加すること。履修者の理解を促すために視聴覚教材なども活用する。また、各回でコメントシートの提出を求め、次の授業開始時に質問などに回答する。
評価基準と評価方法	15回の授業のうち3分の2以上の出席を単位認定の要件とする。ただし、2回の遅刻で1回の欠席とみなす。平常点50%、期末試験50%の割合で評価を行う。 平常点：授業態度、コメントシートの記述内容、適宜指示する課題への取り組み（到達目標1～5の確認） 期末試験：授業内容に基づき精神疾患とその治療に関する知識を問う（到達目標1～5の確認）
履修上の注意	公認心理師の資格取得を目指す場合必修である。 修学上何らかの合理的配慮が必要な場合は所定の手続きを行うとともに、担当教員に当該授業における具体的な配慮内容が伝わるように申し出、建設的な対話を心がけること。 授業への積極的な参加を望む。他の履修者の迷惑になるような私語、授業と関係がないことなど、授業を円滑に運営するうえで妨げになるようなことはしないこと。遅刻、欠席はしないこと。
教科書	特に指定しない。
参考書	適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	成人期・老年期の臨床心理学						
担当教員	中村　博文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P33080
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	成人期・老年期の心理的課題と危機
授業の概要	本講義では、成人期および老年期における心理的な発達や発達課題、またこれらの時期に生じやすい問題や危機について概観する。その上で、それぞれの時期における臨床心理学的な援助について検討する。
到達目標	(1)成人期・老年期の心理学的特徴について、説明できる。【知識・理解】 (2)成人期・老年期に生じやすい心理学的問題について、説明できる。【知識・理解】 (3)自らのライフサイクルにおける成人期・老年期の意味について推測・考察し、論述できる。【知識・理解】
授業計画	#01：オリエンテーション－生涯発達論的視座から見た成人期と老年期 #02：成人期の心理学的特徴と発達課題 #03：結婚・妊娠・出産 #04：子育て #05：職場における問題（1）：ストレスとメンタルヘルス #06：職場における問題（2）：うつ病と自殺 #07：老親の介護における心理的問題 #08：中年期危機 #09：老年期の心理学的特徴と発達課題 #10：認知症 #11：老年期うつと妄想 #12：老年期における喪失体験 #13：老年期における死の問題 #14：まとめ、試験 #15：試験解題
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習（2時間以上）：シラバスの授業計画にある用語について、書籍やインターネットを使って事前に調べておく（例：#01は「生涯発達論」、#02は「成人期」「発達課題」、など）。 授業後学習（2時間以上）：授業で取り上げた内容について、確認整理をしておく。また、授業で紹介した参考文献を読んで、授業の内容についての理解を深めること。
授業方法	講義形式。 毎回の授業において、小レポート（その回の授業で学んだ内容に関する問いについて考えた回答、および質問、感想）を提出することを求める。 なお、提出された小レポートに対しては、次回の授業の冒頭で担当者がコメントを行う。
評価基準と評価方法	毎回の小レポート（14%）：毎回の授業で提出を求める小レポート。【到達目標(1)～(3)のいずれかについての到達度確認。どの目標の確認かについては、授業回によって異なる】 期末試験（86%）：客観式ならびに論述式の試験を行う。#15に解答例を配布する。【到達目標(1)～(4)の到達度確認】
履修上の注意	毎回の授業で、プリントを配布する。欠席時のプリントについては、次回の授業時に限って再配布する。 私語など、他の受講生の迷惑となる行為については、厳しく注意する。態度が改まらない場合には退席を求めたり、以降の受講を不可とする場合もある。
教科書	なし。
参考書	授業内で、適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	生と死の心理学						
担当教員	大和田　攝子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P43090
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	生と死を学ぶ。
授業の概要	病院やコミュニティなど臨床の場における生と死をめぐる問題について概観し、そこで必要とされる援助について考える。具体的には、死別後の悲嘆、外傷的死別（災害、犯罪・事故、自殺など）、グリーフカウンセリング、末期患者と家族の心理、病名告知、ホスピス緩和ケアなどを取り上げ、さまざまな観点から死についての理解を深める。また、臓器移植など生命倫理にも触れ、現代の死の諸相について広く学ぶ。講義の他に、ロールプレイなどの実習やビデオ教材も適宜取り入れる。
到達目標	(1) 生と死をめぐる問題について心理学的に考察し、説明することができる。【知識・理解】 (2) 誰もが避けることのできない死について心理学的に学ぶことで、実際に身近に起こったときどのようにすればよいか考えることができる。【態度・志向性】
授業計画	第1回：ストレス源としての死別体験 第2回：喪失と悲嘆に関する諸理論 第3回：通常の悲嘆反応と複雑な悲嘆反応 第4回：悲嘆の複雑化と関連要因 第5回：さまざまな喪失(1)自然災害 ～子どもへの影響 第6回：さまざまな喪失(2)大規模事故・犯罪 ～二次被害 第7回：さまざまな喪失(3)自殺・ペットロス ～公認されない悲嘆 第8回：ケアを行う際の基本的姿勢 第9回：支援の方法 ～グリーフカウンセリング・複雑性悲嘆治療（ロール・プレイを含む） 第10回：病名の告知 第11回：ホスピス緩和ケアとQOL 第12回：末期患者の心理と家族のケア 第13回：生命倫理 ～臓器移植 第14回：質疑応答と試験 第15回：グループ発表とディスカッション
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：教科書や参考書を事前に熟読する。また、授業では小グループでの発表を予定しているので、各自が関心を持ったテーマについて調べ、発表資料を用意する。＜2時間＞ 授業後学習：授業で取り上げた内容について要点を確認・整理する。＜2時間＞
授業方法	主に講義形式で授業を行うが、ロールプレイや小グループによる発表およびディスカッションを行う授業回もある。
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 試験 60%：授業で扱った内容に対する理解度について評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 発表 20%：発表内容により評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 平常点 20%：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問）などにより評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等については、翌週の授業で紹介・解説する。期末試験の講評は最終回の授業で行う。グループ発表の講評は授業の最後に行う。
履修上の注意	1. 講義だけでなく、実習や小グループでの発表も行うので、授業への積極的な参加が求められる。 2. 2/3以上の出席に満たない者は、定期試験の受験資格を失うものとする。 3. グループ発表に関する注意事項は授業内で指示する。
教科書	プリントを使用する。
参考書	『「悲しみ」の後遺症をケアする―グリーフケア・トラウマケア入門』小西聖子・白井明美（著）角川学芸出版 ISBN978-4-04-651613-8 『悲嘆学入門―死別の悲しみを学ぶ』坂口幸弘（著）昭和堂　ISBN978-4-8122-1015-4

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	青年期の臨床心理学						
担当教員	黒崎　優美					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P32070
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	青年期の諸課題に対する臨床心理学的理解
授業の概要	青年期に関連の深いさまざまな課題について、臨床心理学的接近法に基づき考え、理解を深めます。 ワークやグループディスカッションを通して、自らの考えや理解した内容を言語化し、その内容を共有します。
到達目標	(1)青年期の諸課題について、臨床心理学的な観点から理解し、他者に伝えることができる。【知識・理解】 (2)授業を通して得た知識や理解を、自分自身や身近な出来事や社会現象の理解に応用し、それについて他者に伝えることができる。【汎用的技能】 (3)臨床心理学への興味・関心を深め、これから学んでいきたいことを明確にし他者に伝えることができる。【態度・志向性】
授業計画	第 1回　導入　授業の進め方、生涯発達と青年期 第 2回　青年期の人間関係(1)　親子関係 第 3回　青年期の人間関係(2)　友人・恋愛関係 第 4回　青年期の就活・就労(1)　若者の働き方 第 5回　青年期の就活・就労(2)　働くことと連結 第 6回　青年期とひきこもり(1)　ひきこもりの現状と課題 第 7回　青年期とひきこもり(2)　ひきこもりの社会的解決 第 8回　青年期の非行・犯罪(1)　非行・犯罪の現状と課題 第 9回　青年期の非行・犯罪(2)　相互作用からみた精神鑑定、裁判員制度 第10回　青年期の精神疾患(1)　“うつ”と“新型うつ” 第11回　青年期の精神疾患(2)　心的状態としての“統合失調” 第12回　個人と集団の精神療法 第13回　課題発表とレポート公開「青年期の心理」 第14回　課題への講評、質疑応答 第15回　まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：文献購読、配付資料（松蔭manabaコンテンツ）確認　＜２時間＞ 授業後学習：課題提出（松蔭manabaレポート等）、まとめプリント作成　＜２時間＞
授業方法	講義、演習（プレゼンテーション、ディスカッション）
評価基準と評価方法	平常点（40%）、試験（30%）、課題（30%）で評価をおこなう。ただし、試験と課題はどちらも必須。 ・平常点（授業内のワーク、授業レポート、その他授業への参加・貢献）。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認 ・試験（まとめプリント持ち込み可）。到達目標(1)に関する到達度の確認 ・課題（レポートもしくは発表）。到達目標(2)(3)に関する到達度の確認
履修上の注意	主体的に考え言語化する努力をしてください。
教科書	なし。毎回資料を配布します。
参考書	適宜紹介します。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	大和田　攝子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P04060
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業論文の作成
授業の概要	各自が選んだテーマに沿って研究を計画・実施し、卒業論文としてまとめる。進行状況に応じて中間発表会を行うが、全体的には個別指導が中心となる。
到達目標	1. 研究計画に基づき、適切な方法でデータを収集することができる。【態度・志向性】 2. 収集したデータを分析し、卒業論文としてまとめることができる。【知識・理解】 3. 研究の内容を分かりやすく発表し、質疑応答を行うことができる。【汎用的技能】 4. 仲間の研究内容や社会の問題に関心を持ち、疑問や意見を発信することができる。【態度・志向性】
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：研究テーマの決定（1） 第3回：研究テーマの決定（2） 第4回：研究計画の立案（1） 第5回：研究計画の立案（2） 第6回：研究計画の立案（3） 第7回：研究計画の立案（4） 第8回：調査・実験の準備（1） 第9回：調査・実験の準備（2） 第10回：調査・実験の準備（3） 第11回：調査・実験の準備（4） 第12回：調査・実験の準備（5） 第13回：データ収集（1） 第14回：データ収集（2） 第15回：データ収集（3） 第16回：中間発表会 第17回：データの入力と分析（1） 第18回：データの入力と分析（2） 第19回：データの入力と分析（3） 第20回：データの入力と分析（4） 第21回：論文執筆（1） 第22回：論文執筆（2） 第23回：論文執筆（3） 第24回：論文執筆（4） 第25回：論文執筆（5） 第26回：校正（1） 第27回：校正（2） 第28回：校正（3） 第29回：卒業研究発表会の準備 第30回：卒業研究発表会
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	調査・実験の実施やデータ処理、論文執筆等は各自のペースで自主的に進めること。 授業前学習：関連する論文を収集し資料にまとめる。＜2時間＞ 授業後学習：授業での発表時のコメントを踏まえ、資料の修正など次の段階に進む準備。＜2時間＞
授業方法	演習形式による授業と個別指導
評価基準と評価方法	・卒業論文　40%　到達目標（１）（２）に関する達成度の確認 ・卒業研究発表　30%　到達目標（３）（４）に関する達成度の確認 ・授業態度（ゼミ活動への参加・貢献度）　30%　到達目標（３）（４）に関する達成度の確認
履修上の注意	主体的に研究に取り組む姿勢が求められる。 「心理学研究法A/心理学演習A」および「心理学研究法B/心理学演習B」の2科目の単位修得済みであること。
教科書	なし

参考書	適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	黒崎　優美					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P04060
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	心理学の研究
授業の概要	「心理学研究法B」において作成した研究計画に基づき、研究を実践し、卒業研究を完成させます。 卒業研究の内容を発表し、ディスカッションを通して理解を深め、卒業論文を完成させます。 卒業論文の内容は、ゼミ内、及び全体での卒業研究発表会で発表し、互いの研究内容を共有します。
到達目標	(1)研究計画に基づき、適切な方法でデータを収集することができる。【態度・志向性】 (2)収集したデータを分析し、卒業論文としてまとめることができる。【知識・理解】 (3)研究の内容を分かりやすく発表し、質疑応答を行うことができる。【汎用的技能】 (4)仲間の研究内容や社会の問題に関心を持ち疑問や意見を発信することができる。【態度・志向性】
授業計画	第 1回　オリエンテーション（授業の進め方） 第 2回　研究計画書の確認と改善(1) 第 3回　研究計画書の確認と改善(2) 第 4回　研究計画書の確認と改善(3) 第 5回　研究計画書の確認と改善(4) 第 6回　研究計画書の確認と改善(5) 第 7回　研究の実践(1) 第 8回　研究の実践(2) 第 9回　研究の実践(3) 第10回　研究の実践(4) 第11回　研究の実践(5) 第12回　卒業論文の執筆(1)　執筆要項 第13回　卒業論文の執筆(2)　問題の書き方 第14回　卒業論文の執筆(3)　方法の書き方 第15回　中間発表 第16回　オリエンテーション（授業の進め方） 第17回　分析方法の検討(1) 第18回　分析方法の検討(2) 第19回　分析方法の検討(3) 第20回　データの整理と分析(1) 第21回　データの整理と分析(2) 第22回　データの整理と分析(3) 第23回　分析結果の見方(1) 第24回　分析結果の見方(2) 第25回　分析結果の見方(3) 第26回　卒業論文の執筆(4)　結果の書き方 第27回　卒業論文の執筆(5)　考察の書き方 第28回　卒業論文の執筆(6)　要約の書き方 第29回　卒業研究発表会(1)　ゼミ内 第30回　卒業研究発表会(2)　全体
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：文献購読、資料作成　＜２時間＞ 授業後学習：発表者へのコメント、資料の加筆修正　＜２時間＞
授業方法	講義、演習（グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション）
評価基準と評価方法	卒業論文と授業態度により評価をおこなう。 ・卒業論文　40%　到達目標(1)(2)に関する達成度の確認 ・卒業研究発表　30%　到達目標(3)(4)に関する達成度の確認 ・授業態度（ゼミ活動への参加・貢献度）　30%　到達目標(3)(4)に関する達成度の確認
履修上の注意	「心理学研究法A／心理学演習A」および「心理学研究法B／心理学演習B」の2科目の単位修得済みであること。 授業外時間も積極的に学び意見や質問をしてください。 グループワークやディスカッションに積極的に参加してください。

教科書	なし
参考書	適宜紹介します。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	黒崎　優美					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P04060
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	心理学の研究
授業の概要	「心理学研究法B」において作成した研究計画に基づき、研究を実践し、卒業研究を完成させます。 卒業研究の内容を発表し、ディスカッションを通して理解を深め、卒業論文を完成させます。 卒業論文の内容は、ゼミ内、及び全体での卒業研究発表会で発表し、互いの研究内容を共有します。
到達目標	(1)研究計画に基づき、適切な方法でデータを収集することができる。【態度・志向性】 (2)収集したデータを分析し、卒業論文としてまとめることができる。【知識・理解】 (3)研究の内容を分かりやすく発表し、質疑応答を行うことができる。【汎用的技能】 (4)仲間の研究内容や社会の問題に関心を持ち疑問や意見を発信することができる。【態度・志向性】
授業計画	第 1回　オリエンテーション（授業の進め方） 第 2回　研究計画書の確認と改善(1) 第 3回　研究計画書の確認と改善(2) 第 4回　研究計画書の確認と改善(3) 第 5回　研究計画書の確認と改善(4) 第 6回　研究計画書の確認と改善(5) 第 7回　研究の実践(1) 第 8回　研究の実践(2) 第 9回　研究の実践(3) 第10回　研究の実践(4) 第11回　研究の実践(5) 第12回　卒業論文の執筆(1)　執筆要項 第13回　卒業論文の執筆(2)　問題の書き方 第14回　卒業論文の執筆(3)　方法の書き方 第15回　中間発表 第16回　オリエンテーション（授業の進め方） 第17回　分析方法の検討(1) 第18回　分析方法の検討(2) 第19回　分析方法の検討(3) 第20回　データの整理と分析(1) 第21回　データの整理と分析(2) 第22回　データの整理と分析(3) 第23回　分析結果の見方(1) 第24回　分析結果の見方(2) 第25回　分析結果の見方(3) 第26回　卒業論文の執筆(4)　結果の書き方 第27回　卒業論文の執筆(5)　考察の書き方 第28回　卒業論文の執筆(6)　要約の書き方 第29回　卒業研究発表会(1)　ゼミ内 第30回　卒業研究発表会(2)　全体
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：文献購読、資料作成　＜２時間＞ 授業後学習：発表者へのコメント、資料の加筆修正　＜２時間＞
授業方法	講義、演習（グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション）
評価基準と評価方法	卒業論文と授業態度により評価をおこなう。 ・卒業論文　40%　到達目標(1)(2)に関する達成度の確認 ・卒業研究発表　30%　到達目標(3)(4)に関する達成度の確認 ・授業態度（ゼミ活動への参加・貢献度）　30%　到達目標(3)(4)に関する達成度の確認
履修上の注意	「心理学研究法A／心理学演習A」および「心理学研究法B／心理学演習B」の2科目の単位修得済みであること。 授業外時間も積極的に学び意見や質問をしてください。 グループワークやディスカッションに積極的に参加してください。

教科書	なし
参考書	適宜紹介します。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	小松　貴弘					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P04060
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業論文の作成
授業の概要	各自が選んだテーマに沿って研究を行い、卒業論文の作成に取り組む。報告とディスカッションを行いながら、研究を構想し、実施し、考察し、論理的で人に伝わる文章としてまとめあげることを目指す。
到達目標	（１）研究計画に基づき、適切な方法でデータを収集することができる。【態度・志向性】 （２）収集したデータを分析し、卒業論文としてまとめることができる。【知識・理解】 （３）研究の内容を分かりやすく発表し、質疑応答を行うことができる。【汎用的技能】 （４）仲間の研究内容や社会の問題に関心を持ち疑問や意見を発信することができる。【態度・志向性】
授業計画	第１回　オリエンテーション 第２回　研究計画（１）テーマ設定① 第３回　研究計画（２）テーマ設定② 第４回　研究計画（３）先行研究の調査① 第５回　研究計画（４）先行研究の調査② 第６回　研究計画（５）研究方法の検討① 第７回　研究計画（６）研究方法の検討② 第８回　研究計画（７）データ収集の計画① 第９回　研究計画（８）データ収集の計画② 第10回　実施準備（１）データ収集の準備① 第11回　実施準備（２）データ収集の準備② 第12回　実施準備（３）倫理的問題の検討 第13回　調査の実施（１）データ収集の実施① 第14回　調査の実施（２）データ収集の実施② 第15回　調査の実施（３）データ収集の実施③ 第16回　中間発表会 第17回　結果の整理（１）データの整理と分析① 第18回　結果の整理（２）データの整理と分析② 第19回　結果の整理（３）データの整理と分析③ 第20回　論文執筆（１）問題と目的① 第21回　論文執筆（２）問題と目的② 第22回　論文執筆（３）研究仮説と方法 第23回　論文執筆（４）結果の記述① 第24回　論文執筆（５）結果の記述② 第25回　論文執筆（６）考察① 第26回　論文執筆（７）考察② 第27回　論文執筆（８）残された課題 第28回　発表資料の作成（１） 第29回　発表資料の作成（２） 第30回　卒業研究発表会
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：研究テーマに関連する文献、先行研究論文等の調査と精読。＜２時間＞ 授業後学習：授業でのディスカッションを踏まえた再検討及び修正作業。＜２時間＞
授業方法	演習形式で行う。各自の発表に基づくディスカッションを通じて、研究テーマ、研究の進め方、研究方法、考察のあり方等について理解を深めていく。
評価基準と評価方法	・卒業論文　40%　到達目標（１）（２）に関する達成度の確認 ・卒業研究発表　30%　到達目標（３）（４）に関する達成度の確認 ・授業態度（ゼミ活動への参加・貢献度）　30%　到達目標（３）（４）に関する達成度の確認
履修上の注意	「心理学研究法A／心理学演習A」および「心理学研究法B／心理学演習B」の2科目の単位修得済みであること。 卒業研究に主体的に取り組み、さまざまな人々との対話を心がけること。
教科書	特になし。

参考書	適宜必要に応じて紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	坂本　真佐哉					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P04060
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業論文の作成
授業の概要	心理学演習Bで学生各自が決定したテーマについての調査・実験等の研究を行い，その成果を卒業論文としてまとめ上げる。
到達目標	(1)研究計画に基づき、適切な方法でデータを収集することができる。【態度・志向性】 (2)収集したデータを分析し、卒業論文としてまとめることができる。【知識・理解】 (3)研究の内容を分かりやすく発表し、質疑応答を行うことができる。【汎用的技能】 (4)仲間の研究内容や社会の問題に関心を持ち疑問や意見を発信することができる。【態度・志向性】
授業計画	第1回：卒業研究テーマの最終検討① 第2回：卒業研究テーマの最終検討② 第3回：卒業研究テーマの最終検討③ 第4回：中間発表会 第5回：研究方法の最終検討と予備調査① 第6回：研究方法の最終検討と予備調査② 第7回：研究方法の最終検討と予備調査③ 第8回：データの収集と入力① 第9回：データの収集と入力② 第10回：データの収集と入力③ 第11回：データの収集と入力④ 第12回：データの収集と入力⑤ 第13回：データの整理と仮分析① 第14回：データの整理と仮分析② 第15回：データの整理と仮分析③ 第16回：データの分析① 第17回：データの分析② 第18回：データの分析③ 第19回：論文の執筆①問題 第20回：論文の執筆②問題と目的 第21回：論文の執筆③方法 第22回：論文の執筆④結果 第23回：論文の執筆⑤結果と考察 第24回：論文の執筆⑥考察と引用等 第25回：卒業論文の初稿の提出 第26回：論文の修正① 第27回：論文の修正② 第28回：卒業論文の提出 第29回：卒業研究発表会の準備 第30回：卒業研究発表会
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：研究を進めていくために必要な文献や調査を自ら調べて，理解してまとめるとともに，研究計画書や論文を書き進める。＜学習時間：2時間＞ 授業後学習：発表資料やディスカッションの内容を踏まえ，研究計画書や論文を収集するとともに調査活動を行う。＜学習時間：2時間＞
授業方法	演習（ゼミ）形式を主とするが，適宜個別の指導を併用する。各回，発表者が先行研究や書籍の要約，もしくは関連する映像資料やワークのプレゼンテーションを行い，その内容について受講生と教員がディスカッションを行い，適宜補足の指導を行う。加えて，松蔭 manabaを用いて研究計画に関して受講生同士の相互チェックや教員による添削指導を行う。
評価基準と評価方法	・卒業論文　40%　到達目標(1)(2)に関する達成度の確認 ・卒業研究発表　30%　到達目標(3)(4)に関する達成度の確認 ・授業態度（ゼミ活動への参加・貢献度）　30%　到達目標(3)(4)に関する達成度の確認 ※ゼミ活動への参加度・貢献度は授業中の発言などを参考にし，欠席の場合には減点する。 発表資料や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに，個別指導を授業時間外に行うことで評価を伝え，改善点を提示する。
履修上の注意	「心理学研究法A／心理学演習A」および「心理学研究法B／心理学演習B」の2科目の単位修得済みであること。 ゼミ活動においては積極的に質問や意見を互いに出し合うことを求める。

教科書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。
参考書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	土肥　伊都子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P04060
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業論文を作成する。
授業の概要	カウンセリングや心理療法などの対人援助、人と人との関係性（親子関係やきょうだい関係、友人関係など）やコミュニケーション、病院臨床（心身症や精神疾患など）や学校臨床（不登校、発達障害など）などの領域の中から各自が選んだテーマについての考察を深め、卒業論文としてまとめることを目指す。
到達目標	(1) 心の問題の解決や改善のための方策を提案し、社会に貢献しようとする。【態度・志向性】 (2) 人の行動や心の状態を把握するための適切な方法について理解している。【知識・理解】 (3) 研究の内容を分かりやすく発表し、質疑応答を行うことができる。【汎用的技能】 (4) 仲間の研究内容や社会の問題に関心をもち疑問や意見を発信することができる。【態度・志向性】
授業計画	第1回　研究計画の検討①　テーマ（問題）の確認 第2回　研究計画の検討②　先行研究の確認 第3回　研究計画の検討③　目的の検討 第4回　研究計画の検討④　仮説の立案 第5回　研究計画の検討⑤　仮説の修正 第6回　研究計画の検討⑥　仮説の決定 第7回　研究計画の検討⑦　方法・手続きの立案 第8回　研究計画の検討⑧　方法・手続きの修正 第9回　研究計画の検討⑨　方法・手続きの決定 第10回　研究の実施 第11回　研究データの整理 第12回　研究データの集計 第13回　研究データの分析①　記述統計 第14回　研究データの分析②　推測統計 第15回　研究データの分析③　結果のまとめ 第16回　中間発表会 第17回　卒業論文の作成①　問題 第18回　卒業論文の作成②　目的 第19回　卒業論文の作成③　方法・手続き 第20回　卒業論文の作成④　図表 第21回　卒業論文の作成⑤　結果 第22回　卒業論文の作成⑥　考察 第23回　卒業論文の作成⑦　文献 第24回　卒業論文の作成⑧　要約 第25回　卒業論文の校正①　問題、目的、方法・手続き、図表、結果の修正 第26回　卒業論文の校正②　考察、文献、要約の修正 第27回　卒業論文の最終校正 第28回　卒業論文事前発表会の準備 第29回　卒業論文事前発表会 第30回　卒業論文発表会
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：選んだテーマに関する文献を検索し、関連する研究について論文にまとめるために情報収集を行う。（学習時間：2時間） 授業後学習：発表やディスカッションの内容の要点を確認・整理し、必要な修正を加える。（学習時間：2時間）
授業方法	ゼミ形式と個別指導を併用する。 研究テーマに関する文献について調べて発表し、ディスカッションを行う。適宜、必要事項について説明を行う。
評価基準と評価方法	・卒業論文　40%　到達目標(1)(2)に関する達成度の確認 ・卒業研究発表　30%　到達目標(3)(4)に関する達成度の確認 ・授業態度（ゼミ活動への参加・貢献度）　30%　到達目標(3)(4)に関する達成度の確認
履修上の注意	「心理学研究法A／心理学演習A」および「心理学研究法B／心理学演習B」の2科目の単位修得済みであること。
教科書	なし

参考書	適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	中村　博文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P04060
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業論文の作成
授業の概要	心理学演習Ｂで学生各自が決定したテーマについての研究を行い、その成果を卒業論文として提出する。
到達目標	(1) 研究計画に基づき、適切な方法でデータを収集することができる。【態度・志向性】 (2) 収集したデータを分析し、卒業論文としてまとめることができる。【知識・理解】 (3) 研究の内容を分かりやすく発表し、質疑応答を行うことができる。【汎用的技能】 (4) 仲間の研究内容や社会の問題に関心を持ち疑問や意見を発信することができる。【態度・志向性】
授業計画	#01：卒論ゼミの進め方についてのオリエンテーション #02：研究テーマの最終検討① #03：研究テーマの最終検討② #04：データ収集法の検討① #05：データ収集法の検討② #06：データ収集法の検討③ #07：データの収集① #08：データの収集② #09：データの収集③ #10：データの収集④ #11：データの収集⑤ #12：データのまとめ① #13：データのまとめ② #14：データのまとめ③ #15：データの分析① #16：データの分析② #17：データの分析③ #18：中間報告 #19：論文執筆① #20：論文執筆② #21：論文執筆③ #22：論文執筆④ #23：論文執筆⑤ #24：卒業論文初稿の提出 #25：論文修正① #26：論文修正② #27：論文修正③ #28：卒業論文の提出 #29：卒論発表会（ゼミ内） #30：卒論発表会（学科）
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各自の研究テーマに沿って、研究を進めること。
授業方法	演習形式。個別指導が中心となる。 研究の進行に沿って、経過報告を行う。
評価基準と評価方法	・卒業論文　40%　到達目標（１）（２）に関する達成度の確認 ・卒業研究発表　30%　到達目標（３）（４）に関する達成度の確認 ・授業態度（ゼミ活動への参加・貢献度）　30%　到達目標（３）（４）に関する達成度の確認
履修上の注意	「心理学研究法A／心理学演習A」および「心理学研究法B／心理学演習B」の2科目の単位修得済みであること。 各自が主体的に研究および論文執筆に取り組むことを求める。 特に、質問紙調査や実験など統計処理を必要とする研究を行う場合には、あらかじめ必要な統計処理の内容について充分な学習をしておくこと。

教科書	なし。
参考書	指導の過程で、適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	山本　竜也					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P04060
学期	通年／Full　Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	卒業研究の調査の実施、卒業論文の執筆を行う。
授業の概要	心理学研究法A・Bにおいて立案した研究計画に基づき、卒業研究を実施し、論文としてまとめる。また、その作業過程や成果を報告する。
到達目標	1. 研究計画に基づき、適切な方法でデータを収集することができる。【態度・志向性】 2. 収集したデータを分析し、卒業論文としてまとめることができる。【知識・理解】 3. 研究の内容を分かりやすく発表し、質疑応答を行うことができる。【汎用的技能】 4. 仲間の研究内容や社会の問題に関心を持ち疑問や意見を発信することができる。【態度・志向性】
授業計画	第1回　オリエンテーション・卒業研究実施スケジュールの確認 第2回　研究計画の発表(1) 第3回　研究計画の発表(2) 第4回　実験・調査実施準備(1) 第5回　実験・調査実施準備(2) 第6回　実験・調査の仮実施(1) 第7回　実験・調査の仮実施(2) 第8回　実験・調査方法の変更・改善(1) 第9回　実験・調査方法の変更・改善(2) 第10回　実験・調査の実施(1) 第11回　実験・調査の実施(2) 第12回　データ分析(1) 第13回　データ分析(2) 第14回　中間発表会 第15回　まとめ・講評(夏休み中の課題の説明) 第16回　論文執筆(序論1) 第17回　論文執筆(序論2) 第18回　論文執筆(結果1) 第19回　論文執筆(結果2) 第20回　論文執筆(結果3) 第21回　論文執筆(考察1) 第22回　論文執筆(考察2) 第23回　論文執筆(考察3) 第24回　問題、考察の発表と討論(1) 第25回　問題、考察の発表と討論(2) 第26回　要約・資料の完成 第27回　発表資料作成 第28回　ゼミ内発表会 第29回　発表資料修正 第30回　卒業論文研究発表会
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には、授業内で報告ができるように資料をまとめる（2時間） 授業後には、授業内での意見をもとに追加で資料などを調べ、まとめる（2時間）
授業方法	演習（ゼミ）形式。
評価基準と評価方法	卒業論文　40%　到達目標（１）（２）に関する達成度の確認 卒業研究発表　30%　到達目標（３）（４）に関する達成度の確認 授業態度（ゼミ活動への参加・貢献度）　30%　到達目標（３）（４）に関する達成度の確認
履修上の注意	「心理学研究法A／心理学演習A」および「心理学研究法B／心理学演習B」の2科目の単位修得済みであること。 積極的な授業への参加、自主的な活動を求める。
教科書	なし。

参考書	

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	対人援助の法律と制度（関係行政論）						
担当教員	中山　和彦					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P73020
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	公認心理師として働く上で重要かつ必要である法律の知識と制度を理解する。
授業の概要	社会においていかなる仕事をする上でも法律と制度に関する知識は必要であるが、仕事内容について専門性が高い公認心理師については特にその必要性が高い。 法律問題についての答えは決して一つではないことも多く、答えに悩むことも多いが、本授業においては、法律についての基本的な知識や考え方を習得し、実際に公認心理師として働き始めた場面を想像して、法律に関する問題を考える習慣と制度がどのようになっているかについての知識を身につけてもらいたい。
到達目標	「関係行政論」について国が定めた以下の基準に従う。 ①「保健医療分野に関係する制度」について説明することができる【知識・理解】 ②「福祉分野に関係する制度」について説明することができる【知識・理解】 ③「教育分野に関係する制度」について説明することができる【知識・理解】 ④「司法・犯罪分野に関係する制度」について説明することができる【知識・理解】 ⑤「産業・労働分野に関係する制度」について説明することができる【知識・理解】 また、以上に加え、 ⑥公認心理師に関係する法律を学ぶことにより、「心の問題の解決や改善のための方策を提案し、社会に貢献しようとする」ということができる【態度・志向性】
授業計画	各回の授業において、おおよそ教科書の1章から2章分を範囲として割り当てる。 第 1回　教科書第 1章「法・制度の基本と公認心理師」 　　教科書第 2章「公認心理師の法的立場と多職種連携」 第 2回　教科書第 3章「公認心理師の各分野への展開」 第 3回　教科書第 4章「保健医療分野に関係する法律・制度（1）医療全般」 第 4回　教科書第 5章「保健医療分野に関係する法律・制度（2）精神科医療」 第 5回　教科書第 6章「保健医療分野に関係する法律・制度（3）地域保健・医療」 第 6回　教科書第 7章「福祉分野に関係する法律・制度（1）児童福祉」 第 7回　教科書第 8章「福祉分野に関係する法律・制度（2）障害者・障害児福祉」 第 8回　教科書第 9章「福祉分野に関係する法律・制度（3）高齢者福祉」 第 9回　教科書第10章「教育分野に関係する法律・制度」 第10回　教科書第11章「司法・犯罪分野に関係する法律・制度（1）刑事」 第11回　教科書第12章「司法・犯罪分野に関係する法律・制度（2）家事」 第12回　教科書第13章「司法・犯罪分野に関係する法律・制度（3）少年非行」 第13回　教科書第14章「産業・労働分野に関係する法律・制度」 第14回　教科書第15章「法律が命の輝きを支えるために−心の健康・障害・多様性・危機をふまえて」 第15回　まとめとテスト
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には、授業で扱う予定の範囲（おおよそ教科書1章分）について教科書を読み、その内容をノートに簡単にまとめること。＜2時間＞ 授業後には、授業で取り扱った法律や制度、事例に関して、それぞれの問題点や授業で取り扱った事柄などを授業前にまとめたノー トに書き加えることで、知識・考え方の定着を図ること。＜2時間＞
授業方法	講義形式で行い、毎回授業後に簡単な小テストを実施することで授業内容の理解度を測る予定である。 小テストについては、次の授業の冒頭で解答と解説を行う。 また、理解が分かれる点については、manaba等を用いたディスカッション形式も取り入れ、法律と制度に関する知識の定着を図る。
評価基準と評価方法	平常点（毎回の小テスト）…30%　各授業で扱った内容に関する基本的な理解を問う。到達目標①から⑥に関する到達度の確認。 まとめのテスト…70%　授業で扱った内容に関する基本的な理解を問う。到達目標①から⑥に関する到達度の確認。
履修上の注意	教科書を使用するので、毎回下記の教科書を必ず授業に持参すること。
教科書	『関係行政論（第2版）』、元永拓郎編（法律監修　黒川達雄）、2021年、遠見書房、ISBN978-4-86616-105-1、(2800円+ 税)
参考書	授業時に適宜示す。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	対人コミュニケーション論						
担当教員	待田　昌二					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P42010
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	対面的コミュニケーション、特に非言語コミュニケーションの理解
授業の概要	我々は人と出会ったときにまず外見から、次いで言葉、表情、動作などから情報を得、 同時に自分自身も多くの情報を発している。情報の発信と解読はほとんど無意識的に行われている。 このような過程、特に非言語コミュニケーションについて学んでいく。人間のコミュニケーション の能力は進化の過程で獲得してきたものなので、動物のコミュニケーションと比較しながら理解を 進める。急速に変化する現代社会は人類の歴史において非常に特殊な社会である。例えば、ほぼ 全員が顔見知りというコミュニティーでの生活から、見知らぬ人間と頻繁に出会い新しい関係を作り 上げていく生活に変わった。このような現代社会のコミュニケーションについても考えていく。
到達目標	（１）対面的コミュニケーション、特に非言語コミュニケーションの種類と特徴及び対応する心の働きを説明できる。【知識・理解】 （２）日常の対面的コミュニケーション、特に非言語的な情報のやり取りを分析できるようになる。【汎用的技能】
授業計画	第1回　非言語的コミュニケーションの重要性、なぜヒトは顔にこだわるのか 第2回　姿かたちーなぜ様々な顔があるのか 第3回　姿かたちー顔立ちから性格はわかるか 第4回　姿勢としぐさー感情の伝達 第5回　姿勢としぐさー様々なしぐさ 第6回　表情ー基本的表情 第7回　表情ー笑いと表情の統制 第8回　情動反応 第9回　情動の誤帰属と目に表れる情動反応 第10回 目は心の窓：凝視と視線回避 第11回 対人距離 第12回 行動観察と達成度確認試験 第13回 嘘は見破れるか 第14回 装いの社会・心理的機能 第15回 社会的スキル 期末試験
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：　松蔭manabaで授業前に示す課題を行う（学習時間1時間） 授業後学習：　松蔭manabaで授業後に示す課題を行うとともに授業内容を試験に結実させるよう復習し、身近な問題に結び付けて考える（学習時間３時間）
授業方法	講義
評価基準と評価方法	授業前後の学習課題の評価　５０％、試験　５０％ 授業前後の学習課題の評価：授業前課題提出・出席と授業後課題(講義内容についてのコメント、質問)の内容・記述の的確さを評価する。到達目標（１）と（２）に関する到達度の確認。 試験：到達目標（１）と（２）の到達度の確認。 リアクションペーパーのコメント・質問等について、翌週授業で回答する。
履修上の注意	大幅な遅刻は出席と認めない。スマートフォンの電源オフなど授業マナーを守ること。 松蔭manabaで示す授業前学習、授業後学習を行うこと。
教科書	使用しない。
参考書	松蔭manabaにおいて紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	知覚・認知心理学						
担当教員	中尾　美月					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P12070
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	人の知覚・認知の特徴やしくみについて理解する
授業の概要	知覚と認知はどちらも「知る」機能に関わっている。人は「こころ」を通して外界を知覚し，対象を，世界を，そして自分自身を認知している。この授業では，知覚や認知の基礎的なメカニズムを学ぶことによって「こころ」の不思議さを実感し，人に対するより深い理解と関心を持つようになることを目指す。
到達目標	①人の感覚・知覚等の機序及びその障害について論じることができる。（知識・理解） ②人の認知・思考等の機序及びその障害について論じることができる。（知識・理解） ③人の知覚・認知について自らの考えをまとめることで，自分自身や他者に対するより深い理解と関心が得られる。（態度・志向性）
授業計画	第 1回　知覚・認知心理学とは 第 2回　知覚1　知覚の不思議 第 3回　知覚2　色の不思議 第 4回　知覚3　なぜ色が見えるのか 第 5回　知覚4　奥行き知覚 第 6回　記憶1　自由再生実験からわかること 第 7回　記憶2　感覚記憶と注意 第 8回　記憶3　短期記憶とワーキングメモリ 第 9回　記憶4　長期記憶 第10回　問題解決 第11回　知覚・認知の障害1　ストレスと認知 第12回　知覚・認知の障害2　うつ病と認知 第13回　知覚・認知の障害3　認知療法 第14回　まとめ 第15回　レポート解説
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：各回授業の最後に次回授業のキーワードを示すので，文献やインターネットを使って調べておく。（学習時間：60分） 授業後学習：授業で学んだ内容について，リアクションペーパーを作成する。（学習時間：120分）
授業方法	講義：基本的にパワーポイントと配付プリントで授業を進める。適宜，実習形式による体験学習を取り入れる。授業後，1週間以内にリアクションペーパー（授業内容についてのコメント・質問など）を作成し，manabaを使って提出することを求める。リアクションペーパーに書かれた内容については，その一部を翌週の授業で紹介・解説する。
評価基準と評価方法	リアクションペーパー50%：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問など）。到達目標①②に関する到達度の確認。 レポート50%：第14回ではリアクションペーパーではなくレポートの提出を求める。到達目標③に関する到達度の確認。
履修上の注意	基本的に，授業を聞きたい者にとって邪魔になる行為を禁止する。 私語は厳禁。私語で周りに迷惑をかける者には退場を命じることもある。
教科書	教科書は使用しない。毎週プリントを配付する。
参考書	参考文献は必要に応じて適宜紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	データ処理法						
担当教員	土肥　伊都子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P23050
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	SPSSを用いた，データの処理法の習得
授業の概要	社会意識を質問紙によって調査し，分析するための知識を習得することが，本講義の目的である．まず，受講生が各自の調査目的にそって社会意識を概念化し，分析モデルを立て，質問紙を作成する．尺度構成の方法についても習得する．次に，サンプルの調査データ（JGSS)を，受講生自身の問題意識にそって分析し，結果をまとめる．　また，多変量解析についても，JGSSデータをSPSSによって分析することを通して習得する．
到達目標	(1)　人の行動や心の状態、社会意識を把握するための適切な方法について理解している。【汎用性技能】 (2)　質問紙データを妥当な方法で分析，解釈，報告できる。【知識・理解】
授業計画	第１回　　オリエンテーション　質問紙調査の概要と二次分析 第２回　　質問紙調査の手順 第３回　　質問項目の作成と尺度　Googleフォームで質問紙作成 第４回　　データの入力と加工 第６回　　代表値とばらつき 第７回　　推定と検定、多重回答、ファイル分割、ケースの選択 第８回　　クロス集計、χ二乗検定、相関、ケースの重み付け 第９回　　平均値の差の検定 第１０回　一元配置の分散分析 第１１回　多元配置の分散分析、単純主効果の検定 第１２回　重回帰分析 第１３回　因子分析 第１４回　判別分析、クラスター分析 第１５回　筆記試験とまとめ
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	参考書の該当部分を予習しておく。(学習時間　２時間] 授業中の課題を各自で再度，データ分析しておく。(学習時間　２時間）
授業方法	SPSSを用いた，実習を交えながらの講義 毎回，プリントを配布する。
評価基準と評価方法	平常点（授業への積極的参加）30%　　到達目標(1)(2)に関する到達度の確認、 定期試験70%　　到達目標(1)(2)に関する到達度の確認、
履修上の注意	心理学科の専門科目の「心理学調査法」を履修していることを，履修の要件とする。 遅刻は厳禁。
教科書	なし
参考書	岩井紀子・保田時男　「調査データ分析の基礎」　有斐閣

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	ネット社会の心理学						
担当教員	村上　幸史					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P43030
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	ネット社会の心理学／情報社会の心理学
授業の概要	日常生活でわれわれは多くの情報に触れています。このように目や耳にする情報は、どのように伝わり、どのように受け取られるでしょうか。この講義ではその心理的特徴のうち、特に対人関係や信頼性の側面に注目して、いくつかの事例を通して解説をしていきます。
到達目標	情報の伝達や受け取り方について、自分なりに解釈できるようになる。【汎用的技能】
授業計画	第1回　オリエンテーション 第2回　情報の理論 第3回　うわさ（1）うわさの理論 第4回　うわさ（2）うわさと風評被害 第5回　ネットワーク（1）「ともだち」より 第6回　ネットワーク（2）6次のへだたり 第7回　SNSと対人関係（1）友人の希薄化理論と選択的関係 第8回　SNSと対人関係（2）返報性と社会的交換 第9回　流行 第10回　スケープゴーティング（1）攻撃行動と非難 第11回　スケープゴーティング（2）JR脱線事故と感染症の報道から 第12回　スケープゴーティング（3）不謹慎とは 第13回　予言とその心理（1）なぜ当たるのか、占いを例として 第14回　予言とその心理（2）予言と言霊の心理 第15回　まとめと試験 ※進行内容により、回数等を調整することがあります。
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	テーマあるいは講義の最後に、話したテーマの要点を配布または説明しますので、復習するようにしておいてください。この講義では覚えておくべき理論が大量にあるわけではないですが、その代わりに現実のニュースなどにも積極的に関心を持って触れておくこと（一日40分程度、新聞やネットニュースなどを読むようにすることが望ましい（学習時間:4時間））。
授業方法	講義形式 内容に応じてディスカッションを導入する
評価基準と評価方法	レポート（1回）、講義内での試験（1回）、各40%、講義中の課題20% いずれも到達目標に関する到達度の確認
履修上の注意	私語など他者に迷惑をかける行為は絶対に慎むこと。 状況により、退出してもらったり、以後の受講を認めないことがあります。
教科書	なし
参考書	「スケープゴーティング」　釘原直樹（編）　有斐閣

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	発達心理学A						
担当教員	呉　文慧					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P1202A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	生涯を通しての人間の心と認知の発達
授業の概要	人の生涯にわたる変化を扱うのが発達心理学であり、現在、その対象は生まれる前から死に至るまでを含む。 本講義では主に、新生児期から幼児期までの発達を中心に扱う。
到達目標	⑴誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達について学び、説明できるようになる【知識・理解】 ⑵認知機能の発達及び感情・社会性の発達について理解できるようになる【知識・理解】 ⑶自己と他者の関係の在り方と心理的発達について理解できるようになる【知識・理解】 ⑴～⑶は公認心理師カリキュラムにおける大項目。
授業計画	1 オリエンテーション 発達とは 2 発達の仕組みと様相 3 乳幼児発達心理学の研究法 4 遺伝と環境 5 胎児期・新生児期&中間テスト1 6 乳幼児期の運動発達 7 乳児期~知覚 8 乳児期~素朴物理学と素朴心理学 9 乳児期~情動・愛着の発達&中間テスト2 10 乳児期~コミュニケーションの芽生え1前言語期 11 乳児期~コミュニケーションの芽生え2言語期 12 幼児期~社会性の発達 13 幼児期~表象の獲得 14 まとめと期末試験 15 試験の講評と復習
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	発達心理学関係の教科書・テキスト(図書館に複数蔵書あり)を読んでおくこと。 授業前学習:授業で扱うトピックについての予習(2時間)。 授業後学習:授業で扱ったトピックについての宿題や復習(2時間)。
授業方法	講義を中心とするが、授業で扱うテーマについてグループで話し合いクラス全体に発表することを行うこともある。
評価基準と評価方法	授業態度及び小レポート50% 期末テスト&中間テスト50% 授業態度及び小レポート:授業でのグループディスカッション及び小レポートを総合的に評価する(到達目標(1)~(3)に関する到達度の確認)。 期末テスト:学期末に実施する(到達目標(1)~(3)に関する到達度の確認)。
履修上の注意	私語厳禁（私語が多かったり授業態度が悪いと判断されたら減点されます）　5回の欠席で、受講資格を失います。 *補講時間・場所などはポータルを確認のこと。 *欠席連絡・成績については、直接、授業前後に話に来てください。
教科書	問いからはじめる発達心理学（有斐閣） ISBN-13 : 978-4641150133
参考書	適宜紹介する

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	発達心理学B						
担当教員	呉　文慧					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P1202B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	生涯を通しての人間の心と認知の発達
授業の概要	人の生涯にわたる変化を扱うのが発達心理学であり、現在、その対象は生まれる前から死に至るまでを含む。 本講義では主に、児童期から高齢期の発達を中心に扱う。
到達目標	⑴誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達について学び、説明できるようになる【知識・理解】 ⑵認知機能の発達及び感情・社会性の発達についての理解できるようになる【知識・理解】 ⑶自己と他者の関係の在り方と心理的発達について理解できるようになる【知識・理解】 ⑷発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方が得られる【知識・理解】 ⑸高齢者の社会心理的課題及び必要な支援についての知識が得られる【知識・理解】 ⑴〜⑸は公認心理師カリキュラムにおける大項目。
授業計画	1 オリエンテーション これまでのおさらい 2 幼児期~言語の獲得 言語を獲得する準備 3 ことばと認知１語彙獲得の制約 4 ことばと認知２語用論 5 心の理論１他者理解の発達 6 心の理論２他者理解と抑制&中間試験1 7 児童期 認知発達 8 児童期 社会性発達 9 文化と発達１多言語の言語発達 10 文化と発達２外国の理解の発達 11 青年期 アイデンティティ&中間試験2 12 成人期１親になること 13 成人期２中年期~高齢期 14 まとめと期末試験 15 試験の講評と復習
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	発達心理学関係の教科書・テキスト(図書館に複数蔵書あり)を読んでおくこと。 授業前学習:授業で扱うトピックについての予習(2時間)。 授業後学習:授業で扱ったトピックについての宿題や復習(2時間)。
授業方法	講義を中心とするが、授業で扱うテーマについてグループで話し合いクラス全体に発表することを行うこともある。
評価基準と評価方法	授業態度及び小レポート50% 期末テスト&中間試験 50% 授業態度及び小レポート：授業でのグループディスカッション及び小レポートを総合的に評価する。 期末テスト：学期末に実施する。 上記の評価を総合的に評価したうえで到達目標(1)〜(5)に関する到達度の確認をする。
履修上の注意	私語厳禁（私語が多かったり授業態度が悪いと判断されたら減点されます） 5回の欠席で、受講資格を失います。 *補講時間・場所などはポータルを確認のこと。 *欠席連絡・成績については、直接、授業前後に話に来てください。
教科書	問いからはじめる発達心理学（有斐閣） ISBN-13 : 978-4641150133
参考書	適宜紹介する

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	被害者支援の心理学						
担当教員	大和田　攝子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P43080
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業のテーマ	被害者支援について学ぶ。
授業の概要	被害者支援において、法的な問題や経済的な問題と同様、心理的な問題が重要な位置を占めることは言うまでもない。しかしながら、被害者の心の問題に対する支援体制は未だ整っていないのが現状である。本講義では、まず被害者支援の歴史や被害者支援の現状を理解する。そして、犯罪被害者への心理的支援に関する基本的枠組みについて学習したうえで、さまざまな犯罪被害における心理的問題とその対応について解説する。さらに援助者が受けるストレスとその対応についても触れる。
到達目標	(1) 被害者の心理と支援について学ぶことで、実際に身近に起こったときにどのようにすればよいか考えることができる。【態度・志向性】 (2) 被害者支援に関する具体的な事例に触れることで、実際にどのような支援が行われているのかを説明することができる。【知識・理解】
授業計画	第1回：被害者支援とは 第2回：被害者支援の歴史 ～被害者はどのように扱われてきたのか 第3回：被害者の抱える心理的問題 ～二次被害とは 第4回：被害の体験を聴く（ゲスト・スピーカー招聘予定） 第5回：被害者カウンセリングの基本 第6回：トラウマとPTSD 第7回：PTSDの心理療法 第8回：質疑応答と試験① 第9回：遺族の心理的問題と対応 第10回：性暴力被害者の心理的問題と対応 第11回：虐待被害を受けた人の心理的問題と対応 第12回：ドメスティック・バイオレンス被害者の心理的問題と対応 第13回：援助者のストレスと対応 第14回：質疑応答と試験② 第15回：グループ発表とディスカッション
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業では小グループでの発表を予定しているので、被害者支援に関する具体的な事例を調べ、発表資料を用意する。＜2時間＞ 授業後学習：授業で取り上げた内容について要点を確認・整理する。＜2時間＞
授業方法	主に講義形式で授業を行うが、小グループによる発表とディスカッションを行う授業回もある。
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 試験 60%：授業で扱った内容に対する理解度について評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 発表 20%：発表内容により評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 平常点 20%：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問）などにより評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等については、翌週の授業で紹介・解説する。中間・期末試験の講評は翌週の授業で行う。グループ発表の講評は授業の最後に行う。
履修上の注意	1. 講義だけでなく、実習や小グループでの発表も行うので、授業への積極的な参加が求められる。 2. 2/3以上の出席に満たない者は、定期試験の受験資格を失うものとする。 3. グループ発表に関する注意事項は授業内で指示する。
教科書	プリントを使用する。
参考書	『犯罪被害者のメンタルヘルス』小西聖子（編著）誠信書房　ISBN978-4-414-40047-2

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	福祉心理学						
担当教員	山口　宰					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P32090
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	福祉心理学の理論と実践
授業の概要	福祉心理学は、児童・障害者・高齢者など、社会福祉の対象となる人たちが、肉体的、精神的、社会的にウェルビーイングな状態になることができるよう、心理学的手法を用いて支援することを研究する学問である。本授業においては、社会福祉の基礎知識と諸課題について学ぶとともに、福祉領域における心理社会的課題に対するアプローチのあり方について検討する。
到達目標	（1）福祉現場において生じる問題及びその背景について説明できる。【知識・理解】 （2）福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。【知識・理解】 （3）虐待についての基本的知識について説明できる。【知識・理解】 （4）福祉心理学とは何かを理解し、自身の「福祉観」を持つことができる。【知識・理解】 （5）福祉心理学を実践するための理論と方法を身につけることができる。【知識・理解】
授業計画	1.オリエンテーション：本講義で学ぶ内容、講義の進め方、成績評価の方法について、詳細に説明を行う 2.福祉現場における心理社会的課題とその背景：社会福祉のあゆみ・理念・制度 3.乳幼児期の養育の課題：乳幼児期の養育の現状について学ぶとともに、その課題について検討する 4.児童虐待の現状とその支援：児童虐待の現状を学び、その原因や支援方法について考える 5.社会的養護：社会的養護の現状と課題について学び、これからのあり方について検討する 6.発達障害の理解：発達障害に関する基礎知識を身につけるとともに、これからの支援のあり方について考える 7.いじめの現状と対策：児童期のいじめの現状について理解するとともに、その対策について考える 8.ノーマライゼーションの理念と福祉の実践：ノーマライゼーションの理念の成り立ちについて学び、その実践のあり方について考える 9.障害者福祉の現状と課題：障害者を支える福祉制度について学び、現場における心理社会的課題について検討する 10.共生ケアとその課題：富山型デイサービスから始まった共生ケアについて学び、これからのあり方について考える 11.高齢者福祉の現状と課題：高齢化の現状について学ぶとともに、現場における心理社会的課題について検討する 12.これからの認知症ケア：パーソンセンタードケアの理論と実践について学び、これからの認知症ケアのあり方を考える 13.介護現場における看取りとグリーフケア：介護現場における看取りの実際を学ぶとともに、グリーフケアのあり方について考える 14.スウェーデンの福祉と理念：福祉先進国スウェーデンにおける実践を取り上げ、国際的な視点から福祉の心理社会的課題について検討する 15.まとめ—これからの福祉心理学のあり方
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う内容について、参考書等で下調べをする（2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容について、参考書等で復習し、理解を深める（2時間）
授業方法	講義：授業テーマに関連する問題を出題し、ペアまたはグループによるディスカッションを行う グループワーク：授業テーマに関連するグループワークを実施し、その結果を踏まえた講義を行う 【実務経験のある教員等による授業】 社会福祉法人の経営者・コンサルタントとしての実務経験を持つ担当教員が、現場における事例の紹介や、実践的なディスカッションを交えて、福祉心理学の理論と実践を指導する。
評価基準と評価方法	授業ごとに提出するワークシート（30%）、期末レポート（70%）による ワークシートのコメント・質問等については、次回の授業で紹介・解説を行う
履修上の注意	授業への積極的な参加を期待する
教科書	授業中に指示する
参考書	「明日の福祉に希望の光を—オリンピアのノーマライゼーション」 （山口 宰・2013年・聖公会出版） 「福祉心理学の世界—人の成長を辿って」 （中山哲志・稲谷ふみ枝・深谷昌志編・2018年・ナカニシヤ出版）

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	臨床心理学概論A						
担当教員	中村　博文					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P1201A
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	臨床心理学とは何か
授業の概要	本講義では、様々な臨床心理学の基礎理論を学ぶとともに、具体的な心理学的問題をどのように理解し、その改善にどのように働きかけていくかについて学習する。また、臨床心理行為を行うために必要な教育・訓練、および倫理的問題についても学習する。
到達目標	(1) 臨床心理学の成り立ちについて説明できる。【知識・理解】 (2) 臨床心理学の代表的な理論について説明できる。【知識・理解】 (3) 臨床心理学という学問の特徴や基本的な概念について説明できる。【知識・理解】 (4) 臨床心理学と自らの生活との関連を見出し、その関連について論述できる。【態度・志向性】
授業計画	#01：オリエンテーション ― 臨床心理学とは何か #02：臨床心理学の基礎理論①：精神分析 #03：臨床心理学の基礎理論②：行動療法 #04：臨床心理学の基礎理論③：認知（行動）療法 #05：臨床心理学の基礎理論④：人間性心理学 #06：臨床心理学の対象①：神経症・精神病 #07：臨床心理学の対象②：人格障害 #08：臨床心理学の対象③：発達障害 #09：ライフサイクルと臨床心理学①：乳幼児期・児童期 #10：ライフサイクルと臨床心理学②：思春期・青年期 #11：ライフサイクルと臨床心理学③：成人期・老年期 #12：臨床心理学的アセスメント #13：臨床心理行為と倫理 #14：まとめ、試験 #15：試験解題
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習（2時間以上）：シラバスの授業計画にある用語について、書籍やインターネットを使って事前に調べておくこと（例：#01は「臨床心理学」、#02は「精神分析」、など）。 授業後学習（2時間以上）：授業で取り上げた内容について、確認整理をしておくこと。また、授業で紹介した参考文献を読んで、授業の内容についての理解を深めること。
授業方法	講義形式。 毎回の授業において、小レポート（その回の授業で学んだ内容に関する問いについて考えた回答、および質問、感想）を提出することを求める。 なお、提出された小レポートに対しては、次回の授業の冒頭で担当者がコメントを行う。
評価基準と評価方法	小レポート（14%）：毎回授業で求める小レポート。【到達目標(1)～(4)のいずれかについての到達度確認。どの目標の確認かについては、授業回によって異なる】 期末試験（86%）：客観式ならびに論述式の試験を行う。#!5に解答例を配付する。【到達目標(1)～(4)の到達度確認】
履修上の注意	毎回の授業で、資料を提示する。 私語など、他の受講生の迷惑となる行為については、厳しく注意する。態度が改まらない場合には退席を求めたり、以降の受講を不可とする場合もある。
教科書	なし。
参考書	授業内で、適時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	臨床心理学概論B						
担当教員	大和田　攝子					科目ﾅﾝﾊﾞｰ	P1201B
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	臨床心理学の基礎を学ぶ。
授業の概要	臨床心理学が対象とするさまざまな心理学的問題について広く学習し、それらの見立てに必要な基本的知識の習得を目指す。特に、ライフサイクルの視点から発達課題と関連して生じやすい問題・病理の特徴をおさえ、さらに具体的な事例を取り上げて、その理解と対応について学習する。
到達目標	(1) 各発達段階の心理学的特徴について説明することができる。【知識・理解】 (2) 各発達段階に生じやすい心理学的問題について具体的に説明することができる。【知識・理解】【態度・志向性】
授業計画	第1回：オリエンテーション ―臨床心理学の対象 第2回：乳幼児期・児童期の心理学的特徴 第3回：乳幼児期・児童期に生じやすい心理学的問題①：虐待 第4回：乳幼児期・児童期に生じやすい心理学的問題②：いじめ 第5回：思春期・青年期の心理学的特徴 第6回：思春期・青年期に生じやすい心理学的問題①：摂食障害 第7回：思春期・青年期に生じやすい心理学的問題②：対人恐怖 第8回：思春期・青年期に生じやすい心理学的問題③：ひきこもり 第9回：成人期・老年期の心理学的特徴 第10回：成人期・老年期に生じやすい心理学的問題①：自殺 第11回：成人期・老年期に生じやすい心理学的問題②：認知症 第12回：授業のまとめと試験 第13回：グループ発表とディスカッション① 第14回：グループ発表とディスカッション② 第15回：試験解題
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業で取り上げるテーマについて事前に調べる。また、授業で扱っていないテーマで、かつ各自が関心を持つ心理学的問題について調べ、発表資料を作成する。＜2時間＞ 授業後学習：授業で取り上げた内容について要点を確認・整理する。＜2時間＞
授業方法	主に講義形式で授業を行うが、小グループによる発表とディスカッションを行う授業回もある。
評価基準と評価方法	評価基準と評価方法 試験 60%：授業で扱った内容に対する理解度について評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 発表 20%：発表内容により評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 平常点 20%：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント・質問）などにより評価する。到達目標(1)および(2)に関する到達度の確認。 課題に対するフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等については、翌週の授業で紹介・解説する。期末試験の講評は最終回の授業で行う。グループ発表の講評は授業の最後に行う。
履修上の注意	1. 講義だけでなく、小グループによる発表も行うので、授業への積極的な参加が求められる。 2. 2/3以上の出席に満たない者は、定期試験の受験資格を失うものとする。 3. グループ発表に関する注意事項は授業内で指示する。
教科書	プリントを使用する。
参考書	授業中に紹介する。